

講義科目名称： フランス語 1

授業コード： 4361

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G15C28（1年生）	ナンバリング：G16C32（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に＜参加型＞の授業で、講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。 （授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。 （学習成果） ○B：積極的に自分から話すことができる、聞き取ることができる。 ◎E：社会で使えるよう、自分の進路・興味に合うシチュエーションを選び理解を深め、実践に繋げることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Lecon 1 オリエンテーション（対面） 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1 2 Lecon 2 アルファベ （対面） アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2 3 Lecon 3 敬称・自己紹介 （対面） 自己紹介「私は～です」 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う 数字(1～10) 4 Lecon 4 表現 （対面） 色々な表現 「ありがとう」 「どういたしまして」 「どうぞ」 「お願いいたします」等 数字(11～20) 5 Lecon 5 冠詞・名詞 （対面） 女性名詞、男性名詞、リエゾンの仕組み 曜日 6 Lecon 6 主語人称代名詞と動詞 （対面） 動詞の活用 文章を作る je/tu/il/elle/nous/vous/ils/elles 7 Lecon 7 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 1～6の復習 8 Lecon 8 動詞 etre / avoir （対面） 不規則動詞の活用 etre 自己紹介（国籍・職業） avoirの様々な表現 場所を表す前置詞 9 Lecon 9 部分冠詞 du / de la / des / de l' （対面） 表現「～がある」 語彙 10 Lecon 10 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 8～9の復習
------	--

	11 Lecon 11 er 動詞 (対面) 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 12 Lecon 12 疑問文・否定文 (対面) 「～ですか？」疑問文 「～ではありません」否定文 13 Lecon 13 形容詞の性と数 命令文 (対面) 男性形、女性形、複数形の作り方 「～しなさい」命令文 14 Lecon 14 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 総復習 15 Lecon 15 期末口頭試験 (対面)
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：積極性を持って取り組むことができる。 ◎E：学習内容を理解し、演習することができる。
事前・事後学習	毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度) 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く。(30分程度)
指導方法	教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語を身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：授業内質疑応答で評価する。 ◎E：口頭試験で評価する。 授業での課題30% 授業への貢献度30% 口頭試験40%
テキスト	Nouveau Ken et Julie 1 (駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布
参考書	講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社
履修上の注意	フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。また、オンデマンド授業は復習回の為、分からない時は何度も視聴して活用しましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ホテル、空港、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間で社会で使える基礎フランス語を身に付ける。 また学年末には実用フランス語検定5級にもトライできる学力を身に付ける。
アクティブ・ラーニング、PBL	ロールプレイ、ペアワーク

講義科目名称： フランス語 2

授業コード： 4391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G26C33	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に＜参加型＞の授業で、講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。 （授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。 （学習成果） ☐ B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 ☒ E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Lecon 1 色々な動詞（対面） 「動詞： 好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(20～30) 2 Lecon 2 不規則動詞・指示形容詞（対面） vouloir 「～したい」 pouvoir 「～できる」 prendre 「とる、食べる、乗る」 attendre 「待つ」 数字(30～40) 3 Lecon 3 不規則動詞・前置詞+冠詞の縮約（対面） aller 「～へ行く」 venir 「～から来る」 数字(40～50) 4 Lecon 4 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 1～3の復習 5 Lecon 5 疑問副詞 近い未来形・近い過去形・疑問代名詞（対面） 疑問文「いつ」「どこで」「どのように」「いくら」「なぜ」？「誰が」？ aller+動詞の原形 venir de+動詞の原形 数字数字(50～60) 6 Lecon 6 不規則動詞・時を表す前置詞（句）（対面） faire 「する」 partir 「出発する」 数字(60～70) 7 Lecon 7 時刻や天候など日常表現（対面） 「何時？」「…時」お天気は？ il faut 「～しなければならない」 数字(70～80) 8 Lecon 8 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 5～7の復習 9 Lecon 9 疑問形容詞・不規則動詞・目的語代名詞（対面） 「どの～」 「どれ～」 devoir 「～しなければならない」 lire 「読む」 connaître 「知っている」 数字(80～90) 10 Lecon 10 代名動詞・不規則動詞（対面） voir 「見る」
------	---

	savoir「知る」 数字(90～100) 11 Lecon 11 過去形 avoir / etre (対面) 「～をした」 12 Lecon 12 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 9～11の復習 13 Lecon 13 総復習回 実践フランス語 revisions+supplement (対面) 料理・メニューを読み取ろう フランス料理の特殊な言い回し カフェ・レストランでの注文 お店での買い物 14 Lecon 14 復習回 Revisions +supplement 実用フランス語検定5級練習問題 (対面) 仏検に挑戦しよう！ 15 Lecon 15 期末試験 (対面)
到達目標・基準 C評価になる基準	学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。 ○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度) 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く(30分程度)
指導方法	教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語を身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 ◎E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題30% 授業への貢献度30% 口頭試験40%
テキスト	Nouveau Ken et Juliet (駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布
参考書	講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社
履修上の注意	フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。また、オンデマンド授業は復習回です。分からない時は何度も視聴して活用しましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ホテル、空港、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間で社会で使える基礎フランス語を身に付けましょう。 また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

講義科目名称： 世界の遺産

授業コード： 4161

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：鈴木かの子）			
ナンバリング：G13C16（1年生）	ナンバリング：G14C20（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。 （授業目標） 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。 （学習成果） ☐ C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を自ら学び理解を深めることができる。 ☐ C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ☒ D：世界遺産検定3級レベル試験で80%以上の得点を取得することができる。
授業計画	1 世界遺産の基礎知識1【対面】 2 世界遺産の基礎知識2【対面】 3 日本の世界遺産1【対面】 4 世界遺産で取り組む探求(PBL)【オンデマンド】 5 日本の世界遺産2【対面】 6 日本の世界遺産3【対面】 7 世界遺産の基礎知識 日本の遺産 まとめ【オンデマンド】 8 世界の文化遺産1【対面】 9 世界遺産を訪れるツアー企画1(グループワーク、PBL)【対面】 10 世界遺産を訪れるツアー企画2(グループワーク、PBL)【対面】 11 世界の文化遺産2【対面】 12 世界の文化遺産3【対面】 13 検定直前確認テスト【オンデマンド】 14 世界の文化遺産4【対面】 15 世界の自然遺産 総まとめ【対面】
到達目標・基準 C評価になる基準	☐ C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」について基本的な理解を深めることができる。 ☐ C：世界の動きに対して、自ら学び理解を深めることができる。 ☒ D：世界遺産検定3級レベル試験において、十分な理解を示すことができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。（90分）

	事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。（90分）
指導方法	指導方法： テキストとスライド画像、講義資料（プリント）を用いて、講義を進めます。 内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。 フィードバックの方法： リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをします。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験、あるいは検定に準じる試験で評価する。 ○C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。 ◎D：検定試験、あるいは検定に準じる試験の結果を評価する。 検定試験、あるいは検定に準じる試験：60% 授業貢献度（自分の意見）：20% 検定試験直前確認テスト：20%
テキスト	きほんを学ぶ世界遺産100＜第5版＞ 世界遺産検定3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集3・4級＜2025年度版＞
参考書	
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

講義科目名称： 心理学

授業コード： 4111 4112

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
ナンバリング：G13C11（1年生）	ナンバリング：G14C15（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業概要） 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。 （授業目標） 日常生活の様々な物事や感情を心理学の視点から捉え、理解すること。 （学習成果） ○A：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につけることができる。 ◎D：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考え行動できる力を身につけることができる。
授業計画	1 オリエンテーション【対面】 心理学とはどのような学問か？ 2 動機付け【対面】 “やる気”のこころの働きを知る（PBL） 3 感覚・知覚・認知【対面】 人はどのように環境や情報を捉えているのか 4 発達【対面】 人の発達を学ぶ（青年期特有の心理発達を中心に） 5 対人関係と恋愛心理【対面】 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 6 対人関係とコミュニケーション①【対面】 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える（PBL） 7 社会の中の心理【対面】 人の態度（考え・評価）が変わるときとは 8 集団の心理【対面】 集団の力で起こる心理を学ぶ 9 ストレスの心理学【対面】 ストレスの仕組みと対処を考える 10 心理療法から学ぶ【対面】 捉え方の工夫を学ぶ（PBL） 11 勉強を頑張るコツ【対面】 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 12 対人関係とコミュニケーション②【対面】 人の話を上手に聴く方法を考える 13 マインドフルネス【オンデマンド】 マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ ・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定） 14 性格【オンデマンド】 「人生の木」から見つめなおす ・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定） 15 心理テスト体験と最終レポート課題説明【オンデマンド】 学んだことを生活に取り入れ身につける

	・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定）
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎D：日常生活で当たり前として考えることのなかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉え行動することができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。（90分） 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。（90分）
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で全体に向けて回答、または学生に問いかけて解決していく。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 ◎D：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。 心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業

講義科目名称： 行動経済学

授業コード： 4181 4182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G12C06	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 「行動経済学」は心理学の要素を取り入れた新しい経済学の分野であり、人間が無意識に行う不合理な判断や行動を解明するものだ。人間心理を把握すれば、自分自身や周囲の人の行動をより良い方向に導くことができる。既に現実社会において、社会問題やビジネス課題の解決に活用されている。本講座では行動経済学の基本である、不合理な判断や行動のパターンをについて理解する。その知識をふまえて現実の課題解決における活用方法を考えていく。 (授業目標) 行動経済学とは何か、不合理な行動の基本的なパターンを理解し、不合理な行動を避け、より良い行動を促すことができる。 (学習成果：S評価になる基準) ○C：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関する課題を把握し、将来における不合理な行動を予測し、より良い行動を促す方法を考えられる。 ◎D：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理な判断や行動のパターンの背景や原因に関して、行動経済学の法則を用いて説明できる。
授業計画	1 全体概要の解説／行動経済学とは何か 行動経済学の歴史、経済学との違い、人間のとらえ方、行動経済学を学ぶメリットを理解する。 ※対面での講義を予定 2 ナッジ ナッジの提唱者と基本的な考え方、環境問題、健康問題など現実社会での活用事例を理解する。 ※対面での講義を予定 3 ヒューリスティック① 短時間で手近な結論で判断を下す「ヒューリスティック」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「利用可能性ヒューリスティック」「代表性ヒューリスティック」等 ※対面での講義を予定 4 ヒューリスティック② 判断を左右する「ヒューリスティック」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ハロー効果」「確証バイアス」「平均への回帰」等 ※対面での講義を予定 5 プロスペクト理論① 価値の変化と人の反応に関する「プロスペクト理論」に関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「損失回避」「保有効果」「現状維持バイアス」等 ※対面での講義を予定 6 プロスペクト理論② 損失を避けようとして、より大きな損失を生む「プロスペクト理論」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「イケア効果」「確実性効果」「保険文脈」等 ※対面での講義を予定 7 フレーミング① 対象の見せ方で見ると人の判断や選択が変わる「フレーミング」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「サンクコスト効果」「決定麻痺」等 ※対面での講義を予定 8 フレーミング② 人の見方を誘導し判断を狂わせる「フレーミング」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ツァイガルニク効果」「ウィンザー効果」等 ※対面での講義を予定

	9 時間割引 手に入れるタイミングで価値が変わる「時間割引」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究、現実社会の事例について理解する。 主な理論：「現在志向バイアス」「上昇選好」等 ※対面での講義を予定 10 その他の行動経済学の法則① 「自分を高く評価したい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「認知的不協和」「コントロール幻想」「一貫性の原理」等 ※対面での講義を予定 11 その他の行動経済学の法則② 「他から良く評価されたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「バーナム効果」「フォールスコンセンサス効果」「ピグマリオン効果」等 ※対面での講義を予定 12 その他の行動経済学の法則③ 「社会や周囲に合わせたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「同調効果」「バンドワゴン効果」「準拠集団」等 ※対面での講義を予定 13 行動経済学に基づくマーケティング等の現象の解釈 現実社会においてビジネスの成否を左右する心理的バイアスの事例と、成功や失敗の要因を理解する。 事例：ソーシャルゲーム、ネットオークション、ボイ活 等 ※オンデマンド動画での受講を予定 14 行動経済学における法則の総復習① 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。 ※オンデマンドでの回答、解説はオンライン動画で実施予定 15 行動経済学における法則の総復習② 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。 ※オンデマンドでの回答、解説はオンライン動画で実施予定
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関する現状を認識し、課題として定めることができる。 ◎D：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関して関心を持ち、自ら学び理解を深めることができる。
事前・事後学習	事前学習として、日常的に「不合理な行動」がないか注意を払い、課題認識する。（事前90分程度） 事後学習として、講義内容をふまえて不合理な判断や行動のパターンについて、自ら理解内容を確認する。課題が出た際は期限に合わせて作成や提出を行う。（事後90分程度）
指導方法	講義によるインプットを中心に行う。毎回詳細なカラーの資料を用意して、テーマに対する関心を持つよう促す。口頭での解説のみではなく、「不合理さ」に関連した動画を用意し多様な手法で理解を促す。理解度を測る確認テストを都度行う。小テストおよびその解説によって理論の理解を深める。 フィードバックの仕方：直後から事後までさまざまなタイミングで、理解度を高める資料提供等、複数の方法により行う。授業中に数回にわたり質問の有無を尋ねる、メールやクラスルームでの質問を受け付けるなど、理解不足を補う体制を維持する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：小テストの結果に対する評価を中心に不合理さへの対応に関する理解度や対応力を評価する。 ◎D：授業ごとに都度行う確認テストを中心に行動経済学の基本に関する理解度を評価する。 都度行う確認テスト40%、小テストの結果 30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布または共有する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンを推奨。代替手段としてスマホは必携。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める。
履修上の注意	人間心理に対する好奇心や関心をもっていることが必要。 パソコン推奨。代替手段としてスマホは必携。 受講者の人数、問題意識の程度により、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	個人ワーク、Googleを用いたワークなど様々な形で、受講者の人数、教室の構造などの状況に応じて適宜行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C13（1年生）	ナンバリング：G14C17（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養い、専門科目の学びを深め、発展させることに役立てる。 （授業目標） ペアワーク等かわりを通して課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め、社会で活用できる日本語の力を身につける。 （学習成果） ○D：受信した情報から取捨選択し要点をとらえ、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解し、活用することができる。
授業計画	1 敬語（ペア・ワーク）【対面】 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 敬語について ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 2 感じの良い話しかた（ペア・ワーク）【対面】 コミュニケーションの基礎（日本語の音声） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 3 手紙・メールの書きかた（ペア・ワーク）【対面】 コミュニケーションの基礎（文章表現、待遇表現） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 4 母語の大切さ（ペア・ワーク）【対面】 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 5 オノマトペ（ペア・ワーク）【対面】 豊かな言語生活のために ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 6 辞書のいろいろ（1）（ペア・ワーク）【オンデマンド】 辞書の特色について ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 7 辞書のいろいろ（2）（ペア・ワーク）【対面】 図書館での辞書比較 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 8 説明のしかた（ペア・ワーク）【対面】 情報提示の順序を学ぶ論理的文章の書きかた（中級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 9 絵の分析（ペア・ワーク）【対面】 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 10 テキスト分析（1）（ペア・ワーク）【オンデマンド】 論理的文章の書きかた（初級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 11 テキスト分析（2）（ペア・ワーク）【対面】 論理的文章の書きかた（中級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 12 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク）【対面】 社会人としての言語運用能力 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 13 対義語（ペア・ワーク）【対面】 ニュアンスの違いを学ぶ ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 14 日本語の文字(1)（ペア・ワーク）【対面】 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）

	15 日本の文字(2)【オンデマンド】 私たちが使用する文字の由来(2) ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（30分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（30分程度）
指導方法	ペアワーク（対話）を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：ペアワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 ◎E：確認テストによって評価する。 確認テスト60%、課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペアワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、ディスカッション、PBL型授業

講義科目名称： トータルコーディネート演習

授業コード： 1191 1192 1193 1194

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C08	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) その人らしい装いには、骨格のプロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど、多くの情報を同時にまとめるための知識と構成力が必要である。なりたい自分のイメージを明確にし、トータルコーディネートの実践的な力を身につける。多くの要素をまとめる力は、他人へのコーディネート提案に応用ができる。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、個性を生かしたトータルコーディネート提案ができる。 (学習成果) ◎C：トータルコーディネートに関わる多くの情報を理解し、なりたい自分のイメージを明確にし実践できる。 ○E：骨格プロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど多くの情報を同時にまとめる方法を理解できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ファッション用語（１） コーディネートを構成する多くの情報とは ファッション用語のカテゴリー10分類 カテゴリーごとの用語例 2 ファッション用語（２） コーディネート写真の説明文の用語を分析 3 ファッション用語（３） プレゼンテーション PPT「コーディネート用語」 1人2分間のプレゼンテーション 4 骨格スタイル分析（１） 体型の長さのプロポーション診断 5 骨格スタイル分析（２） 体型の幅と傾斜のプロポーション診断 6 骨格スタイル分析（３） 多くの情報を同時にとらえるための共通のものさし 理想のプロポーションに近づけるためのコーディネート方法 体型補正のコーディネート方法 7 パーソナルカラー（１） 色の3属性による6つの得意な要素 4つのタイプ分類 パーソナルカラー診断の準備 8 パーソナルカラー（２） カラーペーパーによるパーソナルカラー診断 9 パーソナルカラー（３） ドレープによるパーソナルカラー診断① 10 パーソナルカラー（４） ドレープによるパーソナルカラー診断② 11 パーソナルカラー（５） ドレープによるパーソナルカラー診断③ 12 パーソナルカラー（６） 診断結果まとめ 4つのタイプ、6つの得意な要素による自分の色素の特徴 13 パーソナルカラー（７） 自分らしさを生かす色、形、質感 パーソナルカラーの取り入れ方 14 なりたい自分のイメージ（１） アイデンティティによるイメージ分析
------	--

	15	PPT「自分らしいファッションとは」 なりたい自分のイメージ（2） プレゼンテーション PPT「自分らしいファッションとは」 1人2分間のプレゼンテーション
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：トータルコーディネートに関わる情報を理解し、実践を試みることができる。 ○E：骨格プロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど多くの情報を理解できる。	
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し予習（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。	
指導方法	トータルコーディネートに必要な多様な診断方法を紹介し、学生自ら考え分析し実践し構成できる実践力が身につくように指導する。 提出課題ごとに、よかった点、改善点について個別にコメントする。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：各課題ごとに採点し評価する。 ○E：各回の授業態度と、各課題ごとの成績で評価する。 課題70%、プレゼン10%、授業態度・貢献度20%	
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級〔改訂新版〕」 「新配色カード199a」（すでに購入したものを紛失したり、カードが少なくなった場合は購入すること。）	
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」	
履修上の注意	「カラーコーディネート論」「カラーコーディネート演習」の単位を取得していることを条件とする。また、2年後期『服飾芸術科プロジェクト演習B（カラー診断）』は、本科目を履修していることが履修の条件となる。 ふだんから、いろいろな人の身体（肌、目、髪）の色、顔型や体型、いろいろなファッション商品のデザイン（色、形、素材）を見比べて、違いを見分けられるよう興味をもつ。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク プレゼンテーション	

講義科目名称： ホスピタリティ論

授業コード： 1021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F21A01	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 社会人のビジネス上の大きな悩みは「人間関係」です。学生でも学校生活の中で人間関係に悩む事が少なくないはず。このホスピタリティ論は、単なるマナーや礼儀作法ではなく、「コミュニケーション力」を上げるための理論を学びます。講師が代表理事を務める(一般社団法人)日本ホスピタリティ協会が30年以上研究、検証してきたホスピタリティの考え方をベースにしたコミュニケーションスキルが身につく授業です。ホテル、ウェディング、ファッション、ビューティ、医療、金融、建設など多くの大手企業の評価を受けてきたホスピタリティ認定講座と同様の内容を授業で学ぶ事ができます。同時に、戸板の学生にしか提供できないカスタマイズした授業設計になっています。この講義からたくさんの魅力的なホスピタリエが誕生する事を願っています。 単位習得者は、ホスピタリエ認定講受講者の資格を習得でき、ホスピタリエ認定試験を受験する事もできます。 (授業目標) ホスピタリティの持つフラットな考え方をもとに、ユニバーサルな視点を育む。本学の校訓である「知好楽」の意味を授業を通じて理解し、大学ならではの知識教養を身につける。 (学習成果) ◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、日常生活に活かす事ができる ◎C：個別対応が基本となる事の必要性を理解し、日常生活のシーンで「THEの対応」を考え出す事ができる
----------------------------------	--

授業計画	1 ホスピタリティの必要性 ホスピタリティは何故必要なのか？ 2 共感力とは何か？ 共感力の概念の理解と事例紹介 3 ホスピタリティ理論（１） ホスピタリティのファーストステップの概念と国際感覚 4 ホスピタリティ理論（２） ホスピタリティのセカンドステップの概念と３つの効果 5 ホスピタリティ理論（３） ホスピタリティの二つのアビリティ 右脳編 6 ホスピタリティ理論（４） ホスピタリティの二つのアビリティ 左脳編 7 ホスピタリティ理論（５） THEのコミュニケーションの作り方 8 想定能力と水平思考 かもしれないゲームによる想定能力の磨き方 9 共感力を高める知識教養とナレッジツリー 教養とは何か？知識教養の広げ方と楽しみ方 10 共感力会話（１）グループワーク 共感力を使った二つの会話スキル 11 共感力会話（２）グループワーク 共感力を使った質問手法を知る 12 ファッション業界事例 ファッション業界で活かせるホスピタリティ 13 ビューティ業界事例 ビューティ業界で活かせるホスピタリティ 14 総まとめと総合確認テスト 授業の総まとめと総合確認テストの実施 15 テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 総合確認テストの内容の解説と就職活動や日常生活にどうホスピタリティを活かしていくか
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、自分の言葉で説明することができる ○C：ホスピタリティのセカンドステップの重要性を理解し、自分の言葉で説明することができる
事前・事後学習	◎D：リーディングワークシートに沿ってテキストの指定されたページを熟読した上でシート記入をし、内容を整理する。(90分) ○C：毎回の課題に取り組む。授業で学んだコミュニケーションシーンを自分の別の日常生活に置き換え記録しておく(90分)
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用いた講義形式を中心とし、グループディスカッションを通じて毎回の課題を授業内でまとめる。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ホスピタリティ理論を正しく理解しているか C：ホスピタリティ理論を基に具体的な行動に導くことができるか 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト1回(14回目) 25%
テキスト	ホスピタリティ・コミュニケーション ～ホスピタリエ認定講座テキスト～ 日本ホスピタリエ協会
参考書	なし
履修上の注意	単位取得者は(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会認定資格「ホスピタリエ」の認定講座修了者として認められホスピタリエ認定試験の受験資格が得られる。 服飾芸術科の学びの根幹となる考え方であるため、授業内で「考える姿勢」を持つ事。 ホスピタリティの学びの場であるため、教室内のホスピタリティにも気を配る事。 ディスカッションタイムも多いため、積極的に他学生とのコミュニケーションを取り、主体性を持って授業に臨む事。
アクティブ・ラーニング、PBL	授業内でグループに分かれてワークショップをする。毎回クラスルームに提出し、その内容を次回の授業内で共有する。講師と学生、学生同士の意見交換をする事により、深い思考を促す。

講義科目名称： 経営学入門

授業コード： 1541

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F12C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 2020年代以降、働き方は多様化しています。そんな時代を生きる学生のみなさんが、起業や経営についての知識を学ぶことは、未来の選択肢を広げる第一歩となります。一見難しそうに思える起業や経営のテーマも、学生のみなさんの視点に立ち、楽しく学べる講義です。さらに、企業についての基礎知識を得られるため、就職活動にも役立ちます。15回の授業の中では、4つのアワードを受賞する機会も用意されています。 （授業目標） 身近なファッション、ビューティ、ウエディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を身に付ける。 （学習成果） ◎D：起業と経営に必要なマーケットデータを元に顧客のインサイトを理解し、それをもとに新たな価値を持つビジネスプランを作る事ができる ○C：興した会社の継続維持のために、目標と計画を立て、起こりえる課題を想定し、それに対する対応策の準備ができる
----------------------------------	---

授業計画	1 【The Endless Potential of Work Styles】働き方の無限の可能性～ 多様な働き方から起業経営という視点を学び自分の働き方の可能性を知り自己のライフデザインに選択肢を増やす employeeとemployerという、ee, erたった一文字の違いが正反対の働き方を表現している、という気づき 2 【Two Crucial Documents for Launching a Business】起業経営に必要な二つの重要なビジネスドキュメント～ 2つのドキュメントから起業と経営の関連性と違いについて区別した上で起業経営の基本的な思想に触れる アントレプレナーとイントラプレナー managing director (CEO) Startup business plan Business plan 3 【Business Idea Development】ビジネスアイディアを考えてみよう～ 起業するにあたり、最初の作業であるビジネスアイディアディベロップメントの手法を学ぶ 5つの答え合わせ ブレインストーミング 経営学ミニテスト① 4 【Business Asset】起業に必要な資産とは～ アントレプレナーに必要な資産の種類と資産形成の手法を学ぶ コーリレーションチャート 5つの資産 5 【Market Research & Industry analysis】ビジネスの可能性を確かめよう～ ビジネスの可能性を知るための市場調査と業界分析の手法を学ぶ 6 【Business Model Development】ビジネスモデルを考えてみよう～ 「どんな会社を立ち上げるのか？」を具体化していく 経営学ミニテスト② アワード①ビジネスモデル募集 7 【Business Model Development】決定！このビジネスモデルで起業します～ 「こんな会社を立ち上げる」が形になり、履修者全員が起業家の意識を持つ アワード②社名募集 アワード①ビジネスモデル発表 8 【Business Plan Creation】起業に必要なドキュメントを書いてみよう～スタートアップビジネスプランの構成と書き方を学ぶ アワード②社名発表 9 【Product Development】商品ラインナップを考えてみよう～ 商品企画の基本とラインナップ、ライセンシングの作成手法を学ぶ 経営学ミニテスト③ 10 【Product Development】商品ラインナップを完成させよう～ 商品ラインナップのまとめ方とライセンシング
------	--

	アワード③ロゴマークデザイン募集 11 【Funding】起業に必要なお金を集めよう～ 資金調達の種類と制度について学ぶ アワード③ロゴマークデザイン発表 12 アワード④チラシデザイン募集 【Business Launch & Operations】起業家が経営者になるには～ 経営の3つの役割と組織作りの手法を学ぶ 経営学ミニテスト④ 13 【Business Launch & Operations】経営に必要なドキュメントを書いてみよう～ ビジネスプランの種類と作成の仕方を学ぶ 14 【Summative Assessment】講義のまとめと確認総テスト アワード④チラシデザイン発表 15 【Celebrating the Birth of Entrepreneurs】テストのフィードバックとホームページの共有 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ビジネスプランを作る手法を知り、ビジネスのインサイトを探る視点を理解できる ○C：企業の存続維持が経営の原点である事と、組織の仕組みを理解できる
事前・事後学習	事前学習：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句について調べておく（90分） 事後学習：前回の授業で出た課題を行う（90分）
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がないことが多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答（オンラインでも実施）
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業内コミットメント度・レポート課題の提出率と内容、総合確認テストによる評価 ○C：授業内コミットメント度・レポート課題の提出率と内容、総合確認テストによる評価 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト1回(14回目) 25%
テキスト	ベーシックマネジメントスタディーズ 一般社団法人 日本ホスピタリエ協会 アントレプレナーとイントラプレナーのためのスタートアップマニュアル 一般社団法人 日本ホスピタリエ協会
参考書	無し
履修上の注意	対面授業が基本だが、月1回オンデマンドで授業を行う。詳細は授業計画に記載、及び初回授業で説明をする。 資料作成やグループディスカッションなど主体的な姿勢で授業に臨む学生を歓迎します。 自分の価値を最大限発揮できる仕事を目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： ウエディング ナビゲーション

授業コード： 1251

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C31	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ウエディング業界について、その歴史や業界構造、また多くの職業についてトータルに学べる授業です。講師の業界の幅広いネットワークを駆使して集めた情報も随時ご紹介するので、一般のメディアでは収集できない知識を学ぶ事ができます。ウエディングのみならず、ホスピタリティ産業に関わりたいと思っている学生には、就職活動の参考にもなります。「生きた学び」を目指して、15回の講義中3名の現役のゲスト講師をお迎えして、仕事の価値や魅力について学ぶ事ができます。 (授業目標) リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。 (学習成果) ◎C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。
----------------------------------	---

授業計画	1 ウエディングナビ ウエディングの意味価値編 結婚式とパーティの必要性を儀式文化の本質を通じて理解し、自分の言葉でその価値を表現する手法を会得する。 2 ウエディングナビ 歴史編 ウエディングビジネスの歴史を日本の第二次世界大戦後以降に絞って学ぶ。日本の近代史とウエディングビジネスの関連性を知る。 3 ウエディングナビ ウエディングのスタイル編 ウエディングセレモニーとレセプションの代表的なスタイルを学びそれぞれの特徴を知る。 4 ウエディングナビ ハード編 ホテル、専門式場、ゲストハウス、レストランなど業態別のハード(建物)の特徴や魅力について学ぶ。 5 ウエディングナビ マーケティングと集客ビジネス編 特殊な構造を持つウエディングマーケットについて学び、同時にSNS等を駆使した集客手法を知る。 6 ウエディングお仕事ナビ ウエディングプランナーとドレススタイリスト ウエディングの二大職業と言われるウエディングプランナーとドレススタイリストの仕事内容とその魅力を完全ナビ。 7 ウエディングお仕事ナビ バンケットキャプテンと料飲サービス カップルが長い時間をかけて準備したウエディングの当日を完璧に創り上げるバンケットキャプテンや料飲サービスの仕事内容とその魅力を完全ナビ。 8 ゲストによるナビゲーション ウエディングプランナーを知る 現在もフリーウエディングプランナーとして活躍中の恵実樹氏にウエディングプランナーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする 9 ウエディングお仕事ナビ ブライダルビューティ ブライダルヘアメイク、エステティシャン、ネイリスト、ジュエリーアドバイザー、フローリストなどブライダルビューティに関わる仕事の内容と特徴を完全ナビ。 10 ゲストによるナビゲーション ドレススタイリストを知る 現在も現役のドレススタイリストとして活躍中の白井みさと氏にドレススタイリストになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。 11 ウエディングお仕事ナビ フォトグラファーとビデオグラファー 女性の人気が高まりつつある人気職業ウエディングフォトグラファーとビデオグラファーの仕事の内容と魅力を完全ナビ。 12 ウエディングお仕事ナビ ウエディングのさまざまな仕事 サウンド&ライトニングプランナー、司会者、WEBデザイナー、ウエディングパフォーマーなどウエディングを創り上げるさまざまな特殊な職業の仕事の内容と魅力を完全ナビ。 13 ゲストによるナビゲーション フォトグラファーを知る 国内外で大活躍中の人気ウエディングフォトグラファー加藤ゆき氏にフォトグラファーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。
------	---

	14 講義のまとめ、総合確認テスト 半期の振り返りと授業内容の総合的な確認テストを行う。 15 テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 総合確認テストの内容の解説と今後ウェディング業界でしなやかにキャリアをアップしていくためのキャリアデザインの事例を提示し、自分自身のキャリアデザインの説明を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C:ウェディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D:ウェディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。（90分） 事後学習：授業内での未知のワードやウェディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。（90分）
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C:レポート内容や発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 ◎D:授業毎のレポートにて評価する。 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト→1回(14回目) 25%
テキスト	・日本ホスピタリエ協会 ウェディング業界のベーシックナレッジ ・ブライダルのお仕事2024ウェディングジョブ
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングセレモニー」、「ウェディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	特になし

講義科目名称： ファッション イラストレーションA

授業コード： 1341 1342

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
江頭誠			
ナンバリング：F12C09	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 (授業目標) 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (学習成果) ○C：自身の漠然と想像したデザインのイメージを沢山アウトプットし、描く対象物やディテールに適した技法を判断し、表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる
----------------------------------	--

授業計画	1 講師紹介、ガイダンス 講師の紹介（制作物、メディア情報等の紹介） ファッション イラストレーションAの授業の概要説明 2 基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて（正面、横） イラスト制作に便利なツールの紹介 3 アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用方法について 諸所の画材を用いて実験 4 スカートのスタイル画（1） スカートのスタイル画、コーディネート考案 5 スカートのスタイル画（2） スカートのスタイル画、線画の完成 6 スカートのスタイル画（3） スカートのスタイル画の着彩、仕上げ 7 イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写 8 写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写 9 パンツスタイルのスタイル画（1） パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案 10 パンツスタイルのスタイル画（2） パンツスタイルのスタイル画、線画の完成 11 パンツスタイルのスタイル画（3） パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ 12 オリジナルテーマのスタイル画（1） オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案 13 オリジナルテーマのスタイル画（2） オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成 14 オリジナルテーマのスタイル画（3） オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ 15 総評 本授業の総評。 今までの作品の振り返りをし、上達したところを再確認する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：自身の想像力の幅を増やす。それらをどのように具現化していくかを試行錯誤できる。失敗しても良い、楽な気持ちで挑むことが重要。 ◎E：技術、技法が身につけ、それらを適材適所に自身のイメージに当てはめていくができる。

事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。
指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆や、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：課題の内容、課題の中で挑戦しているか、様々な技法を取り入れているか。期限内に提出できているか。 ◎E：授業態度。数授業内で学んだ技術を作品に活かしているか。積極的に授業に参加しているか。 課題提出70%、授業態度、貢献度30%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
飯田淳			
ナンバリング：F22C10	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッションイラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。 (授業目標) 基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。 (学習成果) ○C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画、提案できる。 ◎E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッションとの関係を解説 2 色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える 3 色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する 4 生活スタイルとファッション（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える 5 生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する 6 生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 7 色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する 8 色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する 9 生活スタイルとファッション（1） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする 10 生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する 11 生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 12 自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する 13 自由課題 好きな画材とサイズで制作する 14 自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 15 全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：生活スタイルとファッションの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 ◎E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。
事前・事後学習	事前学習：ファストファッションからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッションのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。（30分） 事後学習：雑誌、web等の情報からファッションの流れを予測して、画像等をファイリングして次の課題につな

	げる。(30分)
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。 表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクショナルな指摘も行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 ◎E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション

講義科目名称： ウエディング レセプション

授業コード： 1151 1152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：河田淳鼓）、吉川尚志			
ナンバリング：F34C47	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 前期の模擬挙式企画に続き、これまでに修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬披露宴を企画し、実施する。 （授業目標） ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのチームを通じて、模擬披露宴を企画し、実施することができる。 模擬披露宴の企画と実施を学生チームで行うことから、コミュニケーション能力と主体性、協調性を磨き、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 （学習成果） ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどの職業人の視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し、実施することができる。 ○E：プランニングの基本プロセスを理解し、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。 2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。 3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。 4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ 5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習 6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシミュレーションを行う 7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレーイングを通じて体得する 8 23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。 9 レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータ（ペルソナ）に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・ブライズメイブなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。 10 レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う 11 レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作 12 レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う 13 レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える 14 レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシミュレーション（リハーサルを行う）
------	---

	15	模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。	
事前・事後学習	事前学習：テキストのブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード）を読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）	
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回から第8回までの座学で得た知識をフル活用し、チームで行う模擬披露宴の計画立案から実施までを指導する。また、第9回から第14回までの講義にて、レセプションの準備をしながら模擬披露宴を実際に運営することを通じて、目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する。 なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。 フィードバックの方法：グーグルクラスルームに授業の課題としてレセプションの企画書のレポートを提出 レポート提出（学生）⇒ 指摘事項を記入し返却 ⇒ 再提出を繰り返して本番を迎える	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：主体性をもって参加できているか、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかが評価の観点 ○E：発表内容がコンセプトに基づいた表現や行動になっているかが評価の観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%（合計100%）	
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 （1年次に購入した方は不要） 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21（1年次に購入した方は不要） プリント配布（ウェディング演出の23段階（23-Step）、セレモニー実習ノート）	
参考書	ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウェディングジョブ 世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター	
履修上の注意	冬のオープンキャンパスにて模擬披露宴の実施を予定 ウェディングの知識をさらに高めるため、2年次に「ウェディングプランニング」、「ウェディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウェディングナビゲーション」を履修することが望ましい。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション	

講義科目名称： セルフメイクアップ演習

授業コード： 1481 1482 1483 1484

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F14C40	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。 (授業目標) 客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。 (学習成果) ☐ D：イメージと現状の違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。 ☒ E：メイクアップに必要な基礎知識を理解し、説明できる。		
授業計画	1	ガイダンス（実習：2～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具について メイクアップの効果と目的を考える	
	2	スキンケアと美しい肌とは（実習） 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる）	
	3	ベースメイクのテクニック（実習） 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する	
	4	チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック（実習） 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する	
	5	アイブロウのテクニック（実習） 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する	
	6	アイメイクのテクニック（実習） 目元の観察と形・バランスを理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する	
	7	リップのテクニック（実習） リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する	
	8	トータルバランスメイク（実習） メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する。 制限時間内にセルフでメイクを完成させ、顔写真をGoogle Classroomに提出することで実技評価を行う。	
	9	顔のプロポーショント「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する。 これまでの学習内容の理解度を確認する「基礎知識テスト」を実施し、課題評価を行う。	
	10	印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック（実習） キュートメイクの理論を学び実習する	
	11	印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック（実習） フレッシュメイクの理論を学び実習する	
	12	印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック（実習） エレガントメイクの理論を学び実習する	
	13	印象表現メイク「クール」の理論とテクニック（実習） クールメイクの理論を学び実習する	
	14	印象分析によるチェンジメイク① 自身の顔分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する Google Classroomにデザイン画を提出することで課題評価を行う。	
	15	印象分析によるチェンジメイク②（実習）	

	デザイン画を元に、自身の顔でチェンジメイクを表現する 制限時間内にセルフでメイクを完成させ、顔写真をGoogle Classroomに提出することで実技評価を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D:メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。 ◎E:メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。
事前・事後学習	事前学習:メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習:授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・知識テストと実技テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒実技テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D:トータルメイク、チェンジメイクの実技試験を行い評価する。 ◎E:メイクに必要な基礎知識テストを行い評価する。チェンジメイクの内容を評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「JMAセルフメイク検定公式テキスト」 「日本化粧品検定 準2級・3級対策テキスト」 コスメの教科書 A5版/発売日:2024年12月13日/出版社:主婦の友社
履修上の注意	・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 ・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクの状態からモデルをすることがある。 ・ノーメイク、もしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがある。 ・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 ・メイクアップ実習で必要な道具類を必ず各自で用意すること。 ・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。 ・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F13C33	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 (授業目標) 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 (学習成果) ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、ブライダルエステ、ジュエリーなどの企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を習得する。 ◎E：ブライダル業界のマーケットに合致したコンセプトづくりから花嫁に対しウエディングビューティの視点で具体的な企画提案を習得する。		
授業計画	1	ウエディングビューティについての考え方を学ぶ (意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢 および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。	
	2	婚礼衣装の基礎知識 (意識調査) 国内外の婚礼衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。	
	3	招待客の装い (意識調査) ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。	
	4	ブライダルスタイリストという仕事 (意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。	
	5	ブライズビューティプログラム①インナービューティ (意識調査) インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。	
	6	ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー (意識調査) ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。	
	7	ブライズビューティプログラム③ブライダルビューティスケジュール (意識調査) 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネイトにも触れる。	
	8	ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ (意識調査) ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。	
	9	ブライズビューティプログラム⑤ビューティセルフケア (意識調査) 花嫁のセルフケアについての基礎知識を得る。自身で実践することで花嫁にアドバイス出来るようになる。	
	10	ブライズビューティカンパニー①(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をする上での視点を考察する。グループでの役割分担をし、ドレス企業の研究を進めプレゼンテーションでの資料の制作を行う。	
	11	ブライズビューティカンパニー②(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業の研究を進める中でより良いプレゼンテーションの手法について考察し、資料の完成度を高める。プレゼンテーションの評価をするための視点を考察する。	
	12	ブライズビューティカンパニー③(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。	
	13	ブライズビューティカンパニー④(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。	

	14 見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する ブライズビューティカンパニー⑤（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。 見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する 15 ブライズビューティカンパニー⑥（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。 見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：ウェディングにおける洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティックなどに関するトータルビューティについて説明できる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウェディングビューティのトータルコーディネートを企画提案できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。（30分） 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。（60分）
指導方法	第1回から第11回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第12回から第15回は実習形式。グループに分かれトータルビューティの提案のためのプレゼンテーションを実施し評価を行う。フィードバックの方法：課題提示⇒レポート提出(学生)⇒指示、指摘を記入し返却⇒再提出(繰り返す)、小テスト実施⇒小テスト結果にコメント記載のうえ返却⇒授業後におけるコメントへの質疑応答対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：新郎新婦の衣装および、ウェディングコスチューム企業についての知識を習得できているか。 ◎E：コンセプトに沿ったウェディングビューティをトータルコーディネートし、提案することができるか。 授業の貢献度：30%、課題提出：30%、プレゼンテーション：30%、ミニテスト：10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（前期に購入した方は不要） ・プリント配布 ブライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングナビゲーション」「ウェディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウェディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： ビジネスキャリア論

授業コード： 1711 1712

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
齊藤彰			
ナンバリング：F21A05	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) キャリアは働く人の数だけ存在する。自身のキャリアビジョンを描くためには、企業での働き方だけでなく、自身の生き方も大切な要素となる。さらに、人生100年と言われる時代では、長く活かせるキャリアを考えていく必要がある。働き方が多様化し、ビジネスシーンでは職場内の人間関係の構築、ゲストへの対応や取引先との折衝などでコミュニケーションスキルが求められるシーンは多い。この授業では、各自の業界でのキャリアをデザインし、企業から必要とされる人材になるために、仕事をする上で大切なビジネス基本知識とコミュニケーション、マナーなどのビジネススキルを学びます。 (授業目標) コミュニケーションを円滑に行うために、職場だけでなく生活の中での自己理解、他者理解の方法を学び、コミュニケーションスキルを高める。また、企業人として必要とされるビジネスの基本知識やビジネスマナー、仕事術を修得する。 (学習成果) ◎C：積極的に授業参加し、グループワーク、ワークにおいて主体的に重要な役割を担当できる。確認テストにおいて、講義内容を理解、修得している。
----------------------------------	--

授業計画	1 ビジネスキャリアとは ビジネスキャリアとは 業界ごとのキャリアについて考える 2 キャリアプランの作成 目標とするキャリア ワーク：キャリアプランを作成する 3 ワークライフバランス (PBL) キャリアとお金の話 キャリアと育児 PBL：ダイバーシティマネジメント 4 職場でのコミュニケーション 相手を知る 自分を知る ワーク：VKA分析 5 ビジネスコミュニケーション セールストーク 話し方 職場でのプレゼンテーション ワーク：コミュニケーション実践 6 ノンバーバルコミュニケーションとテキストコミュニケーション 第一印象と身嗜み、所作、メールと手紙 ワーク：挨拶文、お礼状の作成 7 ビジネス知識・マーケティング (PBL) 情報分析力、仕事に役立つ分析力、顧客分析力 PBL：SWOT分析 8 ビジネス知識・マネジメントとチームビルディング (グループワーク) 仕事の進め方、手順と優先順位、PDCAサイクルとは グループワーク：PDCA 9 トラブルシューティング (PBL) 問題解決力 PBL：企業の問題に取り組む 10 ビジネススキル・オフィスワーク (PBL) Excelの基本 仕事の進め方実践 ワーク：見積書作成 PBL：仕事効率化 11 ビジネススキル・プレゼンテーション パワーポイント ワーク：セールスキット作成 12 労務管理と人事考課 総務、人事業務 PBL：コンプライアンス 13 ビジネス・マナー 社会人のビジネスマナー ワーク：大人のテーブルマナー 14 ビジネス・エチケット (PBL) プロトコール マナーとエチケット PBL：異文化理解 15 講義のまとめ、期末試験 前回までの授業内容を復習し、学習目標の達成度を確認・測定するための筆記試験を行う
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業での学びに参加し、授業内の課題やワークを自分の言葉で説明できる。ワーク時に個人のパソコンを操作し、課題を作成できる。

事前・事後学習	事前学習：事前学習:小テストに向けてプリント課題に取り組む。インターネット等で最新のビジネス情報を得ておく。次回授業計画の内容を確認しておく。(60分)。 事後学習：案内のあった授業課題に取り組む。授業で得た知識やスキルを身につけるため復習を行い、学びを深めるために図書館やインターネット等を活用する。(120分)。
指導方法	主にパワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内で、最新ニュース、一般常識などの課題に取り組む。 課題、提出物に関しては、必要に応じて次回授業内にてフィードバックを行う。小テストに関しては実施後、小テスト結果にコメント記載のうえ返却し、授業やテストに関してのコメントへの質疑対応を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：授業内の課題、小テスト、最終授業内での確認テストの結果、及び課題への取り組み、ワークの参画度にて評価する。 筆記試験40%、課題・レポート20%、小テスト20%、授業参加時の貢献度20%（合計100%）
テキスト	無し 講師作成の資料を配布する
参考書	授業内でその都度案内する。
履修上の注意	日頃から新聞、テレビ、インターネットなどで最新のビジネスニュースに関心を寄せること。 授業では各自のノートパソコンを使用する。Word、Excel、PowerPointまたは互換ソフトを事前にインストールして持参のこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	人数の多い授業であるため講義形式の授業を基本とし、PBL型にて講義を進める。また、状況に応じてグループワークなどのアクティブラーニング形式を取り入れる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
齊藤彰			
ナンバリング：F24C45	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 成約後のプランニングを行ううえで必要な23段階の理論（23-Step）を学ぶ。 コンセプトに合わせたウエディングを実施するため、①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）を基本にし、あらゆるカップルに対し、最適なプランニングを行うための手法を学び、アイデアの創出方法を身につける。 プランニングの手法は、ウエディングに限らず色々な仕事にも役に立つ内容であるため、様々なケースに対してプランニングやアイデアの提案を行う。 (授業目標) コンセプトメイクの手法を修得する。ケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ウエディング業界の問題点に気づき、改善のための提案を行うことができる。 コンセプトに基づいたアイデアをストーリーとして形にし、効果的なプレゼンテーションとして完成させる工夫を身につける。 (学習成果) ◎C：①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）の順序に沿って、コンセプトに沿ったプランを創り上げることができる。 ○D：プランニングのプロセスである23段階の理論（23-Step）を正しく理解し、説明できる。		
授業計画	1	プランニングに必要な婚礼業界の変化を掴む 若者、カップルの価値観、結婚観の変化を知る 最終到達目標等の説明	
	2	プランニングとは プランニングの手法 成約後のプランニングプロセス、コンセプトメイクについて学ぶ。23段階の理論（23-Step）のメソッドの復習	
	3	新規接客業務とプランニング（PBL） 新規接客業務の中で得たカップルのウエディングコンセプトをストーリー化し、イメージを形にする	
	4	打ち合わせ担当業務とプランニング（PBL） 打ち合わせで得たカップルのウエディングコンセプトをストーリー化し、イメージを形にする	
	5	アイディアの作り方（グループワーク） コンセプト、演出を考える上で発想力を鍛える。ブレインストーミングの手法を学び、アイデアの出し方を身につけます。（デザインワーク）	
	6	プランニング実務（PBL） プランニングの練習 テーマに沿った結婚式をプランニングする。	
	7	プランニング内容の発表（プレゼンテーション） 企画したパーティの発表、他グループ評価と自グループ評価	
	8	マーケットリサーチ（ブライダルキーワード把握）（グループワーク） 時代に合っていない事柄や結婚式に関する問題点や課題、業界の抱えるサンプル課題を参考に、グループワークにてディスカッションを行います。ブライダル業界のキーワードを掴み、今後の商品企画に活かします。	
	9	商品化計画／イメージの具現化（グループワーク） コンセプトメイク、テーマ作成の手順を学び、グループワークを通して、婚礼市場の動向から新しい婚礼商品やシステムを創造します。	
	10	商品化計画／ストーリーメイク（グループワーク） 商品やシステムのイメージをより具体的なものにしていきます。講師が各グループのアイデアを整理しながら、計画中のプランをより効果的に見せるアドバイスを行います。	
	11	商品化計画／アイデアの添加（グループワーク） 不足しているデータの収集、類似商品の検索などを行います。また、講師がアイデアの広げ方を指導しながら、計画中のプランにより新鮮なアイデアを加え、企画内容をより豊かなものにするためにアドバイスを行います。	
	12	ブライダルセールス 販売促進（グループワーク） PDCAサイクルを通して発表の内容、手順、表現方法の改善点を見直し、より効果のある商品広報に関して学びます。また、セールストークの技法を復習することでより印象の深いプレゼンテーションへと導きます。	

	13 パブリックリレーションズ（グループワーク） マーケティングミックスを理解し、新商品の特徴と価値の伝達方法を実践します。また、企画した内容をより効果的に伝達するために、商品説明だけでなく、プレゼンテーションの導入からまとめまでの流れを見直しブライダルセールスを体感します。 14 イベントマネジメント（グループワーク） MICEとは何かを簡単に理解し、イベントマネジメントで大切な当日までの準備、導線、使用機器の動作と本番の進行を確認しながら、最終発表に向けイベントの運営方法を学びます。またリハーサル的重要性を体感します。 15 ウエディング商品発表（プレゼンテーション） 企画したプランの発表 他グループ評価と自グループ評価 授業の進捗状況により発表の規模を調整します。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：提示された課題にそって、コンセプトのあるプランニングができる。 ◎D：プランニングのプロセスである23段階の理論（23-Step）を正しく理解している。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業を復習し、次回の授業に向けてポイントなどをまとめておく。（90分程度） プレゼンテーションの前には、チームで協力し、まとめた内容を発表するための資料を作成する。 事後学習：学んだ内容から出題されるテーマに対し、プランニングを行う。（90分程度） プランニングのプロセスに沿って、グループで行ったワークに対し自分の言葉や事例を用いてまとめを行う。
指導方法	毎回、パワーポイントのスライドや動画などの資格物を使用して指導を行う。 グループワークやプレゼンテーションでは毎回フィードバックを行うことで、常にPDCAを意識した授業とする。 グループワークで進めることの楽しさを実感できる内容とし、プランニングの本質に触れるような授業にする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：確認試験で、記述解答を評価。適切なコンセプトが選べているか、自分のプランニングが出来ているかを評価。 ◎D：グループワーク及びプレゼンテーションの積極性、課題の意図にふさわしいレポートかを評価。 プレゼンテーション及び課題への取り組み50%、確認試験20%、グループワーク、講義への参画度と積極性を含めた貢献度30%（合計100%）
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方、著者：安東徳子、出版社：コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード 発行：B I A 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 （上記2冊ともに、1年次科目や他科目で既に購入している方は不要）
参考書	ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： ウエディング レセプション

授業コード： 1151 1152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：河田淳鼓）、吉川尚志			
ナンバリング：F34C47	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 前期の模擬挙式企画に続き、これまでに修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬披露宴を企画し、実施する。 （授業目標） ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのチームを通じて、模擬披露宴を企画し、実施することができる。 模擬披露宴の企画と実施を学生チームで行うことから、コミュニケーション能力と主体性、協調性を磨き、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 （学習成果） ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどの職業人の視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し、実施することができる。 ○E：プランニングの基本プロセスを理解し、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。 2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。 3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。 4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ 5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習 6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシミュレーションを行う 7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレーイングを通じて体得する 8 23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。 9 レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータ（ペルソナ）に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・ブライズメイブなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。 10 レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う 11 レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作 12 レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う 13 レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える 14 レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシミュレーション（リハーサルを行う）
------	---

	15	模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。	
事前・事後学習	事前学習：テキストのブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード）を読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）	
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回から第8回までの座学で得た知識をフル活用し、チームで行う模擬披露宴の計画立案から実施までを指導する。また、第9回から第14回までの講義にて、レセプションの準備をしながら模擬披露宴を実際に運営することを通じて、目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する。 なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。 フィードバックの方法：グーグルクラスルームに授業の課題としてレセプションの企画書のレポートを提出 レポート提出（学生）⇒ 指摘事項を記入し返却 ⇒ 再提出を繰り返して本番を迎える	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：主体性をもって参加できているか、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかが評価の観点 ○E：発表内容がコンセプトに基づいた表現や行動になっているかが評価の観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%（合計100%）	
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 （1年次に購入した方は不要） 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21（1年次に購入した方は不要） プリント配布（ウエディング演出の23段階（23-Step）、セレモニー実習ノート）	
参考書	ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ 世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター	
履修上の注意	冬のオープンキャンパスにて模擬披露宴の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次に「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション	

講義科目名称： ウエディングゼミ

授業コード： 1761

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
齊藤彰、佐藤賢志			
ナンバリング：F36C63	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリストなどのブライダル関連企業に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連携してゼミナール形式で授業を行う。 (授業目標) 専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、選考対応策も学修する。 (学習成果) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力とコミュニケーション能力、および社会で活躍できる一般的な知識・教養・常識を身につける。 ○C：自分に適した企業を判断し、ウエディング業界への就職活動を計画的に進めることができる。		
授業計画	1 ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について 2 就職活動の取り組みについて 過去の採用実績からウエディング業界と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す 3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ 4 就職活動に必要な視点を磨く 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する 5 就職活動成功事例の共有 過去の学生の就職成功事例を紹介 6 3-why-stepのケーススタディ 1／環境問題 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用) 7 3-why-stepのケーススタディ 2／教育問題 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用) 8 3-why-stepのケーススタディ 3／物販と物流 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用) 9 3-why-stepのケーススタディ 4／テクノロジー テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用) 10 企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える 11 模擬面談と発表 1 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く 12 模擬面談と発表 2 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く 13 模擬面談と発表 3 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く 14 模擬面談と発表 4 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く 15 ウエディングゼミの振り返り 就職活動の把握、ウエディングゼミのまとめ		
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：ウエディングの現場で求められる共感力とコミュニケーション能力、社会人基礎力を理解できる。 ○C：自分に適した企業を判断し、就職活動を進めることができる。		

事前・事後学習	ウエディング業界の企業情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回のテーマについて、予習をしておくこと（30分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（30分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出を求める。 フィードバックの方法：テーマごとの課題に対し、毎授業に回答を共有して指導する。また、質問疑問に対しても随時授業内で回答する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：グループワークでの自己提案力と貢献度 ○C：ウエディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%（合計100%）
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、主体的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： ヘアスタイリング演習A

授業コード： 1211 1212 1213 1214

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F14C44	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 （学習成果） ☐ B：ペアワーク、グループワークを通して指示通りキレイに形にすることができる。 ☒ E：基礎ヘアアレンジ技術の組み合わせを自身で考え作ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5. 7. 9. 11. 15回） ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピンニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー 3 ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク） アイロン ・ヘアデモンストレーション 7 流行ヘアアレンジ・メイク（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 8 流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション 9 カジュアルヘアとモードヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 11 ブライダルヘア（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 12 ブライダルヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション 13 トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン 14 トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク）
------	--

	・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン スタイル作成 ・技術確認
到達目標・基準 C評価になる基準	15 ○B：ヘアアレンジ基礎知識の理解・基礎技術を習得することができる。 ◎E：美容基礎道具・器具の扱い方を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答の対応を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：授業の取り組む姿勢を評価する。 ◎E：ヘアアレンジ基礎技術を組み合わせで形にすることができる。 課題70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習、ペアワーク、グループワーク

講義科目名称： ヘアスタイリング演習B

授業コード： 1201 1202 1203 1204

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C54	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 （学習成果） ☐ D：美容道具・美容器具を使用した『TP0ヘアアレンジスタイル』を作ることができる。 ☐ E：トータルバランスを考えてヘアアレンジをキレイに作ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回） ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用（1） ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用（2） すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用（1） ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用（2） ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用（3） 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク） 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用（5） パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク） ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン
------	--

	13	トータルで提案するヘアメイク（２）（ペアワーク） ※スマートフォン
	14	トータルで提案するヘアメイク（３）（ペアワーク） ※スマートフォン
	15	スタイル作成 ・技術確認
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：ヘアアレンジ応用知識の理解、応用技術を習得することができる。 ◎E：美容応用道具・器具の扱い方の習得。	
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）	
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答の対応を行う。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：美容道具、器具知識を活かし作業組み立てができる。 ◎E：イメージとバランスを考えヘアアレンジを形にすることができる。 課題70%、授業態度、貢献度30%	
テキスト	なし	
参考書		
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク	

講義科目名称： 歌唱基礎演習

授業コード： 1871 1872

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C56	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) J-POPの課題曲を中心に、歌唱力の向上を目的とした実践的な授業を行う。個性を魅せる歌唱がより重要視されるようになっている現代に合わせて、基礎的な呼吸法、発声法から、個性を活かした表現力を高める技術までを段階的に学習し、実際に課題曲を歌うことで実践的なスキルを習得する。 (授業目標) 歌唱に必要な基本的技術を身につけ、自己表現力や表現技法を高める。 ジャンルを問わない柔軟な歌唱力を養成し、パフォーマンスにおける自信を育てる。 (学習成果) ☒ C：目標曲の完成に向けた練習計画を立て、着実に成果を上げることができる ☒ E：歌唱技術を実践的に学び、曲や表現に合わせた歌唱の工夫をすることができる		
授業計画	1	イントロダクション 授業概要の説明、目標設定	
	2	身体の使い方 腹式呼吸・胸式呼吸	
	3	発声・のどの状態 健康的な発声を学ぶ	
	4	歌い方のクセを徹底的に抜く 基礎の見直し	
	5	音程 曲調に合ったピッチとハーモニー	
	6	低音と高音を拡張する 声域のトレーニング	
	7	裏声と地声を接続する スムーズな切り替え	
	8	抑揚・強弱 空間に合わせた音量と響き	
	9	ロングトーン ノンビブラート・息継ぎ・ロングブレス	
	10	ウィスパー・ハスキー 特殊な声の出し方	
	11	スキル こぶし・しゃくり・フォール・ビブラート	
	12	ジャズボーカル フェイク・アドリブ・スキヤット	
	13	声の表情 感情やニュアンスの伝え方	
	14	歌詞や言葉を伝える 母音と子音の明瞭化	
	15	感情をのせる 発表会・まとめ	
到達目標・基準 C評価になる基準	☒ C：発表を通して、歌唱の技術と自己表現力を発展させることができる ☒ E：課題曲を通じて計画的に練習し、歌唱力を高めることができる		
事前・事後学習	事前学習：課題曲の歌詞やメロディを事前に確認し、予習する。(20分) 事後学習：授業で学んだ技術を自宅で復習し、次回に備える。(25分)		

指導方法	実技指導を中心に、映像や音源を活用した解説を加える。 個別指導とグループ活動を組み合わせ、学生が主体的に学べる環境を整える。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：練習計画の実践度と課題への取り組みを評価 ◎E：歌唱力の向上と発表での成果を評価 (課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%)
テキスト	なし 授業内で必要に応じて資料を配布。
参考書	なし 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	・動きやすい服装で参加すること。 ・録音・録画が可能なデバイス（スマートフォン等）を持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実技練習、発表、グループでの相互評価。

講義科目名称： 映像表現演習

授業コード： 1881 1882

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C57	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 映像表現における「編集力」に特化した授業を実施する。SNSの視聴回数の高い投稿や映画に致るまで、すべての映像の根底には「人に伝えたい」という気持ちがある。観賞者の感情を動かし、惹き込み、わかりやすく伝える力を編集を通じて学ぶ。編集の基礎としてプロットやコンテの重要性を読み解き、映像制作の計画、撮影、編集を一連のプロセスとして学ぶ。 (授業目標) 映像編集の基礎を身に付け、観賞者の感情を動かす表現力を高める。 専門知識に偏りすぎることなく、自分の意図をわかりやすく伝える能力を養う。 (学習成果) ☐ A：他者との共同作業を通じて、計画力を身に付け、目標を達成できる ☒ E：映像編集技術やストーリー構成を学び、観賞者の感情を動かす表現を追求できる
----------------------------------	--

授業計画	1 イントロダクション 授業概要の説明、目標設定かつAdobe Premiere Proのインストール 2 映像制作の基礎 プロットとストーリーの計画 3 映像制作の基礎 カット割りとシーン分析 4 縦型動画の解析 SNSで視聴回数の高い動画の仕組み 5 縦型動画の解析 縦型を活かした構図、アイキャッチ 6 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画① 撮影計画、プロット、コンテ 7 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画② 撮影～編集 8 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画③ 発表、プレゼンテーション 9 映画のトレーラーを解析 構成、ポイント、ハイライト 1 0 映画の見せ場の分析と紹介 編集で印象を変える 1 1 自分の解釈に基づくトレーラー制作 伝えたいこと、見せ場を明確にする 1 2 トレーラーの調整 サウンドと組み合わせ 1 3 見せ方を考えた編集実践 秒数の調整、視認性のチェック、タイミング 1 4 制作動画の発表会準備 共有方法の検討、意見交換 1 5 プレゼンテーション 振り返りとまとめ
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	☐ A：他生徒と意見を交換することができ、協働することができる ☒ E：映像制作を通じて編集技術や表現力を体系的に学び、理解を深めることができる
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分)

	事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。(25分)
指導方法	実技指導を中心に、映像や資料を用いた講義を組み合わせる。 グループ活動や個人作業を交えながら、学生同士で学び合う環境を作る。全体発表を通じて、作品の相互評価を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：チームでの協働やプレゼンテーション力を評価 ◎E：映像編集の技術力や表現力を評価 (課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%)
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する
参考書	なし 授業内で適宜紹介する
履修上の注意	・全員PCを持参し、初回の授業に参加できなかった生徒はAdobe Premiere Proをインストールしておくこと。 ・スマートフォンの空き容量を確保しておくこと。 ・録画や編集作業に必要なアプリのダウンロードを指示する場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	制作、プレゼンテーションを通じた実践的学習を重視する。

講義科目名称： 演技表現演習

授業コード： 1891 1892

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C58	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 現代社会における演技とは、映像作品や舞台にとどまらず、多様な表現活動に必要な不可欠な要素となっている。本授業では、演技表現を身体全体で捉え、身体のコントロールや演技における「嘘のない表現」を徹底的に追求する。また、現代美術やパフォーマンスアーツ、インスタレーションの考え方を取り入れ、「場所性」と「一回性」をキーワードに演技と演劇の自由と挑戦を学ぶ。 (授業目標) 感情表現や身体表現の基礎を学び、リアリティのある演技を実現できるようになる。自己表現を深め、感情や動きのコントロール能力を向上させる。現代的な視点と社会とつながる意識を持ちながら、演技表現の幅を広げる挑戦を行う。 (学習成果) ◎B：自己の感情や身体表現を備え、最後まで主体的に表現を追求できる ○C：授業内容を自分のものにし、技術を積み上げていくことができる		
授業計画	1 イントロダクション 演技の基礎概念と授業概要の説明 2 身体のニュートラル ストレッチ、リラクゼーション、ニュートラルな状態の理解 3 感情のニュートラル 感情の振幅。演技に引きずられないマインドコントロール 4 演技をしない演技 嘘のない状態。普段と演技をシームレスにつなぐ 5 身体接触 身体が触れることでおこる自分と相手の反応 6 言葉を使わない表現 身体だけで感情や状況を伝える練習 7 いまここを生きる その場で感じた状況や相手に反応する即興演技 8 想像と共有 想像を活かした即興演技の実践 9 テキスト演技① 短い文章を自分の言葉として表現する練習 10 テキスト演技② 古典や既存の文章を現代的な感覚で解釈し演じる 11 「場所性」と「一回性」 空間や状況を意識したパフォーマンスの創作 12 グループワーク① 物語の創作と「見立て」の要素を学ぶ 13 グループワーク② 創作した物語を基にした演劇制作 14 グループワーク③ 演劇制作の仕上げと発表準備 15 発表と振り返り グループまたは個別での演技発表と授業の総括		
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：身体と感情を統合した表現力を深め、積極的に参加することができる ○C：他者と協力し、共感的に演技活動を行うことができる		

事前・事後学習	事前学習：参考映像やテキストを事前に確認し、授業に備える（20分） 事後学習：授業で学んだ内容を復習し、次の演技課題に備える（30分）
指導方法	基本的な知識や技術をレクチャーし、実際の演技実践を中心に進行する。 授業内での演技発表やグループディスカッションを通じてフィードバックを提供する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：演技実践（短い独白演技、即興演技など）を評価 ○C：発表の内容と質（自由演技やグループ発表）を評価 （課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%）
テキスト	なし 授業内で必要に応じて資料を配布。
参考書	なし 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	・動きやすい服装で参加すること。 ・他者の表現を尊重し、積極的に授業に取り組むこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	創作・発表を中心とした演技実践。

講義科目名称： ビジュアル アート論

授業コード： 1221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C18	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショップの形に活かす。より良いVMD計画を毎回の授業の学びを取り入れつつ、ディスカッションや調査を通し徐々に完成させていく。 (授業目標) ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。 (学習成果) ◎D：VMDの学びを活かし商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：学びを理解しショップのコンセプトやターゲットに合わせたVMD計画を習得する。
----------------------------------	--

授業計画	1 ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方 2 購買行動とビジュアル オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える 実在するブランドコンセプトを分析し、ディスカッションしまとめる 3 デザインテイストの規格化と店舗デザイン ブランドテイストや商品を考慮したショップスタイリング 前回制作の資料を元に店舗内でコンセプトを表現するにはを調査しまとめる 4 店舗ツール ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る 前回制作の資料を元に、適するツールやマネキンを実在する企業を調べリストアップする 5 売り場作り ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える 前回制作の資料を元に、店内レイアウトを制作する 6 3つのゾーンの役割 VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る 前回制作の資料を元に、3つのゾーンに分ける 7 IP（陳列の基本） 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る 8 IP（陳列の基本） カラーテクニックやアイテム別の魅せ方 前回制作の資料を元に、IP内のプランを制作する 9 PP（ゾーンのポイント） 効果的な配置場所とディスプレイ構成 前回制作の資料を元に、PPディスプレイをシミュレーションし資料にまとめる 10 VP（店舗の顔） 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析 実際のショーウィンドウなどから構成を発見する 11 VP（店舗の顔） 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ 前回制作の資料を元に、どのようなVPがふさわしいかとまとめる 12 MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法やライティングすることで商品に与える影響や印象を学ぶ 13 年間のお買い場づくり 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する 前回制作の資料を元に、年間の店舗ディスプレイや陳列における販促計画を制作 14 季節の装飾 旬なおもてなしでお客様の心を掴む 前回制作の資料を元に、年間販促計画から一つをピックアップし、具体的なVMD計画を表現する
------	--

	15	店内再編集とこれからの時代のVMD 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像 これまでの課題をまとめ、コンセプトが伝わるVMD計画ができているか、他グループと意見交換や講評をする
到達目標・基準 C評価になる基準		◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる ○E：より良いお買い場づくりにつながるVMDとは何かを習得する
事前・事後学習		事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする。課題やワークを完成させる（120分）。
指導方法		講義内容に関連する写真や映像等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う 毎回授業内のワークで課題に取り組む。ワークは課題として提出期限を設ける 課題は全員に共有し口頭でフィードバックしブラッシュアップできるようにする
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		◎D：授業内でのワークや課題による評価 ○E：確認試験や課題による評価 課題提出物70%、小テスト20%、授業態度及び貢献度10%
テキスト		なし 適宜プリント配布 参考文献に関してはその都度指示する。
参考書		
履修上の注意		百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。 各自PC毎回持参
アクティブ・ラー ニング、PBL		

講義科目名称： ビジュアル アート演習

授業コード： 1231 1232

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C19	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、実現可能な表現力を養う。 商品の魅力を接客なしで伝えることができるよう、商品の魅せ方や展示方法を工夫した、ディスプレイデザインの企画、制作を通して、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。 (授業目標) 「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザイン制作を身につけることができる。 (学習成果) ◎C：コンセプトやターゲット設定し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 店舗におけるビジュアル 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定 ディスプレイデザインの事例調査と各自課題設定 2 操作について IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク 3 操作について 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク 4 コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作 5 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画 6 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画 7 ディスプレイ構成 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をカラージュ 8 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 9 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 10 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 11 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる 12 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる 13 ディスプレイ立体製作・撮影 PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする 14 プランまとめ (PBL) 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする 15 学修成果発表 講評 (PBL) 課題のプレゼンテーションと意見交換
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：販促活動の一環として、企画し実施することができる。
事前・事後学習	事前学習:コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題製作の際、適宜フィードバックを行う。最終授業時に講評発表
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：課題提出物、授業態度および貢献度を評価する 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用（Adobe登録料が必要である。デジタルゼミ・ブランドプロデュース演習を履修の場合は支払い済） 各自PC持参 製作物に合わせ事前準備や購入持参するものがある ビジュアルアート論を履修する事が望ましい 事前学習にしっかり取り組み、技術取得に努める
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL（ディスカッション・デザイン制作・発表）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A03	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしただのか、相手にどのように表現すれば、意図が伝わるのかを構想する力をつける。AdobeのIllustratorを使い、学んだ法則を実践的に使用できるかを毎回のワークで振り返りながら制作する。 (授業目標) ブランド発信におけるデザインやポートフォリオなどのレイアウト術に活かせる基本を身に付ける。 (学習成果) 広がるファッションの分野で様々な活かせるデザインを学び、実践に活かせる力を身につける。 ◎D：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを自己肯定感を持って考えることができる。 ○E：習得した事を活かし、商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。		
授業計画	1	アート思考 デザインとアートの違いを知り、0から1を生み出すアウトプットの重要性を知る。 アートを鑑賞し、鑑賞から作り上げたストーリーを共有し、相手との感じ方の違いを知る。	
	2	デザイン思考 デザイン思考で生まれた商品などを知る。デザイン思考のプロセスを体感する。	
	3	デザインの歴史 時代と共に変わるデザインを知る 流行にとらわれず、社会を知ること、生まれるデザインを考える 時代におけるデザインの特徴を捉える	
	4	デザインの種類 様々なデザインの種類を学びデザインによって行動変容が起きることを知る 優れたデザインを見つけ、何が優れているのかを考察し、デザインによって受け取る印象がどう違うかなどまとめる	
	5	ビジュアルアイデンティティ ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザインを調べる 実在のブランドを設定しブランド発信に使用されているデザインを調査し有効的に使われている部分や効果を導く	
	6	ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とブランドストーリーを知り、表現する力をつける 企業のロゴのコンセプトを考察し、同じコンセプトで違うマークを考える	
	7	コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する ファッション業界においてブランドとしてどんな色やエレメントが多いか調査し、なぜかの理由を考察しディスカッションする	
	8	配色 色の特性を知り言葉からイメージされる配色を作り表現する 季節やテーマごとに変わる販促に有効に活かす 言葉ではなく配色だけで相手に伝わるか制作し相手に問う 調査を踏まえお互いにより良い配色を見つける	
	9	フォント フォントデザインの基本と印象 様々なフォントを知り、使ってみる	
	10	文字のジャンプ率 デザインの基本要素である対比を学ぶ 情報の優先順位を文字だけで伝えるデザインを作る ジャンプ率を用いて作ったデザインが適切に伝わるか相手に講評してもらい、お互いの改善点を見つける	
	11	レイアウト（デザインの4原則） 商品解説やウェブページでも重要なレイアウトの4原則を学ぶ。 写真や文字など全ての情報を整理し、どのように配置すればいいかの法則を知る。	

	12 4つの法則を使ったデザイン制作をし、伝わるデザインを制作する レイアウト（構図） 要素の配置をどうすれば、効果的なデザインができるかを知る 13 雑誌の表紙や写真などをメインにデザインの考察をし、雑誌やポスターからその法則を見つける 視線誘導 デザインを通してユーザー視線の流れをコントロールし、誘導するテクニックを学ぶ 文章の多い場合のデザインにおいての視線の流れを考えることで、見やすいを考察する 視線誘導を使ったデザインを制作し、伝えたい順番と伝わった順番が一致するかディスカッションし改善 14 適材適所のデザイン POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン 身近なデザインをピックアップし、そのデザインが場所を変えるとどんなデザインにしなければ ならないか制作する 15 時代と共に変わる企業とデザイン 世の中の変化でブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからを考察する
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：コンセプトに沿ったデザインを作ることができる。 ○E：身の周りにあるデザインがどんな法則で作られているか考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッションに限らず様々なデザインに目を向ける。様々なデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測し、メモしておく。（60分）。 事後学習：毎回ワークを実施するので、完成させ提出する（120分）
指導方法	パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。毎回のワークでは、各自自分で内容を設定し、学んだ事を活かしたデザインワークを行う。伝わるデザインになっているか、改善方法などディスカッションしアウトプットする力を養う。 授業内での課題提出が毎回ある。課題のフィードバックは全員に共有し口頭で行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：デザイン制作課題 ○E：授業内試験 課題70%・小テスト20%・授業態度及び貢献度10%
テキスト	なし 適宜プリント配布。
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 毎回PC持参 授業内で課題が終わらない場合は期限までに提出することで、課題点とする。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ディスカッション・デザインの自己表現

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業目標) 一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。ポートフォリオにまとめながら、デジタルスキルを向上させる。本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・カタログ・グッズや服などのデザインを企画し、実際に製作する。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にするこ とで、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。 (授業目標) 「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、グラフィック系ソフトの使い方を習得する事ができる。ブランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的デザインを身につけることができる。 (学習成果) ○B：主体性を持ち、最後まで追求しながらデザイン制作を行う。 ◎C：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを明確にし検証改善を繰り返し制作ができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について 2 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 基本的なフォントや文字の配置方法 色や型による印象などをディスカッション 3 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 画像のレイアウト・コラージュ方法 自分表現する色や型を模索し自分を表現し、相手に講評してもらいブラッシュアップ 4 ブランド企画とロゴマーク ブランド企画をし、コンセプトに基づいたロゴマーク作成 前回課題を元に自分ブランドを作る 5 ブランド企画とロゴマーク コンセプトに基づいたロゴマーク作成 ブランドコンセプトシートを作り発表し合い、伝えたいコンセプトが伝わるデザインになっているかディスカッションし制作する 6 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ調査・考察 前回制作のロゴマークを元にブランドの視覚的な一貫性を図るため、ブランドらしさを伝えるデザインの広がり例を調査し、自分ブランドに繋げていく 7 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ制作 自分ブランドを視覚的に統一し伝えることができているかを制作、ディスカッションを繰り返す 8 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているかディスカッションを含め表現の追求をする 9 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているか制作を進める 10 その他販促品制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているか制作を進める 11 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作 12 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作
------	---

	13 作品撮影 今までの作品を振り返り、ポートフォリオに入れる為の撮影とデータのまとめ 14 企画書まとめ 今までのデザイン案をまとめ、製作物を撮影してポートフォリオとしてまとめる ブランディングデザインが効果的にこなわれているか見える形にする 15 学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：好奇心や主体性を持ってプランを完成できる ◎C：「Adobe Illustrator」の基本的な技術を用いて、オリジナルのグラフィック制作ができる
事前・事後学習	事前学習:コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(20分) 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、課題を完成させる(40分)
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題のフィードバックは適宜口頭で行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：授業態度及び授業への貢献度を評価する ◎C：作品課題の提出物で評価する 課題提出物80% 授業態度及び貢献度20%
テキスト	適宜フォーマットデータを配布
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や各自材料を購入し持参することが必要 ファッションデジタル演習Aを合わせて履修することにより、Adobeソフトの使用がよりスムーズに作業可能である。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL（ディスカッション・デザイン制作・発表）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C11	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業目標) モノ消費からコト消費へのニーズに合わせた価値創造が出来るようデザイン思考のプロセスを用い建設的なクリエイティブを目指す。人と物やサービスをどの様に繋げるかをWebやアプリ制作を通したプログラミング的な要素で、課題発見を解決する構想力をつける。テーマを決めグループワークと個人ワークを繰り返す。共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイピング・テストを繰り返し、答えを導く。なぜその答えに至ったのかのプロセスに重きを置き、ビジネスで有効な伝えるデザインを目指す。 (授業目標) 「adobe XD」を使用し、webなどを制作しながらリサーチすることで、現状のビジネスを知り、新しいビジネスに繋がるきっかけや発信方法を考察することができる。 (学習成果) ☐ A：主体性を持ってグループで企画を進める事ができる ☐ B：デジタルの制作技法を活用し、柔軟に意見を取り入れ、自己肯定感を持ってコンセプトに基づく制作ができる
----------------------------------	---

授業計画	1 本講座とAdobeソフトについて 今後の企画内容のガイダンスとAdobeソフトについて 2 UIとUXデザインについてとグループディスカッション ユーザー視点に立ってサービスや商品の本質的な課題（例：日頃のファッションに関する悩みやSDGsに関する内容）を挙げ、課題を解説するためのデザイン設計概要をディスカッション 3 ワイヤフレーム制作 リサーチを繰り返し人と物やサービスをどのように繋げればいいのかの枠組みを決め、グループでの共通認識を持ち、作業方針を決めていく 4 基本操作(色・形・文字) XDの基本操作を習得しワイヤフレームを元に構造のベースを設定 5 トップページ制作 サービスやブランドの顔を作ることで全体のデザインの方向性を決めていく グループで決めたコンセプトや設計に基づき作業分担を決める 6 基本的なUIデザインのパターンとデザインの共通概念 企画に合う基本的なデザインパーツを制作しトップページを完成させる 相手の目線が誘導され、クリックしたくなるデザインを調査し制作に反映させる 7 基本操作(動き) ユーザーの意識が対象に向くよう動きを調査し 動きの付け方や試行方法を習得する 8 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 9 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 10 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 11 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する 12 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する 13 作品全体を通しての試行 グループ内で作品を試行し、課題解決になっているか問題発見と解決を目指しディスカッションとブラッシュアップ 14 回遊の為のデザイン調整 作品内でユーザーを回遊させる方法を考察し魅了するビジネスに繋げる
------	---

	15 様々な切り口で関連する情報を見せ作品を完成させる 学修成果発表 講評 プラン完成後、全員で作品を試行し、評価し合う。これからのビジネスにどのように活かせるかなど考察する
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：計画性を持ってグループで企画を進めることができる ◎B：デジタルの制作技法を活かし、伝えたいことを形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：普段何気なく使用しているアプリやサイトに対して、なぜ使いやすいのか、機能的な表現がどうなっていると伝わりやすいかをリサーチする。XDの使用に慣れる為基本操作動画を見て事前確認をする。（20分） 事後学習：作品で使用する画像や動画など教室ではできない撮影や素材集め（40分）
指導方法	プロジェクターにて制作の過程や操作方法を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 各学生からの質問に対しては個別に対応し、表現したいデザインに合わせて応用技術の指導を行う。 各回で課題制作確認とフィードバックを口頭で行いながら進める
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：課題や授業への貢献度を評価 ◎B：課題と成果物による評価 作品70%、授業態度及び貢献度30%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 「ファッションデジタル演習B」のAdobeソフト使用の科目を履修する事で、よりデジタルスキルの向上を目指せ、就活やビジネスに活かせるポートフォリオ作りに繋がる。 制作課題に対するフィードバックは学生同士の作品鑑賞時に講評する。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業（ディスカッション・グループワーク・制作実習）

講義科目名称： ブランドプロデュース演習

授業コード： 1571 1572

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F33C34	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ブランドを商品デザインだけで捉えるのではなく、お客様との接点である店舗空間を軸に計画していく。店舗がなくともブランドが成り立つ今、ブランドの世界観を体感するための場として、ポップアップを含め、店舗はブランドの魅力を体現する場として重要視されている。世界観だけでなく、VMDの観点からお客様が選びやすく買いやすい陳列計画をすることにより、顧客ロイヤリティを深める方法を検討し制作する。 (授業目標) 商品・陳列・店舗空間が合わさることでストーリー性の感じる、心地よいお買い物場空間を創出し、明確なルール化で店舗展開可能な計画となっている (学習成果) ◎D：行動心理やVMDにおいての学びを活かし、オリジナリティをもって応用し制作することができる ○C：デジタル技術を向上させ、最後まで追求しながらVMDに関するデザイン制作ができる
----------------------------------	--

授業計画	1 本講座とAdobeソフトについて 制作についての概要説明とIllustratorやPhotoshopの基本操作確認 2 ブランドのアイデンティティとコンセプト調査 事例からブランドのアイデンティティやコンセプトを言語化し店舗空間とコンセプトがどう結びついているか考察する 3 ブランドのアイデンティティとコンセプト設定 前回の考察から作品につながるコンセプトと空間を設定しプランする 4 平面図の見方と動線計画 平面から空間を捉えることができるよう、什器の基本的なサイズや縮尺を学びお客様の動きを想定し動線を計画する。 5 平面図作成 前回の計画から平面図を作成する。動線からゾーニングやグルーピングに繋げる 6 VP/PP/IPと店舗内IPの重要性 図面上でゾーニングをし、VP/PP/IPの場所を設定する 7 IP計画（ハンガーアイテム壁面陳列） IPの役割を知り、壁面の陳列商品リスト制作 8 IP計画（ハンガーアイテム壁面陳列） 壁面の陳列計画をまとめる 9 IP計画（小物アイテム壁面陳列） 小物や雑貨等の陳列商品リスト制作 10 ツールやライザーの使い方 ツールの種類を把握し計画に取り入れることで、小物の陳列バリエーションを広げる 11 IP計画（小物アイテム壁面陳列） ツールを利用し、構成を利用したより良い陳列計画にする 12 PPリサーチと計画 どのようなPPがあるのか事例を調査し参考事例をリサーチする IP計画を元に販売促進とも絡め、季節や商品に合うPPを計画する 13 PP計画 IP計画を元に販売促進とも絡め、季節や商品に合うPPを計画する 14 ブランドアイデンティティの確認 IPやPPともにブランドらしさや計画に一貫性があるかを確認し調整する 15 学修成果発表 講評 作品をまとめ、それぞれの作品をお客様の立場で鑑賞し評価し合う
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ブランドコンセプトに基づいたVMD計画ができる ○C：デザインソフトを使用し最後まで作品を完成することができる
事前・事後学習	事前学習：様々な店舗を体感することでより良い店舗を自分なりに言語化しておく（30分） 事後学習：作品で使用する写真の素材集めやデジタルスキル向上の為に操作方法の確認（30分）

指導方法	プロジェクターにて制作の過程や操作方法を表示し、学生との同時進行にて指導を行う。各学生からの質問に対しては個別に対応し、表現したいデザインに合わせて応用技術の指導を行う
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題と成果物による評価 ○C：授業態度及び貢献度 作品60%、授業態度・貢献度30%、その他課題10%
テキスト	適宜フォーマットを配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用（Adobe登録料が必要である。デジタルゼミ・ビジュアルアート演習でも併用可能） 各自PC持参 製作物に合わせ事前準備や購入持参するものがある ビジュアルアート論での学びを制作に活かせる内容であり、後期のビジュアルアート演習にもつながる
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

講義科目名称： デザイン クリエーションゼミ（ファッショ
ン） 授業コード： 1721

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F36C59	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（デザインクリエーションファッション）で学んだファッションデザインを実際カタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為の計画を組み立てる。 (授業目標) 作品製作を通して自身の知識・技術を向上させ、自身が思い描いたイメージを服飾造形作品として表現する力を身につける。 (学習成果) ○A：他者の作品やプレゼンテーションを通じて新たな視点やアイデアを得ることができる。また、それらを自身の作品制作に活かし、より創造性豊かな表現ができる。 ◎E：クリエイション技能を理解し、立体研究により自身が思い描く作品を表現することができる。
---	--

授業計画	1 ガイダンス（PBL）（平光） 概要説明 自分の好きな世界観を言語化し、そのテーマやコンセプトに沿ったムードボードを制作するワークを行う 2 副資材とデザインの基礎アプローチ（1）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ 3 副資材とデザインの基礎アプローチ（2）（ゲスト講師） 副資材の機能性や美的要素に着目し、デザインへの効果的な活用方法を思考する 4 副資材とデザインの基礎アプローチ（3）（ゲスト講師） 立体造形デザインへ展開する 5 業界研究（平光） 副資材を扱う企業について学修し、業界研究を行う 6 造形表現と制作（1）（ゲスト講師） ディテールの研究（1） 7 造形表現と制作（2）（平光） ディテールの研究（2） 8 トワル試作発表会（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 副資材を扱う企業について学修したことをプレゼンテーションする 9 作品製作（1）（ゲスト講師） カットソー作品を製作し、立体研究について学ぶ 10 作品製作（2）（平光） ディテールの再現 11 作品製作（3）（ゲスト講師） デザインや装飾の細かな部分を正確に再現する 12 作品製作（4）（ゲスト講師） デザインやイメージの細部を具体的な形に表す 13 プレゼンテーション資料の作成（1）（平光） デザイン画の修正、ポートフォリオ作成 14 プレゼンテーション資料の作成（2）（ゲスト講師） デザイン画の修正、ポートフォリオ作成 15 発表（プレゼンテーション）（ゲスト講師）
------	--

	企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：他者の作品やプレゼンテーションを参考にしながら、新たな視点を取り入れ、自身の作品制作に活かすことができる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評、④質問に対してが個別指導を行う
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A、◎E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F14C50	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） Kビューティメイクの人気の秘訣、主な特徴、関連情報などを体系的にまとめ、Kビューティメイクの革新的な技術、高品質でトレンドなメイク技術を学ぶことができる Kビューティメイクアップ授業は、単にメイク方法を学ぶだけでなく、自分自身の個性と美しさを見つけて表現するプロセス。最新のKビューティメイクアップトレンドを把握し、自分の顔のかたち、肌トーン、普段のスタイルなどを考慮して、自分に一番似合うKビューティメイクアップスタイルを見つける。 （授業目標） メイクの基礎を身につけ、自分に合ったKビューティメイクスタイルを見つけ、演出することができる。 （学習成果） ○D：個人の顔のかたちや肌のトーンに合ったKビューティメイクを演出することができる。Kビューティメイクのトレンドを把握し、自分に合ったスタイルを適用することができる。 ◎E：Kビューティメイクの基本原則を理解し、様々なメイク技術を習得する。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（西村） 本科目の内容、成績評価、実施方法について 2 Kビューティメイクの理解（オンライン1） Kビューティメイクの特徴と歴史・Kビューティメイクのトレンド分析 3 Kビューティメイクの基礎（オンライン2） 顔のかたちと肌トーン分析・メイク道具及び製品紹介 4 Kビューティメイクアップトレンド分析（オンライン3） 最新Kビューティメイクアップトレンド紹介 5 Kビューティメイクの演出1<デモンストレーション含む>（オンライン4） K-POPアイドルメイク演出 6 Kビューティメイク演出2<デモンストレーション含む>（オンライン5） K-POPアイドルメイク演出 7 肌表現(Base Makeup）（集中講義1） 健康的な肌表現の重要性 基礎ケア(スキン、ローション、エッセンスなど)、メイクアップベース(プライマー、トーンアップクリームなど)、ファンデーション(種類、選び方、使い方)、コンシーラー(使い方、カバー技術)、パウダー(種類、使い方) 8 眉毛 (Eyebrow)（集中講義2） 眉の重要性と役割 眉のデザイン(平行型、アーチ型など)、眉の描き方(ペンシル、シャドウ、マスカラ)、眉の整え方 9 アイメイク (Eye Makeup)（集中講義3） アイシャドウ(種類、色の選び方、ブレンド技術)、アイライナー、マスカラの使用方法 10 チーク&リップメイク (Blusher & Lip Makeup)（集中講義4） チーク(種類、色の選び方、使い方)、リップメイク(口紅、ティント、リップグロス)グラデーションリップ、ツートーンリップなど様々なリップ表現 11 まつげ&様々なオブジェ演出（集中講義5） まつげ(ビューラーの使い方、つけまつげ)・グリッター表現とスキンアート表現 12 Kビューティメイク実習（集中講義6） 個人別Kビューティメイクのデモンストレーションおよび実習 13 様々なメイクアップルック演出（集中講義7） デイリーメイク、スモーキーメイク、童顔メイクなど 14 Kビューティメイクの仕上げと評価（集中講義8） 授業内容の復習及び質疑応答 個人別Kビューティメイクの結果発表及び評価
------	--

	15 振り返り（西村） この科目を通じて得られた知識や技術振り返り、自己分析を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：個人の顔のかたちや肌のトーンに合ったKビューティメイクのトレンドを把握し、自分に合ったスタイルを考えることができる。 ◎E：Kビューティメイクの基本原理や様々なメイク技術を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回のテーマに合わせた情報収集を行う。（90分） 事後学習：学んだ内容について振り返り、自分の身近なこととの関連性を調べたり、実践する。（90分）
指導方法	主に対面授業にて技術的な指導を行う。 主にオンライン授業にて知識や情報を伝える。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：課題にて評価する。 ◎E：課題にて評価する。 貢献度 40% 課題 60%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	誠信女子大学（韓国）への短期留学や編入学の案内が講義に含まれる場合がある。 授業は誠信女子大学との連携で行い、韓国からのオンライン講義と本学での集中授業（8月に実施予定）で構成されている。 セルフメイクアップ演習を履修していること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	アクティブラーニング

講義科目名称： セルフビューティ論

授業コード： 1471 1472

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F14C39	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識を学び、自分自身に必要なケアについて考えます。 (授業目標) かけがえのない自分を日々慈しみ、心を満たす美容の力を理解し、幅広いビューティ分野での活躍を目指します。「日本化粧品検定2級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (学習成果) ◎D：日常的な美容法に関する一般的な知識を身につけ、自分自身にあった美容法を選び実践することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 セルフビューティとは(1) 本講義の概要 2 セルフビューティとは(2) 人の美しさと美容 自分の考える「美」を理解する 3 身近な美容一般知識(1) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ 4 身近な美容一般知識(2) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ 化粧品検定3級試験 5 皮膚・肌の基礎知識 皮膚の構造や機能 6 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(1) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 7 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(2) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 皮膚の構造や機能 小テスト 8 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(3) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 9 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(4) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 10 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(5) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 11 ボディケア・ハンドケア・ネイルケアの基本 一般的なボディケア・ハンドケア・ネイルケアの手順と化粧品の目的 12 ヘアケアの基礎知識 一般的なヘアケアの手順と髪構造 13 女性の身体 (ゲスト講師) 身体の特徴と変化 14 化粧品の基礎知識 化粧品とは 成分やルール 15 自分自身の美しさ 自分の考える美しさと美容法
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識身につけ、自分自身にあった美容法を考えることができる
事前・事後学習	事前学習：次の講義内容に相当するテキスト参考に課題に取り組む。(90分) 事後学習：講義中に紹介のあった内容を参考に、自分に合った美容法について調べる。(90分)

指導方法	美容に関する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：小テスト・課題70%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。 課題について調べたり、美容法を実践しレポートをまとめる。
テキスト	「日本化粧品検定 準2級・3級対策テキスト コスメの教科書 A5版 発売日：2024年12月13日 出版社：主婦の友社
参考書	日本化粧品検定 2級対策テキスト コスメの教科書 日本化粧品検定 1級対策テキスト コスメの教科書
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F25C52	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。 (授業目標) 多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べるができる。 (学習成果) ☐ C：現状から課題を抽出し、適切な方法で解決策を提示できる。 ☒ D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多様な活用方法を説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。 2 「顔」「化粧」とは 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのか考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 3 ファッション業界とメイクアップ ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く) 4 表現とメイクアップ 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く) 5 女性の顔、男性の顔 (実習) 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 6 子どもの顔、老人の顔 (実習) 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。 8 顔と心 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 9 自分の顔、他者の顔 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。 11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。 12 似合うメイクアップ (1) (PBL) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル (セ
------	--

	13 セルフメイク）実習。 似合うメイクアップ（2）（PBL） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル（セルフメイク）実習。 14 メイクアップの可能性について（1）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。 15 メイクアップの可能性について（2）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：課題を見出し、目指す方向性を把握している。 ◎D：メイクアップの多様な活用方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。（30分） 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。（30分）
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（セルフメイク）を行う。 授業内でスマートフォンやパソコンを使用し、課題制作や提出がある。 フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については随時授業内にてレビューする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：課題を評価する。 ◎D：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	「顔の百科事典」日本顔学会 「メイクセラピー入門3級対策」「メイクケアセラピー公式テキスト」一般社団法人メイクセラピストジャパン 「<よそおい>の心理学」サバイブ技法としての身体装飾 荒川歩 鈴木公啓 木戸彩恵 「化粧の力の未来」資生堂みらい開発研究所 「「粧う」ことで健康寿命を伸ばす化粧療法」池山和幸 「化粧にみる日本文化」
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習（セルフメイク）を行うため、授業終了時にメイクを落とす場合があり、授業に必要なメイク道具のほか、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア（質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） ブレイン・ダンプ（与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F35C57	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 視覚的な自己表現が必要不可欠な時代となり、客観的に自己の見え方、印象について管理する能力が重要で す。自分自身の目指す姿をイメージし、「どう見せたいのか」を考えてプロフィールシートを作成します。 (授業目標) メイクアップ効果による容貌の変化と自己表現の重要性を理解し、客観的な視点で対外的に表現したい自己に ついて考える。多彩な表現方法、ツールを知り、表現力を身につけることで人間力を磨き、創造的に社会と関 わることができる。 (学習成果) ◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピアランス（見た目）を表現できる。		
授業計画	1	セルフプロデュースとは 本講義の概要、評価方法、課題について	
	2	セルフプロデュースの必要性について（グループワーク） 個人の生涯における容貌の変化と美容、化粧行為による自己表現について。自己客観視につい て。	
	3	セルフイメージ・セルフビューティの重要性について（グループワーク） 自分に対する自己イメージや美容法について省みながら、自己理解を深める。	
	4	セルフブランディングについて（グループワーク） 現在のファッション、ヘアスタイル、メイクアップによる自己表現が与える印象について理解 し、オリジナリティや強み、特技、経験などから、自分ならではのポジショニングと相応しいア ピアランスについて考える。	
	5	印象管理 人の印象を構成する要素とは何かを学び、客観的に自分の印象について理解する。 場面やライフステージにおいて、どのように見せることが望ましいか考える。	
	6	印象表現 パーツのサイズや配置など、顔の印象に変化を与える要素を理解し、PCを用いシミュレーション を行う。	
	7	顔の印象分析理論(ゲスト講師) 顔の造形、パーツなどのもつ特徴が、人それぞれの印象を形成していることを学び、自己理解を 深める。	
	8	セルフプロデュース（1）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 コンセプト（キャラクター、業種、肩書き、経歴、キャッチコピーなど）を決め、相応しい見た 目について考える。	
	9	セルフプロデュース（2）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 デザイン（色、フォントなど）を決める。	
	10	セルフプロデュース（3）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 プロフィール写真を決める。	
	11	セルフプロデュース事例紹介（ゲスト講師） 実社会で活躍されているゲスト講師の事例を学び、リアリティを持って手法や重要性を理解す る。	
	12	プロフィール発表(プレゼンテーション) 作成したプロフィールを少人数グループで発表する。	
	13	多様な表現方法とツール メイクアップによる自己表現と社会への発信方法について学ぶ。	
	14	プロフィール発表(プレゼンテーション) 選抜者によるプロフィール発表。	
	15	10年後の自分をプロデュースする	

	自分の未来に広がる可能性を最大限に感じるために、今の自分ができることは何か。 10年後の自分を明確にイメージし、日常的に必要なセルフケアやメイクアップ方法を考える。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピアランス（見た目）を計画できる
事前・事後学習	事前学習：次回の授業中に提示されたキーワードについて調べ、課題に取り組む。（90分） 事後学習：プロフィールシート作成にむけ、講義内容を振り返り、プリントなどのワークは一人の時間で再度じっくり読み返したり、深掘りする。図書館の書籍を参考に、マーケティングやデザインに関する知識を広げておく。（90分）
指導方法	関連する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：課題70%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。
テキスト	なし 必要に応じ、プリントを配布
参考書	「パーソナル・マーケティング」本田直之 「「売れる個人」の作り方」安藤美冬 「現実 is 厳しい でも幸せになれる」アルバート・エリス
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。 セルフビューティ論を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： ビューティゼミ

授業コード： 1771

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
西村リサ、峯脇真弓			
ナンバリング：F36C64	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ビューティ業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ビューティ業界で働く心構えを学ぶ。 (授業目標) 広義に美容をとらえ、自信の生涯を通じてどのように美容と関わっていくのか考えを深め、女性の多様なキャリア形成について実例とともに学ぶ。 (学習成果) ◎D：美容への多様な関わり方を理解し、自分が関心を持っている美容について探求できる。 ○E：自分の考えや思いを的確に表現できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス (西村) 本ゼミナールの概要、授業の進め方 2 女性の多様なキャリアとライフスタイル (1) (西村) (PBL) 個人研究 多様な美容と表現、自分の興味関心のある事柄について考える 3 女性の多様なキャリアとライフスタイル (2) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 言葉1つで全てが変わる！ライティングの基礎知識 4 女性の多様なキャリアとライフスタイル (3) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 5 女性の多様なキャリアとライフスタイル (4) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 6 女性の多様なキャリアとライフスタイル (5) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 売り込むためのセールスライティングの基礎知識 7 女性の多様なキャリアとライフスタイル (6) (西村) (PBL) 自分の興味の方向性を見極め、研究する 8 女性の多様なキャリアとライフスタイル (7) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性の健康と食事 9 女性の多様なキャリアとライフスタイル (8) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティックについて 10 女性の多様なキャリアとライフスタイル (9) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティック望診 11 女性の多様なキャリアとライフスタイル (10) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性のライフステージと身体 12 女性の多様なキャリアとライフスタイル (11) (峯脇) 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 13 女性の多様なキャリアとライフスタイル (12) (峯脇) 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 14 女性の多様なキャリアとライフスタイル (14) (西村) (PBL) 個人研究 課題グループ発表 (プレゼンテーション) 15 ガイダンス (西村) (PBL) 個人研究 課題全体発表 (プレゼンテーション) 自分らしい生き方を目指して～ワークライフバランスについて
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：自分の持っている知識や情報をまとめることができる。 ○E：自分の考えを言語化しアウトプットできる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い自分自身のキャリア形成やライフスタイルについて考える（25分）。
指導方法	各自パソコンを使用してノートをとる。 パワーポイント等を使用する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「妊活食事法」コウノトリごはん」小山田明子 セルバ出版
履修上の注意	毎回パソコンを持参すること。 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL プレゼンテーション ディスカッション 実習

講義科目名称： ネイルアート演習 1

授業コード： 1501 1502 1503 1504

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F14C46	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。自分の爪やネイルチップを使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。正しい筆の使い方、ジェルの操作性、アートのバランスなどの演習を行う。個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。 （授業目標） 爪の名称や用具用材の特徴を知り、正しい知識のもとにセルフケアを学び、サロンクオリティに近づけるシンプルデザインを学ぶ。 （学習成果） ○D：ネイルに関する基礎用語、デザインの知識を学び、理解する。 ◎E：色々な技法を習得し、課題に応じたネイルアートを作成する。
----------------------------------	---

授業計画	1 ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：爪の形、構造、ハンドケア 2 実技：マニキュア ワンカラー 学科：マニキュアで使用する材料の成分を学習し適切な扱い方を学ぶ。 実技：ポリッシュの塗り方 カラー別4パターン。 3 実技：マニキュア ラメグラ ポリッシュで出来る事をさらに深める。正しい落とし方を学ぶ。 4 実技：マニキュア フレンチ ポリッシュでフレンチは難しいけど、それなりに魅せる方法を学ぶ。 5 実技：マニキュア 学科：ジェル理論 次回から始まるジェルに向けて、事前に学習。ジェルネイルは化学薬品である事から接触性皮膚炎を起こす事もあります。 この授業で正しい知識を得て、正しい使い方を学ぶ。 6 実技：ジェルネイル ワンカラー・ジェルネイルオフ 教材の確認。実際にジェルネイルを塗ってみて、ポリッシュとの違いを学ぶ。 ジェルネイルの正しいオフの仕方。 7 実技：ジェルネイル プレパレーション 学科：モチが良くなる方法 自分の手を使って角質を除去します。ポリッシュもジェルも爪に何か塗る時際に大事なものは、下処理。 それが出来なければどんな綺麗に塗れてもすぐ剥がれてしまうことを学ぶ。 8 実技：ジェルネイル グラデーション ラメといっても100種類以上あります。”派手になる”概念は捨てて、オフィスにもOKなさりげないラメから、華やかなラメを使用。 指先の煌めきにテンションが上がる感覚と共にセルフのクオリティを上げる。ジェルでしかできないアート。グラデーションは、どんな職業についても出来るネイル。指の太さや爪の形によってグラデーションの似合う幅は変わる事。皮膚の色により似合う色が違う事を感覚で学ぶ。 9 実技：ジェルネイル フレンチネイル ポリッシュでは難しかったフレンチが、ジェルではそれなりに魅せる事ができる。 その為の筆の使い分けなどを取得。 10 実技：ジェルネイル 課題授業の練習 5枚の作品を制作。課題授業の練習をする。 11 実技：ジェルネイル マーブル・天然石・べっ甲 ジェルの特性を活かして行う授業。正解のない、自分の感性で作り出すアートを学ぶ。 極細の筆や太い筆を使用し練習。柄の配置など、バランスとアートのコツを学び魅せ方を身につける。 12 実技：ジェルネイル フラワーアート 作品制作のクオリティを上げる技術を学ぶ。花のアートは、季節や流行を問わず1年中人気。 絵を描く事が苦手でもバランスの取り方を学べば、それなりに魅せる事ができる事を学ぶ。 13 作品のデザイン画制作・練習 作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。 仲間と共有しながら自分なりの個性を表現する事を学ぶ。
------	---

	14 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為のウェディングネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。 15 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：ネイルに関する基礎用語、ネイル技術の知識を身に付け説明できる。 ◎E：課題に応じたネイルアートの作成、個人制作では自ら考えたデザインの表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ事を練習し定着させる。ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。(30分) 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。(30分)
指導方法	ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。 講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。 ネイルチップを使用して練習するが、自分の爪を使用する場合もある。 基礎アート、応用アートを修得。最後に作品のデザイン画を作成、授業内で作品制作。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：ネイルに関する基礎用語、知識の理解度と表現力を評価する。 ◎E：課題に応じた、事前準備と完成度を評価する。 課題50%、授業貢献度50%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	ファッション雑誌など
履修上の注意	自身の爪を使用する授業の時は、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 課題授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習

講義科目名称： ネイルアート演習 2

授業コード： 1182 1183

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F25C56	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 本科目「ネイルアート演習2」は、将来ネイリストは志望しないが、ネイル演習の履修を希望する学生を対象としたクラスである。ネイリストを志望する場合は、「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」のシラバスを参照すること（「ネイルアート演習2」と「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」の開講時限は異なるため、時間割を確認すること）。 【SLセルフレベルアップコース】 （授業目標） アート筆を使用して細かいアートにチャレンジする。 SNSで目にするアニマル柄・氷ネイル・立体アート等を制作し、プロに近いアートの知識と技能を修得する。 （学習成果） ○D：基礎からステップアップし、プロに近い知識を身につける。 ◎E：演習1よりもクオリティーを上げる為の技術を学び修得する。
授業計画	1 ネイルアート演習2について ~SLセルフレベルアップコース~ 【SLセルフレベルアップコース】 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 2 実技：ジェルネイル 春のアート① 【SLセルフレベルアップコース】 ジェルをミックスしたり、多様な筆を使用して季節や流行のアートを制作。 3 実技：ジェルネイル 春のアート② 【SLセルフレベルアップコース】 季節や流行のアートを制作。 4 実技：ジェルネイル 推しネイル① 【SLセルフレベルアップコース】 推しのカラーを使って、ハートいっぱいネイルを制作。 5 実技：ジェルネイル 推しネイル② 【SLセルフレベルアップコース】 推しのイニシャルを手書きしたり、アート筆で字を描く方法を学ぶ。 6 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用法 【SLセルフレベルアップコース】 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学び、ケアレベルを上げていく。 7 実技：ジェルネイル アニマル柄 【SLセルフレベルアップコース】 いろんな形と色使いで、アニマル柄を表現する。 8 実技：ジェルネイル 梅雨ネイル 【SLセルフレベルアップコース】 しずく・水滴・たらし込み。ジェルの特性を活かしたアートを学ぶ。 9 実技：ジェルネイル 夏のアート① 【SLセルフレベルアップコース】 オーロラ・氷ネイル。フィルムを使用してキラキラの世界観を作る。 10 実技：ジェルネイル 夏のアート② 【SLセルフレベルアップコース】 立体的に作る夏のアートを学ぶ。 11 実技：ジェルネイル 秋のハロウィンアート 【SLセルフレベルアップコース】 これまでに学んだ事を活かし、さらにレベルを上げていく。 12 実技：ジェルネイル 冬のクリスマスアート 【SLセルフレベルアップコース】 プロが学びたいようなアート技法を学べる授業。 13 作品のデザイン画制作・練習 【SLセルフレベルアップコース】 作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。

	仲間と共有しながら、演習 1 よりもクオリティの高いアート作品を考える。 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「○○に似合うネイル」 5 本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。 15 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「推しに捧げるネイル」 5 本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
到達目標・基準 C評価になる基準	【SLセルフレベルアップコース】 ○D：季節やテーマに沿って、色合い、技法、学んだ事を活かしたデザイン知識を修得 ◎E：サロンクオリティに近い仕上がりになる技術を修得
事前・事後学習	【SLセルフレベルアップコース】 事前学習：完成度を上げる為には、より良いものを沢山見る事。リサーチ（20分） 事後学習：自宅で自分の爪やネイルチップに練習する。（30分）
指導方法	【SLセルフレベルアップコース】 授業前に、アートの説明を行いデモンストレーション。 その後ネイルチップに練習。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	【SLセルフレベルアップコース】 ○D：毎回の授業で指示する配置や気をつけるポイントをよく聞いて取り組んでいるかを評価する。 ◎E：レクチャーした工程、丁寧度など技術面で評価する。 作品制作 5 0 %、授業貢献度 5 0 %
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	
履修上の注意	【SLセルフレベルアップコース】 実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習

講義科目名称： ファッション コミュニケーション論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
廣瀬純子			
ナンバリング：F23C40	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ファッションと社会とのコミュニケーションをマネジメントする「広報 / パブリックリレーションズ」の役割や機能について理解を深める。キャリアにつながる知識として、スタイル、デザイン、ファッションインダストリー、ファッションメディアの変遷と現状について学ぶ。アウトプットとして、ストーリーボードを使ったスタイリング提案を行う。 (授業目標) ファッションインダストリーにおける広報の役割を理解し、キャリアにつながるファッションの知識とスキルを身につける。 (学習成果) ○D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識を深め、スタイリング提案に応用できる。 ◎E：『学んで理解する力』ファッションインダストリーにおける広報の役割を正しく理解し説明できる。		
授業計画	1	オリエンテーション 自己紹介。本講義の概要	
	2	ファッションスタディ① 20世紀ファッションのパイオニア	
	3	ファッションスタディ② オートクチュールからプレタポルテへ	
	4	ファッションスタディ③ 日本のファッション文化	
	5	ファッションスタディ④ 都市とファッション	
	6	ファッションスタディ⑤ ファッションのグローバル化	
	7	ファッションとメディア① ファッションと映画	
	8	ファッションとメディア② ファッション撮影—カタログ制作、タイアップ企画について	
	9	ファッションとメディア③ ストーリーボードの企画立案	
	10	ファッションとメディア④ ストーリーボードの制作	
	11	広報 / パブリックリレーションズ① 広報とは何か	
	12	広報 / パブリックリレーションズ② インターネットと広報	
	13	広報 / パブリックリレーションズ③ メディアリレーションズ	
	14	広報 / パブリックリレーションズ④ マーケティングコミュニケーション	
	15	全体のまとめ 総評、質疑応答、レポート作成	
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識を深め、スタイリング提案に応用できる。 ◎E：『学んで理解する力』ファッションインダストリーにおける広報の役割を正しく理解し説明できる。		

事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたファッションブランドや企業について、日頃からWEBや雑誌等で広く知識を得ておく（90分）。 事後学習：授業内容を振り返り、ポイントを整理する。授業時に取り組んだ課題を見直し、必要に応じて改善を行う（90分）。
指導方法	パワーポイント、及び授業内容に則した画像、映像などの視聴覚資料を用いて講義形式で行う。ストーリーボードの制作演習を行う。 授業内での課題及びアンケート提出がある。 フィードバックの仕方：授業での課題をGoogle Classroom を使って提出(学生) → 指摘を記入し返却 → 再提出 (学生)
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：課題を評価する。 ◎E：課題、レポートを評価する。 課題 70% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし。 資料を適宜配布。参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回、PC、スマートフォンを持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ディスカッション、演習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
廣瀬純子			
ナンバリング：F14C48	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 文章を書く上での基本的なルールを知り、基礎的なライティング技術を身につける。ファッションを取り巻く各メディアの特徴を知り、その働きを理解した上で、SNSでの投稿やプレスリリースの配信を想定したライティング演習を行う。シンプルなセンテンスでわかりやすく情報を伝え、共感を呼ぶテキストを書くための手法を学ぶ。 (授業目標) 伝えるためのライティングについて理解し、伝わる文章を書くことができる。 (学習成果) ○D：ファッション、ビューティに関する情報を収集、取捨選択することができる。 ◎E：ファッション、ビューティ業界への理解を深め、実践につながるライティングスキルを修得する。
授業計画	1 オリエンテーション 自己紹介。本講義の概要。 2 文章の基本について① 正しく伝わる文章を書くための、文章の基本的ルールを学ぶ。 3 文章の基本について② 読みやすい文章を書くための、文章の構成を学ぶ。 4 メディアコミュニケーション① メディアリテラシーについて理解する。 5 メディアコミュニケーション② パブリックリレーションズについて理解する。 6 プレスリリース① プレスリリースの目的、構成について学ぶ。 7 プレスリリース② プレスリリースを実際書き、その手法を学ぶ。 8 プレスリリース③ プレスリリースを実際書き、その手法を学ぶ。 9 ファッション① ファッションとメディアについて理解する。 10 ファッション② ファッションをテーマとしたライティング演習を行う。 11 ファッション③ ファッションをテーマとしたライティング演習を行う。 12 ビューティ① ビューティとメディアについて理解する。 13 ビューティ② ビューティをテーマとしたライティング演習を行う。 14 ビューティ③ ビューティをテーマとしたライティング演習を行う。 15 全体のまとめ 全体の振り返りと総評。質疑応答。レポート作成。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：ファッション、ビューティに関する情報を収集、現状と課題を明確にできる。 ◎E：ファッション、ビューティ業界への理解を深め、課題に応じたテキストを作成できる。
事前・事後学習	事前学習：日々、ファッションメディアや配信されるプレスリリースに目を通す（30分）。 事後学習：授業内容を振り返り、ポイントを整理する。授業時に取り組んだ課題を見直し、必要に応じて改善を行う（30分）。

指導方法	授業は、パワーポイント、及び授業内容に則した画像、映像などの視聴覚資料を用いて、講義形式で行う。毎回授業内でライティング演習を行う。課題及びアンケート提出がある。 フィードバックの仕方：授業での課題をGoogle Classroom を使用して提出（学生）→指摘事項を記入し返却→リライトし再提出（学生）
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：提出課題を評価する。 ◎E：提出課題、レポートを評価する 課題 70% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし。 資料を適宜配布。参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回、スマホ、PCを持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	演習、ディスカッション、プレゼンテーション。

講義科目名称：ビューティアドバイザー演習

授業コード：1491 1492 1493 1494

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
福島裕司			
ナンバリング：F14C42	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前半はタッチアップするためのポイントメイクオフとポイントメイクをマスターすることを重点的に行う。後半はカウンセリングの手順を学び、スキンケアアドバイスとメイクアップの提案&メイクアップができる技術を身につける。 (授業目標) 美容やコスメの情報を学びながらメイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップができる。 (学習成果) ◎B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ○A 接客マナーを身に着け相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ○C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス 授業目標、授業の進め方の説明、評価の仕方、使用する道具の説明 美容業界、ファッションブランド～アーティストブランドを学ぶ 2 ポイントクレンジング～スキンケア クレンジング～スキンケアの種類や手順を学ぶ 相モデルで実習 3 ベースメイクアップ 皮膚の知識やベースメイクの種類を学ぶ スキンケア～ベースメイクまで相モデルで実習 4 タッチアップ演習① ポイントメイクオフとポイントメイク リップテクニックを学ぶ リップの違いを学び実習する アイメイクの上からのタッチアップ方法 5 タッチアップ演習② ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク (アイシャドー・アイライン) アイシャドーとアイラインのメイク方法を学び実習する 6 タッチアップ演習③ ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク (アイライン・ビューラー・マスカラ) アイブロウテクニック ビューラーとマスカラのメイク方法を学び実習する 7 タッチアップ演習④ ポイントメイクオフとポイントメイク アイブロウテクニックを学ぶ アイブロウの色と形を理解してモデルに合わせて実習する 8 ビューティカウンセリング① 接客の心得とは何かを学ぶ 笑顔～姿勢～挨拶まで学び、繰り返し練習する 9 ビューティカウンセリング② ホスピタリティマインドを学ぶ 接客に必要な知識を学び、演習する 10 ビューティカウンセリング③ 聴く力 販売ロールプレイングを学び接客力を上げる 11 ビューティカウンセリング④ 販売ロールプレイングを行い接客力を学ぶ 分析力 ゴールに向けて言語化 ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案 12 ビューティカウンセリング&メイクアップ① 実技チェック前半 ビューティーカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ 13 ビューティカウンセリング&メイクアップ② 実技チェック後半 ビューティーカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ
------	--

	14 これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて① ビューティーカウンセリングを行いメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ 15 これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて② いままでのフィードバックを行う。 授業の振り返りとこれからの美容について考え、レポートにまとめる
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ○A 接客マナーを身に着け相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ○C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。(20分) 事後学習：課題となったテーマについて、授業内容を振り返りながら技術を復習しておくこと。(25分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。 アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（相モデルメイク）を行う。 フィードバックの方法…実習の場合はその場での技術の指摘、リタッチなど行う。課題提出の場合はGoogleClassroomを活用。課題提出（学生）→確認したのち、指摘事項を記入し、返却→再提出 繰り返し
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：接客を想定したコミュニケーションを実施し、カウンセリングシート、イラストも含めて仕上がっているかどうかを評価する。 A：カウンセリングシート通りに、メイクアップが仕上がっているかを評価する。 C：肌の悩みに対して種類別にアドバイスができる。 カウンセリングシート30%、実技20% 課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	セルフメイク演習、セルフビューティ論を履修していることが望ましい。 実習は学生同士がお互いにモデルとなって行う形式である。（相モデル） メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習、ペアワーク、グループワーク

講義科目名称： スキンケア演習

授業コード： 1521 1522

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
峯脇真弓			
ナンバリング：F14C41	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容）皮膚の基礎知識を理解し、カウンセリング実習を通して他者の肌状態を分析する。カウンセリングを通して様々な価値観や考え方を理解し受入れ、他者の肌悩み等を課題として捉え解決へと導く方法を学ぶ。化粧品知識・生活習慣が及ぼす肌への影響を理解し、課題解決する為に必要なコンサルティングを行う。 （授業目標）皮膚の基礎知識、化粧品知識に関する理解を深め、肌分析力を身に付ける。カウンセリングを通して他者受容や傾聴力を身に付け、他者へ課題解決に導くコンサルティングができるようになる。 （学習成果） ◎E：カウンセリングを通して他者の肌を正しく分析し、様々な視点から肌をとらえ肌トラブル解決へ導く手段を提示し述べるができる。		
授業計画	1	ガイダンス・皮膚基礎知識（１） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。皮膚の構造と働き	
	2	皮膚基礎知識（２）・肌タイプと特徴 皮膚の構造と肌細胞や各組織の働き。肌の特徴と肌分析方法	
	3	肌トラブルと原因 肌トラブル毎の原因を肌組織の働きを結び付ける	
	4	スキンケア基礎知識（１） 様々なスキンケアアイテムの目的効果・使用方法	
	5	スキンケア基礎知識（２） 肌トラブル毎に効果的な化粧品成分を分類する	
	6	スキンケア基礎知識（３） 肌タイプや肌トラブル毎に必要な化粧品成分が配合されているアイテムを考察する	
	7	肌トラブルと体調の関係 体調から肌トラブルの原因を考察する	
	8	肌トラブルと栄養の関係 栄養から肌トラブルの原因を考察する	
	9	美容カウンセリング（１） カウンセリング概論（受容・傾聴・共感）。美容カウンセリング方法を理解する	
	10	美容カウンセリング（２） 美容カウンセリングを実施し、他者を受容・傾聴し共感する	
	11	美容カウンセリング（３） 美容カウンセリングを通し、他者の肌タイプと課題を分析する	
	12	美容アドバイス 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示する	
	13	美容カウンセリング・アドバイス（１） 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し根拠を述べる	
	14	美容カウンセリング・アドバイス（２） 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し根拠を述べる	
	15	美容カウンセリング・コンサルティング 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し、継続的に必要なスキンケア方法と化粧品を提案する	
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：皮膚の基礎知識や化粧品知識の理解を深め、肌状態や肌トラブルに適応するスキンケアを提案でき、その根拠を述べるができる		
事前・事後学習	事前学習：様々なスキンケア化粧品の特徴や成分や効果をチェックし調べる（25分） 事後学習：受講した内容を要約しノートにまとめる（20分）		
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義だけでなく、グループワーク等を取り入れ		

	る。 カウンセリング実習では、デモンストレーションを行い、実際に相モデルでカウンセリング実習を行う。 ・知識テストと実習テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却→授業後におけるコメントへの質疑応答 ⇒実習テスト結果を返却→授業後におけるコメントへの質疑応答 ・課題やテストは、Google classroomでの提出や返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：筆記試験、実技、課題・小テストを評価する。 筆記試験20%、実技30%、課題・小テスト20%、授業の参加状況30%
テキスト	一般社団法人日本化粧品検定協会 日本化粧品検定 準2級・3級 対策テキスト コスメの教科書
参考書	
履修上の注意	・素肌（ノーメイク）になることがあります。 ・授業時にメイクを落とす可能性があるため、簡易的なメイク落としやメイク直しの道具を準備すること。 ・自身の肌だけでなく他者の素肌に触れ観察します。 ・実習で必要な道具類を各自で用意する。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習

講義科目名称： ビューティゼミ

授業コード： 1771

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
西村リサ、峯脇真弓			
ナンバリング：F36C64	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ビューティ業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ビューティ業界で働く心構えを学ぶ。 (授業目標) 広義に美容をとらえ、自信の生涯を通じてどのように美容と関わっていくのか考えを深め、女性の多様なキャリア形成について実例とともに学ぶ。 (学習成果) ◎D：美容への多様な関わり方を理解し、自分が関心を持っている美容について探求できる。 ○E：自分の考えや思いを的確に表現できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス (西村) 本ゼミナールの概要、授業の進め方 2 女性の多様なキャリアとライフスタイル (1) (西村) (PBL) 個人研究 多様な美容と表現、自分の興味関心のある事柄について考える 3 女性の多様なキャリアとライフスタイル (2) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 言葉1つで全てが変わる！ライティングの基礎知識 4 女性の多様なキャリアとライフスタイル (3) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 5 女性の多様なキャリアとライフスタイル (4) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 6 女性の多様なキャリアとライフスタイル (5) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 売り込むためのセールスライティングの基礎知識 7 女性の多様なキャリアとライフスタイル (6) (西村) (PBL) 自分の興味の方向性を見極め、研究する 8 女性の多様なキャリアとライフスタイル (7) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性の健康と食事 9 女性の多様なキャリアとライフスタイル (8) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティックについて 10 女性の多様なキャリアとライフスタイル (9) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティック望診 11 女性の多様なキャリアとライフスタイル (10) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性のライフステージと身体 12 女性の多様なキャリアとライフスタイル (11) (峯脇) 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 13 女性の多様なキャリアとライフスタイル (12) (峯脇) 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 14 女性の多様なキャリアとライフスタイル (14) (西村) (PBL) 個人研究 課題グループ発表 (プレゼンテーション) 15 ガイダンス (西村) (PBL) 個人研究 課題全体発表 (プレゼンテーション) 自分らしい生き方を目指して～ワークライフバランスについて
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：自分の持っている知識や情報をまとめることができる。 ○E：自分の考えを言語化しアウトプットできる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い自分自身のキャリア形成やライフスタイルについて考える（25分）。
指導方法	各自パソコンを使用してノートをとる。 パワーポイント等を使用する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「妊活食事法」コウノトリごはん」小山田明子 セルバ出版
履修上の注意	毎回パソコンを持参すること。 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL プレゼンテーション ディスカッション 実習

講義科目名称： 応用栄養学

授業コード： 3191 3192 3193

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N25C19	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ヒトの一生はライフステージ別に、妊娠期・授乳期、離乳期、幼児期、学童期、思春期、成人期（青年期・壮年期・実年期）高齢期に分けられる。それぞれの時期における身体的特性や栄養学的問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、栄養ケアとマネジメントについて学ぶ。また、特殊環境下、スポーツ活動時における栄養管理についても学ぶ。 (授業目標) 対象者のライフステージに合わせた栄養マネジメント力を身に付け、食のプロフェッショナルとして、食を通じた健康維持・増進に関わる力を身に付ける。 (学習成果) ○D：ライフステージごとの身体特性と、それぞれのステージで食事摂取基準が定められている理由が理解できる。それを基礎に各ステージでの、食生活における問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方が理解できる。また、特殊環境下やスポーツ活動時の身体状況の変化について理解し、栄養学的対応方法についても理解できる。 ◎E：知識の丸暗記ではなく、栄養ケアに関し判断する力を身に付ける。 〈TQ〉食事摂取基準の考え方を理解した上で、各ライフステージで大切な栄養ケア・マネジメントの特徴は何か？
----------------------------------	---

授業計画	1 成長・発達・加齢(老化) (ICT：Classroom) 応用栄養学の基礎となるヒトにおける生命現象の流れ（ライフサイクル）を学ぶ。成長・発達・加齢さらに老化の定義を学び、ライフステージ別栄養理解のための基礎を学ぶ。 2 栄養必要量の科学的根拠 (ICT：Classroom) 食事摂取基準策定の歴史、概要について学ぶ。2020年版における、各栄養素ごとの策定の根拠について学ぶ。小テストを行う。 3 栄養マネジメント (ICT：Classroom) 栄養スクリーニング、栄養アセスメントの実際とその手順について学ぶ。栄養プログラムの目標設定、立案、実施と評価方法と、評価のフィードバックに関しても併せて学ぶ。小テストを行う。 4 妊娠期の栄養 (ICT：Classroom) 妊娠期の母体と胎児の生理学的特徴を学び、妊娠期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法について学ぶ。小テストを行う。 5 授乳期の栄養 (ICT：Classroom) 授乳期の女性の生理学的特徴、母乳分泌の機序、授乳婦に起こりやすい栄養学的問題に関して学ぶ。授乳期の栄養ケアについて併せて学ぶ。小テストを行う。 6 乳児期の栄養 (ICT：Classroom) (PBL) 乳児期の発育・発達、生理的特徴と、乳児に関する栄養アセスメント法について学ぶ。出生時・乳児期に起こりやすい栄養学的問題に関し学ぶ。母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。乳児期の食事摂取基準を学び、離乳の目的、離乳の進め方について学ぶ。小テストを行う。 7 幼児期の栄養 (ICT：Classroom) (PBL) 幼児期の発育・発達とその評価法を学ぶ。幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に発育障害とアレルギーについて学ぶ。幼児期の食事摂取基準について学ぶ。小テストを行う。 8 学童期の栄養 (ICT：Classroom) 学童期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。小児期生活習慣病に関する理解を深める。小テストを行う。 9 思春期の栄養 (ICT：Classroom) 思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。スパートの時期の栄養に関して考える。小テストを行う。 10 成人期の栄養 (ICT：Classroom) 成人期（青年期・壮年期・実年期）の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関して学ぶ。 生活習慣病の現状について学び、その予防・対策に関して考える。小テストを行う。 11 更年期の栄養 (ICT：Classroom) 更年期の生理学的特徴とそれに伴う栄養学的問題について学び、栄養ケアのあり方に関して考える。小テストを行う。
------	--

	12 高齢期の栄養（ICT：Classroom） 高齢期の加齢・老化に伴う生理学的特徴を学び、アセスメント法、高齢期に多い栄養学的問題に関して学ぶ。さらに、食事摂取基準、栄養ケアに関して学ぶ。小テストを行う。 13 障がい者と栄養（ICT：Classroom）（PBL） 障がい者の栄養学的特徴、必要な配慮について学び、さらに障がいを持つ人に食事を提供する際の栄養ケアのあり方を学ぶ。小テストを行う。 14 運動・スポーツと栄養（ICT：Classroom）、講義のまとめ・理解度（筆記）の確認 運動時の生体反応について学び、一般人・アスリートにおける運動と栄養との関係について学ぶ。 講義のまとめ・理解度（筆記）の確認を行う。 15 環境と栄養（ICT：Classroom）（プレゼンテーション）（PBL） 高温・低温、高圧・低圧等、特殊環境下におけるヒトの生理学的状態を学び、栄養学的対応を考える。学んできた各ライフステージから1つ選択し、栄養ケアについてまとめたことを発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：ライフステージごとの適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、特殊環境下やスポーツ活動時の身体変化を明確にできる。 ◎E：生体反応と栄養ケアの必要性の関連を明確にできる。
事前・事後学習	事前学習：各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。（60分） 事後学習：授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。（120分）
指導方法	・教科書を中心とした講義形式で行う。授業ポイントをまとめたプリントを配布したり、パワーポイントを使用して解説する。 ・項目ごとに栄養士実力認定試験の過去問題に沿って小テストを行う。理解度を確認しながら授業を進めていく。 ・フィードバックの仕方：小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑応答。 提出物①課題の提示、②評価のうえ返却、③授業後による採点についての質疑応答。 プレゼンテーションの評価①ワークシートを使用して学生間で評価する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：提出物・プレゼンテーション、小テストにより評価する。 ◎E：講義のまとめ・理解度確認（筆記）、小テストにより評価する。 講義のまとめ・理解度確認（筆記）50%、小テスト 40%、提出物・プレゼンテーション10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	Nブックス 応用栄養学概論〔第2版〕渡邊早苗・松田早苗・真野由紀子編 建帛社 2022年
参考書	栄養士実力認定試験過去問題集：全国栄養士養成施設協会編、建帛社
履修上の注意	項目ごとに「栄養士実力認定試験」を意識した小テストを行います。テストの内容は、前もって連絡をします。何らかの事情で欠席する場合は事前に連絡してください。配布プリント、授業中に行う小テストの内容は講義のまとめ・理解度確認（筆記）の範囲に含まれます。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション、PBL型授業

講義科目名称： 応用栄養学実習

授業コード： 3201 3202 3203

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N25C20	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ライフステージ別に適切な栄養素の摂取、食生活のあり方、食形態を前提とした献立の実践を学び、実習を通して調理上の注意点、献立立案における配慮事項を学ぶ。 また、試食を通して調理法の選択、食感・味覚上の問題に関しても理解を深め、対象者が満足する食事作りを身に付ける。 (授業目標) ライフステージ別の生理的特徴や変化、食事摂取基準を理解し、栄養マネジメントを行うために必要な基礎的な知識と調理技能を習得する。 (学習成果) ◎C：ライフステージ別生理学的特性を理解した上で、それに適した献立、調理法の改善を示すことができる。 ○D：ライフステージ別の食事の実践を理解し、その知識を応用した献立の工夫を示すことができる。 〈TQ〉妊娠期の栄養状態を改善するために食事計画（調理を含める）で大切なことは何か？
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス、成人期の栄養 実習概要、実習の基礎演習、栄養マネジメント、ライフステージごとの食事摂取基準など実習に必要な知識を概説する。 2. 3 成人期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。事例に基づいた食事計画のポイントを確認する。 2. 3 妊娠期・授乳期の栄養－献立作成－（PBL）、運動と栄養・環境と栄養（実習：試食） 妊娠期・授乳期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。各個人で、妊娠期・授乳期の献立を作成する。運動時の特性を学び、身体活動への積極的な取り組みを検討する。特殊環境における栄養の特性を学ぶ。市販されている関連食品の試食を行う。 4. 5 乳児期の栄養－調乳・離乳食－（実習：調理・試食） 無菌操作法を用いた調乳方法について学ぶ。調製粉乳・フォローアップミルク・治療乳・液体ミルクを試飲する。 離乳食の進め方を学ぶ。離乳食の調理を学び、離乳の進め方を評価する。離乳の時期による食形態の差異を学ぶ。 6. 7 幼児期の栄養－食物アレルギー代替食・間食－（実習：調理・試食） 乳幼児期の三大アレルギーを学ぶ。食物アレルギー代替食の調理を学び、調理方法を評価する。幼児期の生理的特性を学び、間食の重要性を理解する。間食の調理を行い、試食後、評価する。 8. 9 学童期の栄養（実習：調理・試食） 学童期生理的特性、栄養管理を学ぶ。学校給食で好評な献立やカルシウム豊富な献立の調理を行い、試食後、評価をする。 10. 11 思春期の栄養（実習：調理・試食） 思春期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。思春期に必要な栄養素を豊富に含む献立の調理を学び、栄養価を評価する。 12. 13 高齢期の栄養－食事介助の配慮・咀嚼機能の低下の配慮－（実習：調理・試食） 高齢者の生理的特性、栄養管理を学ぶ。食事介助の配慮をした献立の調理を学び、自立支援の高齢者の栄養管理を学ぶ。 食事介助の配慮をした献立の調方法を評価する。咀嚼・嚥下機能の低下がある場合の献立の調理を行い、試食後、評価をする。 14. 15 妊娠期・授乳期の栄養－献立評価－（プレゼンテーション）（PBL）、咀嚼や嚥下機能の配慮（実習：試食）2、講義のまとめ・理解度（筆記）確認 献立評価を行い、作業計画を検討する。各班で優秀献立を選定し、優秀献立作成者が代表としてプレゼンテーションを行う。 咀嚼や嚥下機能の低下に配慮した市販食品（ソフト食、ムース食等）の試食を行なう。 講義のまとめ・理解度（筆記）確認を行う。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：ライフステージに合わせた、食における問題点を説明することができる ○D：対象者に適した調理法や味覚に配慮をした調理操作を選択できる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、まとめておく。（45分） 事後学習：配布プリントの確認を含め、授業内容をまとめたレポートに取り組む。特に、事後学習が大切である。授業の調理を振り返り自宅で作ってみると、理解も調理技術も上達する。（45分）
指導方法	・調理実習はデモンストレーションをしながら説明を行い（手元カメラでデモ中の映像を拡大して見ることが

	できる)、グループごとに実習する。 ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・調理実習終了後に点検を受け、グループごとに終了となる。 ・内容に応じてパワーポイントを利用して要点を示しながら説明をする。 ・適宜DVD等の視聴覚資料を利用する。 フィードバックの仕方：レポート①課題の提示、②課題を提出後評価し、コメント記載のうえ返却する、③授業後による採点についての質疑応答。 実習①料理の仕上がり、効率を評価、②評価後に班別、個別にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：講義のまとめ・理解度（筆記）確認、レポートを評価する。 ○D：レポートを評価する。 講義のまとめ・理解度（筆記）30%、レポート提出 50%、実習で作った料理および作業効率の良さ、グループワークの貢献度 20% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	スタンダード人間栄養学 これからの応用栄養学演習・実習（第2版）―栄養ケアプランと食事計画・供食― 渡邊 早苗・宮崎 由子・吉野 陽子・天本 理恵編 朝倉書店 2025年
参考書	・「八訂準拠 ビジュアル食品成分表」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 ・「調理のためのベーシックデータ」松本仲子編著 女子栄養大学出版部
履修上の注意	応用栄養学講義で終了した内容は、十分に理解していることが望ましい。 提出物の期日を厳守する。 実習中は安全・衛生に注意する。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

講義科目名称： 給食管理実習（学内）

授業コード： 3311 3312 3313

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子、狩野恭子			
ナンバリング：N27C30	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 栄養士の業務内容（予定献立の作成、食材発注、検収、大量調理、食事サービス、栄養事務、栄養指導）を学内において実践する。給食管理実習（学内）では、すでに学んだ食事計画、給食管理の理論などの知識を生かして実務を行う。給食の運営のテーマは「学生の健康管理のための給食」とし、給食における栄養教育の実際と効果も含めて観察や調査も行い、実社会同様に実施する。この実習を通じて、給食の運営に携わる栄養士のあり方を学ぶ。 （授業目標） 特定給食施設における給食管理の実際を体得するとともに、特定給食における給食管理のあり方を理解する。 （学習成果） ☐ A：グループ内での役割分担が適切に行われ、協力しながら作業が滞りなく進めることができる。 ☒ B：大量調理における食材の衛生的な取り扱い方のポイントを十分に理解し、給食提供サービスが予定時間通りに調理が効率よく終了することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 栄養計画（PBL） 給食管理実習（学内）について概要を把握し、給与栄養目標量、大量調理における衛生管理について確認をする。 料理様式別の特徴を比較し、それぞれの特徴を確認する。 利用者に対応した給与栄養目標量をもとに献立作成を行う。 2 大量調理施設設備の把握・献立作成手順（調理実習：調理・試食）（PBL） 実習室（厨房）内の施設・設備及び器具類の把握、大量調理機器を使用して簡単な調理を行う。 献立作成手順を確認しながら、知識を定着させる。 3 作業計画①（グループワーク：給食を提供するためのサービスをまとめる。）（PBL） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。 4 供食実習①（調理実習：調理・試食）（PBL） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。 5 給食の評価①（グループワーク）（PBL） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 献立から栄養比率を求め、栄養評価をする。 栄養指導教材の評価をする。 6 作業計画②（グループワーク：給食を提供するためのサービスをまとめる。） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。 7 栄養指導教材の作成 献立内容に沿った栄養指導教材の作成をする。 8 供食実習②（実習：調理・試食） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。 9 給食の評価②（グループワーク） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 栄養指導教材の評価をする。 10 帳票整理 大量調理実習における重要管理点をまとめる。 実施献立表の作成、栄養日報の作成する。 調味と数値が一致しているか確認し、知識を定着させる。 11 作業計画③ 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。 12 供食実習③（調理実習：調理・試食） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。
------	--

	13 給食の評価③（グループワーク） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 14 栄養指導教材の評価をする。 食事計画の評価・まとめ（グループワーク） 献立表の役割を理解し、対象者に合った献立であったかの確認をする。 作成献立の発表を行い評価をする。 見つかった問題点を検討し、修正を行う。 理解度確認（筆記） 15 全体報告会（グループワーク・プレゼンテーション） グループ討議による実習内容の評価、反省会で個人発表をする。
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：グループ内での作業に協調できる。 ◎B：大量調理における食材の衛生的な取り扱い方のポイントを最低限理解し、給食提供サービスを予定時間に概ね調理が終了することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業の準備として、1年次に修得した「給食の運営」と「食品と衛生」分野の復習をする。 試作した献立を大量調理実習前に自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。（30分程度） 事後学習：実習ノートの整理、レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめをすること。 特に、事後学習が大切である。（60分程度）
指導方法	1 クラスをグループに分け、それぞれの日程で実習が進行する。献立の決定、作業管理、試作による献立の検討、実習準備、実習実施の各段階で随時アドバイスをしながら実習を進めていく。実習献立のまとめには、PCを用いて、栄養価計算ソフトを使用する。 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価して返却、④授業後による採点についての質疑応答。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：個人の授業態度・グループワークを評価する。 ◎B：レポート、理解度確認（筆記）を評価する。 理解度確認（筆記） 50%、レポート提出 40%、個人の授業態度・グループの評価（積極性、協調性、責任感） 10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	・「改訂給食のための基礎からの献立作成大量調理の基本から評価まで」上地加容子・片山直美編著 株式会社建帛社 2022年
参考書	・「調理のためのベーシックデータ 第6版」 女子栄養大学出版部 2024年
履修上の注意	1. グループで作業を行うことから協力が必須となる。グループが一丸となって実習に臨むこと。 2. 事前に細菌検査を実施する。食中毒菌陰性の証明のない学生は実習室への入室を禁止となるためきちんと期限を守って検体を提出すること。 3. 大量調理を行う際には体調管理が重要となる。自分自身の体調管理を十分すること。 実習当日に体調不良の場合は、必ず申し出てください。 4. 給食の運営・管理についての筆記試験を行います。余裕をもって準備をしてください。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： 応用調理（スイーツ）

授業コード： 3431

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
大塚公子			
ナンバリング：N28C38	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 洋菓子を中心とした製菓の実習を通して菓子の由来、製法と技術、素材の知識、器具の扱い等を総合的に学ぶ。デモンストレーションの後、班で協力して作品を仕上げる。盛り付けは師範台も参照しながら班独自の工夫をし、発想力、応用力を養う。 (授業目標) 製菓の基礎的知識と技術を習得し、他の授業とも関連付けながら学びを深め、幅広い「食」と「職」への意識を高める。 (学習成果) ○A：積極的に実習にかかわり、チームワークを築きながら作品を仕上げることができる。 ◎D：①製菓の基礎的知識、素材の科学、道具の扱いを理解できる。 ②実習で学んだ事柄や疑問を考察し、理論づけて表記することができる。
授業計画	1 ガイダンス・りんごのクランブル・サラダクレープ 授業の進め方・教室の使い方・成績評価についての説明 クレープの由来と作り方・フライパンの扱いと焼き方・具材と巻き方のアレンジ クランブルの作り方 2, 3 ココアバナナロール・ぶどうのヨーグルトムース 別立て法によるスポンジ生地の作り方とポイント バタークリームの作り方とメレンゲの種類 ムースの特徴と作り方・ゼラチンの種類と扱い方 4, 5 フルーツケーキ・かぼちゃのプリン（ハロウィン仕様） フルーツケーキ（バターケーキ）の由来と作り方・漬け込みフルーツの作り方 バターケーキの種類・焼き型の種類と特徴 基本のプリンとアレンジ・カラメルの作り方 6, 7 シュークリームバリエーション・コーヒーゼリー シュー生地の作り方とポイント・絞り袋の扱いと絞り方・シュー生地の応用（シューサレ・エクレア） カスタードクリームの作り方 8, 9 肉まん・中国風ナッツクッキー・杏仁豆腐 発酵生地の作り方とポイント・肉まんの包み方・中華セイロの扱い方 中華菓子の特徴 バター以外の油脂について 寒天の種類と扱い方 10, 11 苺のショートケーキ、クリスマスクッキー、パートブリゼの仕込み 共立て法によるスポンジの作り方とポイント 生クリームの性質 フードプロセッサー・ハンドミキサーなど機器の扱いと簡便化 パートブリゼ（練りパイ生地）の作り方・パートシュクレとの違い 12, 13 キッシュ、フォンダンショコラ、季節のコンポート キッシュの由来と作り方・パイ生地の扱い方 チョコレートの扱い方 コンポートの作り方と保存法 14, 15 実技課題（スポンジケーキ）・日本の粉もの（おやき・豆腐白玉団子） これまでの学びを活かして一人ずつスポンジケーキを焼く お焼きの作り方・具材のアレンジ 白玉団子の作り方・米を原料とする粉の色々
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：進んで実習にかかわり、協力しながら作品を仕上げ、チームワークに貢献できる。 ◎D：①基本的な生地の作り方、素材や道具の扱い方を知り、どのように作られているかを理解できる。 ②作り方のポイントや疑問を自分の言葉でまとめ、表記することができる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って進めていくので、その日の内容について調べ、質問事項があれば準備しておく。 (30分) 事後学習：授業で学んだ知識やポイントを記憶が新しいうちにレシピやノートにまとめる。自分がかかわれな

	かったり、上手くできなかった作品はもちろん、再度作ってみることで技術が身に付き、より理解が深まる。 (60分)
指導方法	・講義とデモンストレーションの後、班に分かれて実習を行う。 ・作業工程と作品を総合的に評価し、撮影した後、試食と片づけを行う。点検を受けてから班ごとに終了する。 ・毎回評価表を提出（当日～次回の授業開始前まで）、理解度を確認して採点する。 フィードバックの方法：①実習中は常に見回りながらアドバイスを行う、②授業中はその都度、授業後でも質疑に対応する、③作品についての評価、④評価表へのコメント及び採点
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：受講態度・班での貢献度・作業効率を評価する。 ◎D：講義と実習の理解度を提出課題により評価する。 提出課題（50%） 実技課題（20%） 受講態度と貢献度（20%） 作品の評価（10%） を総合的に評価する。実習授業の為、筆記試験は行わない。
テキスト	毎回レシピをプリントして配布する。
参考書	
履修上の注意	製菓に興味があり、実習体験を重ねて、より幅広い知識や技術を習得したい人におすすめします。 事前の爪切り、ハンドタオル持参など、身なりの衛生に留意すること。 調理中はケガのないよう注意し、試食中の会話も含め、常に衛生観念を持って臨むこと。 食物アレルギー等は事前に申告すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：選択
担当教員			
小川聖子			
ナンバリング：N12C03	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 日本の食文化の特色を、地理、歴史、気候、社会的・文化的な側面から解説する。 さらに、中国、韓国などの日本の隣国、フランスやイタリアなどに代表される欧米の食文化の歴史を検討し、これらが日本の食文化へ与えている影響を学ぶ。 また、近年注目を集めているユネスコの無形文化遺産である「和食」について、その内容の詳細な解説と問題点を提起する。 (授業目標) 食文化の理解を通じて、食という身近なことへの学術的なアプローチの方法を身につける。さらに将来の日本の食について思考を深める力を身につける。 (学習成果) A：食に関する情報を日々の暮らしの中で積極的に考えることができ、活用することができる。 D：現代の食と、歴史上の食とを比較し、食の変遷の様子を述べることができる。 ◎E：文献などをはじめとする資料や、具体的な食事の様子から、食文化について知識を深めることができる。		
授業計画	1	食文化とは何か。その成り立ちと特性について 食事は、人間が生物として生命を維持するために必至の物である。そのため長らく、食が文化であるという考え方はなされてこなかった。食文化が学術として確立されたのは、今から50年ほど前に過ぎない。これらのことをふまえて、人間にとっての食文化とは何か、他の動物との違いについて、比較しながら考える。	
	2	日本人と米 日本の食文化において、もっとも大きな影響を与えている食品は米である。米が重要視されるようになるまでの歴史的な背景について学び考える。また、食文化の記録や伝承は、ケの日である普段の食よりも、行事などのハレの日においてみられることが多い。米に関しても同様で、ハレの日の代表的な食品として餅がある。餅を用いた料理について日本各地の差を考え、その歴史的な背景を学ぶ。	
	3	日本の行事食①ー正月・桃の節句（プレゼンテーション） 江戸時代に確立された五節句は、現在の日本においても「行事食」として根付いている。行事食の第一回目として、行事食の成り立ちと、正月料理と春の七草、桃の節句などについて学ぶ。 正月にほとんどの学生が経験している「雑煮」について、自己の場合、自分が知りえる例をまとめてレポートにする。 レポートを発表し、他の学生の場合も認識する。	
	4	日本の行事食② ー端午の節句・七夕・菊の節句ー 同様に、端午の節句・七夕・菊の節句について学ぶ。	
	5	和食の特徴とその成り立ちと歴史① 現在「和食」というカテゴリーに含まれる食事の特徴について、整理して考え学ぶ。	
	6	和食の特徴とその成り立ちと歴史② 和食の元となった「本膳料理」「精進料理」「懐石」について、その特徴を一つずつ順を追って学ぶ。特に「本膳料理」は、現在の日本料理のご飯とおかずの組み合わせ、一汁三菜の始まりがみえる。日本料理ならではの形の始まりを学ぶことで、現在の自分たちの食のルーツを知る。	
	7	江戸の食文化 江戸時代の江戸は、世界一の人口密集地であり、知的レベルの高い都市であった。食に関しても独特の世界感があり、江戸の食文化が東日本全体へ伝播していった。「すし」「そば」「うなぎ」「天ぷら」のように現在の「和食」の代表的な料理が確立されたのもこのころである。江戸っ子の食とその特徴を学ぶ。 また、江戸時代に確立された庶民の食文化「会席」と「料亭」について学ぶ。	
	8	日本料理のマナーと食文化 会席料理には、食事のマナーとして着席時の上座下座、器の扱いと箸使い、懐紙の使い方、などがある。それを踏まえて、楽しくおいしく食事をするための心遣いなどを学ぶ。	
	9	嗜好品の発達 ー和菓子を代表としてー 嗜好品は、菓子、酒、茶など、生命の維持のためには不必要なものである。しかしながら、世界の国々の中でこの嗜好品が存在しない国はないといってもよい。それはすなわち、人間が食に楽しみを求め、食が人と人とを繋げるコミュニケーションツールであることに他ならない。おもに、和菓子の発達を中心に学んでゆく。	
	10	沖縄の食文化	

	11 沖縄は歴史的に見ても、独特の経緯を持って日本の食文化に取り入れられていった。栄養学的にも興味深い一面を持つと同時に、近年では食の周辺の様々な問題を抱えている。琉球時代からの沖縄の食を学ぶことで、食文化が外的な要因で変遷する経過をたどる。 12 韓国の食文化 日本の隣国である韓国の料理について、その特徴と成り立ちを学ぶ。日本は、有史からあらゆる側面において中国文化の影響を大きく受けてきた。それらの大半は、隣国である韓国を通じてわが国にもたらされた。現在、韓国と日本の食文化には共通点も相違点もみられる。韓国の食文化を通じて、隣国の庶民文化の内容と特徴を学ぶ。 13 中国の食文化 中国の食文化は、世界の食文化の中で最も古いものの一つで、その影響を受けた国はアジア全般にわたると言える。我が国も例外ではない。中国の現在の食の事情を知り、我が国との共通点、相違点などを学ぶ。 14 フランス料理とその食材 フランス料理は、ユネスコの無形文化遺産に食の分野では最初に登録された。その「美食文化」は、他国の文化を巧みに取り入れ、自国の食材と歴史的な背景の中で、文化として花開いたものである。それらはアジアの食文化と大きく異なる点が多い。とくに食材については、フランス国内での地域性が高く「地域の伝承料理」へのこだわりが見られる。これらについて学び、日本の食との相違を考える。 15 フランス料理のマナー 現在フランス料理は、世界的に見ても正式・公式の食事の際に用いられることが最も多い。フランス料理のマナーについて、具体的に学び、社会人としてすぐに役立てるスキルとして身につける。 ユネスコ無形文化遺産としての「和食」について 「和食」は、2013年12月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された。この内容を検討し、和食の伝統とは何かを示し、現実にはどのような問題点があるのかを学ぶ。また、将来に向けて自分たちが今後どのような意識を持ちつつ、食に接してゆく必要があるのか、考えてゆく。 正月に経験したおせち料理、お雑煮について第3回のレポートを振り返りまとめる。
到達目標・基準 C評価になる基準	A：食に関する情報を日々の暮らしの中で考えることができる。 D：食事が、文化としてどのように変遷してきたかについて述べることができる。 ◎E：文献や資料を自ら検索し、食文化について知識を深めることができる。
事前・事後学習	事前学習：新聞、書物、テレビ、インターネット、地域の広報物などに記載されている食の情報をチェックする。また、次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。（90分程度） 事後学習：興味のある食に関する情報に関して、資料をファイリングし、要約する。（90分程度）
指導方法	パワーポイント、DVDなど、毎回の授業内容に適した視覚資料を用いる。 フィードバックの仕方：①教員が立案した資料をプリントし、配布を行う②レポート提出（学生）③評価およびコメント④授業後の質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A：毎回の授業における授業態度を評価する D, ◎E：授業内において中間課題提出。学期末にまとめたレポートを提出する 授業態度（30%）、中間課題・最終レポート（70%） 配布資料をファイリングし、授業に積極的に参加すること。中間課題の提出・最終レポートの内容との総合評価により判定する。
テキスト	授業時に、教員が作成したプリントを配布する。これを保存しファイリングしてテキストとし、予習復習する。
参考書	『三訂フードコーディネーター論』（公社）日本フードスペシャリスト協会編 （建帛社）2013 『日本料理の歴史』 熊倉功 吉川弘文館 『和食とは何か』 江原絢子 熊倉功 思文閣出版
履修上の注意	普段から、自分自身の食べている食品や料理について、興味や関心を持つように心がける。 本学図書館にある、単行本・雑誌・辞書などで、食文化の授業中に習得したこと、疑問点などを調べ、自分なりに考察できるようにしておく。 遅刻・途中退出・私語・過度の居眠りなどは、授業の妨げになるので慎むこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション

講義科目名称： 臨床栄養学実習

授業コード： 3231 3232 3233

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
大久朋子			
ナンバリング：N25C22	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 治療食をよく理解し、献立作成をし、実際に調理ができるようになることを目標とする。経口摂取による食形態を中心に、治療食献立を作成し、実際に調理実習を行い、試食をする。献立を作成するためには、疾患についての知識が必須であり、調理実習はグループで行なうのでコミュニケーションが必要である。ここでは、この一環の流れや、実際に患者の食事を作り、試食をして治療食の特色を学び取り、さらに何が必要であるかを指導する。 （授業目標） 治療食をよく理解し、献立作成をし、実際に調理ができるようになる。 （学習成果） ◎C：疾患と治療食を理解し、グループ内で作業手順を考え、時間内に調理を終了する。 ○D：臨床栄養学で得た知識を生かし、患者に適切な食事を調理できる。
授業計画	1 病院給食とは、衛生管理、献立の立て方 食事療法とその献立の立て方、治療食の重要性について理解する。 2, 3 基本となる一般食（全粥） 献立作成 基礎となる一般食（全粥）を理解し献立を作成する。 4, 5 全粥食 調理実習 作成した全粥食の調理実習を行ない、その特徴を学ぶ。 6, 7 塩分制限食 献立作成 塩分制限の基本を理解し、献立を作成する。 8, 9 塩分制限食 調理実習 作成した塩分制限食の調理実習を行い、その特徴を学ぶ。 10, 11 たんぱく制限食 献立作成 たんぱく制限の基本を理解し、献立を作成する。 12, 13 たんぱく制限食 調理実習 作成したたんぱく制限食の調理実習を行い、その特徴を学ぶ。また特殊食品の試食し、一般食品との違いを理解する。 14, 15 形態調整食 調理実習 形態調整食の実習を行ない、その特徴を学ぶ。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：グループ内で作業手順を考え、時間内に調理を終了する。 ○D：患者に喜ばれるよう盛り付け等もグループ内で検討する。
事前・事後学習	事前学習：『臨床栄養学』で学んだ知識は必須。どのような手順で行なうべきか考えてくる。配膳するときの食器具の配置や種類についても考え、絵に描いておくこと（45分）。 事後学習：治療食について献立表を見直したり、試食したときは感想を書いておくこと（45分）
指導方法	特別治療食献立の立て方、調理方法を指導する。また、献立に対し意見交換を行なう。 フィードバックの方法：実習後やメールにて質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：課題の提出および実習態度で評価する。 ○D：課題の提出および実習態度で評価する。 課題の提出60％、実習態度40％
テキスト	食品成分表（他科目で使用しているもの）
参考書	
履修上の注意	1：成分表、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 2：実習の時は衛生に注意する（爪を切る、髪の毛を防止から出さないこと）。 3：けがをしないように注意すること。 4：マニキュア、ピアス、イヤリング、指輪、腕時計の装着はしない。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：栄必修
担当教員			
狩野恭子			
ナンバリング：N17C28	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 特定給食施設（特定多数の人に対し、断続的に食事を提供する施設）では、対象の目的に応じた栄養管理が必要になる。本科目では、給食の意義、目的、特性を学び、給食における栄養士の役割を理解し、給食を運営する上で必要な各管理の目的、方法、評価などについて講義する。 栄養士としての実践の場に役立つよう、栄養面、安全面、経済面全般を配慮した給食のあり方について学ぶ。 (授業目標) 2年次給食管理実習（学内・学外）に向け、給食の運営を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの知識を身に付ける。 (学習成果) ◎E：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、概要と実際について説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 給食の概念・給食の目的 給食の意義と役割、特定給食施設の概要を知る。 料理を失敗せず、おいしく仕上げるデータを知る。 2 給食における栄養・食事管理の概要①(PBL) 日本人の食事摂取基準を知り、指標の種類を理解する。 3 給食における栄養・食事管理の概要② 対象者の把握をし、給与栄養目標量の設定方法を知る。 献立作成基準を知る。 4 献立計画 各種給食における献立を知り、おいしく仕上げるためのデータを理解する。 食品群の分類を知り、食品構成表や食品群別荷重平均成分表を理解する。 自らの食事を知り、正しい食生活について考える。 5 給食における安全・衛生管理① 特定給食施設における関連法規を理解する。 6 給食における安全・衛生管理② (ICT:Classroom) HACCPシステム、事故・災害時対策を理解する。 7 食材料管理 (ICT:Classroom) 給食における購入計画、方法、評価を理解する。 8 品質管理 (ICT:Classroom) 大量調理の特徴と品質を理解する。 新調理システムを知る。 9 調理作業管理 (ICT:Classroom) 大量調理と少量調理の違いを確認し、作業の標準化を理解する。 10 施設・設備管理 施設・設備の特性、計画、日常の保守管理を知る。 11 給食の組織・原価管理 (ICT:Classroom) 組織の原則を知り、給食組織と関連分野との連携を理解する。 給食原価の構成、計画的な原価管理を理解する。 12 給食経営の実際① (グループワーク) (PBL) 給食の業務委託について知る。 学校給食の特徴を理解する。 給食の現状についてグループ討議を行い、代表者が発表する。 児童福祉施設の特徴を理解する。 13 給食経営の実際②③ 病院給食の特徴を理解する。 事業所給食を理解する。 14 給食経営の実際④⑤ 社会福祉施設給食を理解する。 確認給食を理解する。 学校理解度 (筆記) 15 特定給食施設における栄養士の役割 (グループワーク、プレゼンテーション)
------	---

	給食管理におけるこれからの課題、給食サービスの提供についてグループ討議を行い、代表者が発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、栄養士が働いている現場について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業内容のポイントをまとめ、事前にプリントを配布する。受講前に配布したプリントの内容については、Classroomを確認して事前学習を進めること。（60分程度） 事後学習：重要単語や重要事項をまとめること。配布プリントの見直しをすること。（120分程度）
指導方法	・教科書を中心とした講義形式で行う。授業ポイントをまとめたプリントを配布したり、パワーポイントを使用して解説する。 ・項目ごとに栄養士実力認定試験の過去問題に沿って小テストを行う。理解度を確認しながら授業を進めていく。 ・事前学習用の授業資料は、Classroomで配信する。 フィードバックの仕方：小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑応答。 提出物①課題の提示、②評価のうえ返却、③授業後による採点についての質疑応答。 プレゼンテーションの評価①ワークシートを使用して学生間で評価する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎E：理解度確認（筆記）、小テスト、提出物、プレゼンテーションを評価する。 理解度確認（筆記）50% 提出物・小テスト40% プレゼンテーション10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	・「Nボックス 改訂給食の運営－栄養管理・経営管理－」 逸見幾代，平林真弓編著 建帛社 2022年 ・「調理のためのベーシックデータ 第6版」女子栄養大学出版部 2022年
参考書	・その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	項目ごとに「栄養士実力認定試験」を意識した小テストを行います。テストを行う授業日は前もって連絡をします。何らかの事情で欠席する場合は事前に連絡してください。配布プリント、授業中に行う小テストの内容は試験の範囲に含まれます。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： 給食経営管理演習

授業コード： 3301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
狩野恭子			
ナンバリング：N27C29	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 給食の運営(経営管理、栄養管理、衛生管理、大量調理、評価方法)全般の流れに沿って、計画書や帳票類、評価票を作成する。献立計画から調理までの給食サービス提供を適切に運営することによって、衛生的で栄養的な食事を喫食者の嗜好性を考慮しながら、経済的に提供するための方法を学ぶ。衛生管理では、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた具体的な内容を学ぶ。 (授業目標) 大量調理施設の衛生管理について熟知し、安全な給食を提供するための方法と心構えを理解する。給食関連業務で必要な書類の作成方法を演習し、栄養士業務を理解する。 (学習の成果) ◎D：給食運営における献立計画の流れを理解し、使用する帳票と合わせて説明することができる。 ○E：大量調理の特性を理解し、安全な給食を提供するための方法を説明することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 大量調理の衛生管理(演習：学内給食実習室見取り図の作成) 学内給食実習室内の作業区域について見取り図を作成しながら学ぶ。 大量調理における具体的な衛生管理を学ぶ。 2 予定献立表の作成条件(演習：作業工程表の作成) 給食施設内における大量調理業務の流れを知る。 3 大量調理の基本知識(演習：発注と調味パーセントの計算) 発注計画の流れを知る。 調味パーセントの計算を学ぶ。 家庭などにおける少量の調理と異なる各種調理に関する知識を学ぶ。 4 大量調理の実習(実習：学内給食実習室) 学内給食実習室で手洗い方法を学ぶ。 学内実習室の施設・設備及び器具類の把握、大量調理機器を使用して簡単な調理を行う。 5 大量調理に使用する調理機器と器具類について(実習：調理、試食) 大量調理に使用する調理機器と器具類の特徴を学ぶ。 調理工程に沿った調理機器の活用方法を知る。 6 給食の施設別実践について①病院 病院給食の種類と役割を知る。 病院での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。 7 給食の施設別実践について②高齢者介護福祉施設 高齢者介護福祉施設給食の種類と役割を知る。 高齢者介護福祉施設での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。 8 給食の施設別実践について③児童福祉施設 児童福祉施設給食給食の種類と役割を知る。 児童福祉施設での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。 9 給食の施設別実践について④学校 学校給食の種類と役割を知る。 学校での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。 10 給食の施設別実践について⑤事業所(実習：調理、試食) 事業所給食の種類と役割を知る。 事業所での献立作成要件を確認し、献立を知る。 事業所給食で利用される食材の扱い方を学ぶ。 11 献立の栄養評価①(演習：栄養比率の計算) 栄養バランスの適正を判断するため、栄養比率を用いて評価する方法を学ぶ。 栄養比率はPFC比率、穀類エネルギー比、動物性たんぱく質比等を計算する。 12 レシピの作成(演習：高齢者のフレイル予防レシピの考案)(PBL) 高齢者の栄養管理について理解する。 13 レシピの作成(演習：高齢者のフレイル予防レシピの考案、グループワーク)(PBL) 各自考えた献立を持ち寄り、班ごとに意見を出し合う。 高齢者のフレイル予防に役に立つ献立についてグループ討議を行う。 14 給食運営における栄養士の役割について(グループワーク) 授業で学んだ献立計画から提供までの流れを総合し、給食提供の場で必要となる技術や知識につ
------	--

	15 いてグループ討議を行う。 栄養教育（プレゼンテーション）（PBL） グループ討議したフレイル予防の献立について代表者が発表する。 理解度（筆記）確認
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：給食運営における献立計画の手順と使用する帳票を関連付けることができる。 ○E：大量調理の基礎的な衛生管理について知り、施設・設備に配慮した作業の方法を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、これまでに修得した専門基礎分野の復習とあわせてまとめておくこと。（15分程度） 事後学習：レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめを作成しファイルに綴じておくこと。特に、事後学習が大切である。（30分程度）
指導方法	内容を説明した後、実際に献立を作成したり、帳票を作成したりする。内容に応じて、グループワークを行い、プロジェクター、配布資料等を利用して重要な点を示しながら説明をする。内容により、給食経営管理実習室、実習食堂で作業もおこなう。 フィードバックの仕方：①課題提出、②評価し採点後返却、③授業後に課題内容についての質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：理解度確認（筆記）を評価する。 ○E：レポート課題、グループワークの貢献度を評価する。 レポート課題50% 理解度確認（筆記）30% グループワークの貢献度（授業への貢献度。積極性を含む）20% 成績評価は上記の配分行い、それぞれループリックに基づいて配点する。
テキスト	・「改訂給食のための基礎からの献立作成大量調理の基本から評価まで」上地加容子・片山直美編著 株式会社建帛社 2022年
参考書	・「調理のためのベーシックデータ 第6版」女子栄養大学出版部 2024年 その他は授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	全ての書類は流れがあり、関連性があります。欠席をすると内容や帳票類の書き方がわからなくなり、それ以降の書類作成や実習の進行に影響します。体調管理をしっかりとして下さい。 栄養士として欠かせない技術を身に付けます。事前・事後学習も力を入れ、積極的に授業で発言してください。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： 給食管理実習（学外）

授業コード： 3321

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	1	食専：栄必修
担当教員			
西山良子、井部奈生子、狩野恭子、橋詰和慶・谷口裕信			
ナンバリング：N37C31	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 栄養士養成施設における校外実習は、給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。本科目において、指定の特定給食施設で5日間の実習を行い、給食現場等の見学研修を通し、栄養士の基本的な業務を把握する。 （指導目標） 現場での実体験を通して大量調理等の困難なことにも責任をもって主体的、かつ前向きに行動し、栄養士の知識・技術を身につける。 （学習成果） ◎B：現場において職場体験することで、栄養・食事計画、給食サービスの実際を理解し、現場の作業を誠実に最後までやり遂げることができる。 ○C：これまでに学習してきた給食管理の理論・演習・実習の知識・技術を実際の現場でどのように実施されているかを体験し、現場の課題に対する工夫点を述べるができる。 〈TQ〉実際に大量調理の現場へ行かないと学べないことは何か？
授業計画	1 事前指導（実習ノート、報告会プレゼンテーション準備）（PBL） 実習ノートの記入方法、報告会プレゼンテーションの資料作成方法の確認を行う。 ゼミの合同授業時に実施する。 2 学外施設での実習 指定の一施設で実習を行う。 オリエンテーション、5日間（45時間以上） 3 事後指導（実習ノート、報告会資料準備、報告会プレゼンテーション準備）（PBL） 実習ノートと報告会配布資料の作成、まとめを行う。報告会プレゼンテーション発表資料作成、まとめを行う。 食物栄養科ゼミナールの授業時に実施する。 4 実習報告会（プレゼンテーション）（PBL） 発表、評価、考察を行う。（担当教員全員） 実習施設別グループ（施設によっては個人の場合もある）の代表が食物栄養科ゼミナールの授業でプレゼンテーションを行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：特定給食施設で働くプロの栄養士や調理師の中で一緒に作業をすることで仕事の現実を理解できる。 ○C：現場を観察し、栄養士の現場の課題を明確にできる。
事前・事後学習	事前学習：これまでに学習した専門基礎分野の復習をしっかりとて実習に臨むこと。オリエンテーションでの配布資料は読み直し、熟知しておく。 事後学習：実習ノートの提出ならびに報告会発表資料の作成・まとめ。報告会で発表を行うためのプレゼンテーション準備。
指導方法	各実習施設における実習の事前準備、実習、事後のまとめにおいて、学生自身が調べ、整理し、まとめることを促し、疑問や問題を解決しながら進める。実習後は実習ノートを実習先および授業担当者に提出し、チェックを受ける。さらに実習報告会の発表資料として、配布資料（ワープロソフト使用）、プレゼンテーション資料（パワーポイント使用）を作成する。実習施設、実習日程ごとに発表（プロジェクター使用）する。（1年生も聴講する。） フィードバックの仕方：①実習における課題を提示、②実習ノート・報告会資料提出、③評価のうえ返却、④授業後におけるコメントへの質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：授業態度、実習態度、貢献度を評価する。 ○C：授業態度、実習態度、貢献度、実習ノート、報告会資料を評価する。 事前指導、事後指導の評価 30%、実習期間中の実習施設指導者による評価 50%、実習ノートと研究課題、報告会内容の評価 20%
テキスト	「給食管理実習の手引書」「実習ファイル」（戸板女子短期大学作成実習ファイル、プリントを適宜配布）
参考書	「改訂給食の運営－栄養管理・経営管理－」 逸見幾代，平林眞弓編著 建帛社 2020年、その他授業内で紹介する。
履修上の注意	・事前指導をすべて受けなかった場合、また内容を守れなかった場合は、学外施設への実習は中止となる。各自、責任を持って行動すること。 ・学外実習中の欠席は、履修条件を満たすことができず単位取得は不可となるため、事前より体調管理を十分に整えておくこと。 注）1年次において、下記の科目を未修得の学生は本科目の履修不可。 （1年次卒業必修科目）食品学、食品衛生学、調理学、キャリアゼミ

	(1年次給食関連科目) 調理学実習1、調理学実習2、給食経営管理論、栄養指導論1
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

講義科目名称： 病院・福祉ゼミ

授業コード： 3581

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：選択 主要科目：○
担当教員			
狩野恭子			
ナンバリング：N39C53	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 15回の授業を3分割し、ブロックごとに授業方法・内容を変え、実践的・具体的に理解を深める。初回はモデル別ゼミの全体ガイダンス、2～6回は〈学外実習準備講座〉として全体会で、各特定給食施設の特徴やそこで求められる栄養士の役割などを学ぶ。7～15回はモデル別の授業で、各分野ごとに活躍するゲスト講師を招いての講演や、それぞれの分野に必要な知識や技術を演習や実習などを通して学ぶ。 (授業目標) 栄養や食品についての専門知識を活かせる職場は、多岐にわたり、その仕事内容も業種により異なる特徴がみられる。病院・福祉ゼミでは医療現場や特殊栄養下の現場で活躍するための知識・技能を学び、自己の将来像へとつなげる。 (学習成果) ◎D：対象者別の食事の特性を理解し、安全な給食を提供するための方法を十分に説明できる。 ○E：対象者の食事調製を通して、自分の将来像を見つけ出すことができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（他モデルと合同） 学科長挨拶（担当：川嶋） 各回の授業内容やスケジュールの確認（担当：専任教員全員） 2 〈学外実習準備講座〉学外実習ガイダンス ：全体会 学外実習の目的、方法、授業を受ける際のルールなど、概要を学ぶ。学外実習担当者より、それぞれの担当する分野や授業内容などについて説明を受ける。（担当：西山・井部・狩野・橋詰・谷口） 3 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴① ：全体会 特定給食施設（事業所）（病院）の種類と特徴について学ぶ。（担当：井部） 学外実習についての説明・連絡を受ける。 4 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴② ：全体会 特定給食施設（保育所）の種類と特徴について学ぶ。（担当：西山） 学外実習についての説明・連絡を受ける。 5 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴③ ：全体会 特定給食施設（高齢者福祉施設）の種類と特徴について学ぶ。（担当：狩野） 学外実習についての説明・連絡、準備等を行う。 6 〈学外実習準備講座〉学外実習ガイダンス ：全体会 学外実習についての説明・連絡、準備、注意事項等を行う。（担当：狩野・西山・井部・橋詰・谷口） 7 履修モデル別講座① ：分科会 病院に勤務する管理栄養士の仕事内容について学ぶ。病態別の食事について理解を深め、NSTでの管理栄養士の役割について学ぶ。（担当：ゲスト講師） 8 履修モデル別講座② ：分科会 高齢者施設給食の管理栄養士の仕事内容について学ぶ。高齢者施設給食の実際、高齢者の身体的特性などについて理解を深める。（担当：ゲスト講師） 9 履修モデル別講座③ ：分科会 給食の基本計画を学ぶ。対象者別の献立表の作成を行い、理解を深める。 10 履修モデル別講座④ ：分科会 給食の基本計画を学ぶ。高齢者を対象とした献立作成を行い、理解を深める。 11 履修モデル別講座⑤ ：分科会 給食の基本計画を学ぶ。病態別の献立作成を行い、理解を深める。 12 履修モデル別講座⑥ ：分科会 (PBL) 症例検討 (PBL) 提示された症例について調べる。 13 履修モデル別講座⑦ ：分科会 (PBL) 食形態について学ぶ。咀嚼や嚥下が困難な人のための食事について理解を深める。とろみ剤を用いて嚥下の状況に合わせた飲み物の調整を行う。 症例検討 (PBL) 各自調べた症例についてグループ討議を行う。（PBL） 14 履修モデル別講座⑧ ：分科会 (PBL)
------	---

	症例検討（PBL） 栄養指導方法を検討し、グループ討議を行い代表者が発表する。 履修モデル別講座⑨：分科会 食形態について学ぶ。咀嚼・嚥下が困難な人のための食事について理解を深める。既製品のやわらか食の調製を行う。 調味パーセントの計算を復習する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：対象者別の食事の特性を理解し、安全な給食を提供するための方法を説明できる。 ○E：対象者の食事調製に参加できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に配布されたプリント、資料等を熟読し、専門基礎分野の予習を十分行っておくこと。また日頃から栄養や食品に関わる情報についての興味、関心を持ち、積極的に調べたり記録しておくこと。（15分） 事後学習：各自、レポート課題の作成を行うことで理解を深め、それぞれの業種や病院や高齢者施設の特徴をまとめること。（30分）
指導方法	全体会（6回）：分野別担当教員により、特定給食施設の特徴、栄養士の役割、基礎知識を学ぶ。 給食管理実習（学外）についての説明・連絡を受ける。 分科会（9回）：外部からの特別講師を招いたり、実際の社会現場に即した知識・技術を学べるよう演習や実習を中心に実施する。 フィードバックの仕方：①レポート、課題提出、②評価して返却、③授業後に内容についての質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：全体のレポート課題、履修モデルでの課題、提出物で評価する。 ○E：全体的に取り組んでいるか授業態度で評価する。 配点は提出物50%、授業貢献度30%、授業態度20%の比率で行い、成績はルーブリックの基準に基づいて評価を行う。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	「日本人の食事摂取基準（2025年度版）」
履修上の注意	この授業は、学外から特別講師を招いて講義を行うため、社会人としてそぐわない行動は避け、主体的で積極的な授業態度が必要である。また、将来就職先で即戦力となるように対象者別の献立作成、食事の調製ができるようになることが目標である。そのために、しっかりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
小島聖子			
ナンバリング：N14A11	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 人間と食べ物に関わりという「食」の基礎について広く学びます。 食品の特性(成分組成やその化学構造、テクスチャー(触感)など)および機能(生体への働き)、食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応と、「保健機能食品」や「いわゆる健康食品」等についても学び、食品の扱い方や食品に対する知識を深めます。「食品成分表」についても基本的な使い方や、知識の習得を目標とします。また、食品の歴史的変遷や食物連鎖、環境問題の面からも理解を深めます。 栄養士として必要な知識であり、栄養学や調理学を勉強する上でも基礎となる内容です。 (授業目標) 栄養士として、そして栄養学や調理学を学ぶ上で必要な「食」の基礎的な知識について広く身に付ける。 (学習成果) ◎E：①食品中の成分について、その化学構造や機能を理解し説明出来る。②食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応について理解し概要を説明出来る。③食品の機能について理解し、「保健機能食品」や「いわゆる健康食品」についての知識を習得する。④「食品成分表」について基本的な使い方や知識を習得し、活用できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス・人間と食物 ガイダンス(講義内容、授業の進め方、成績評価等の説明など) 食物連鎖、食料と環境問題、 食品と食物、栄養と栄養素、食品中の成分、食品の機能(生体への働き) 2 食品の分類と食品成分表、食品中の成分1 水分 食品成分表とは(目的、成り立ち、使い方など) 水分の機能、自由水と結合水、水分活性 3 食品中の成分2 炭水化物-1 炭水化物の機能と分類(単糖、オリゴ糖) グルコースの構造 4 食品中の成分2 炭水化物-2 炭水化物の分類(多糖、糖アルコール、食物繊維) 多糖の構造 5 食品中の成分3 脂質-1 脂質の機能と分類 脂肪酸の構造と分類 6 食品中の成分3 脂質-2 必須脂肪酸、必須脂肪酸の代謝 油脂の化学的性質 7 食品中の成分4 たんぱく質-1 たんぱく質の機能 アミノ酸の構造と種類、性質 必須アミノ酸 8 食品中の成分4 たんぱく質-2 たんぱく質の構造と分類、化学的性質(等電点沈殿など) たんぱく質の変性 9 食品中の成分5 無機質(ミネラル) 無機質(ミネラル)の種類と機能 酸性・アルカリ性食品 10 食品中の成分6 ビタミン ビタミンの種類と機能 11 食品中の嗜好成分 色素・香り・味、テクスチャー 12 食品成分の変化1 (1)酸化(油脂、ビタミン) (2)加熱変化(でんぷんの糊化、たんぱく質の熱変性など) 13 食品成分の変化2 (3)酵素による変化(酵素的褐変、うま味成分の変化など) (4)成分間反応(アミノカルボニル反応など)
------	---

	(5) 微生物による変化（発酵、腐敗） 14 食品中の機能成分と保健機能食品等について 栄養表示基準（栄養表示、強調表示） 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品、特別用途食品、栄養機能食品、健康食品、いわゆる健康食品 15 講義のまとめ、期末試験
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：①食品中の成分について、その化学構造や機能について、教科書やプリントを見ながら説明出来る。②食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応について、教科書やプリントを見ながら概要を説明出来る。③食品の機能について理解し、「保健機能食品」や「いわゆる健康食品」の違いを理解する。④「食品成分表」について基本的な使い方や知識を習得する。
事前・事後学習	事前学習：穴埋めプリントの穴に入る語句を、教科書を見ながら考える（90分程度） 事後学習：教科書を熟読し、頭を整理しながらプリント内容を確認する（60分程度） プリントに不明点などあればパワーポイントを見て確認する（30分程度）
指導方法	1. 理解を深められるよう、各テーマごとに穴埋めプリントを配布し、テキストに従いパワーポイントを使い講義を行います。必要に応じ、DVDや写真画像など視聴覚資料を利用します。プリントは予習出来るように一週前に配布し、パワーポイントは復習出来るように授業終了後classroomに公開します。 2. 毎回授業の最初に小テストを行い、小テスト解説をしながら前回の講義内容も簡単に復習し、新しい内容に入り理解を深めるようにします。「食品成分表」を活用し基本的な使い方や知識を習得しながら、食品中の成分についても理解を深めます。各テーマの終わりに、まとめとして演習問題に取り組み解説します。 フィードバックの仕方：①小テストの実施・評価 ②小テストの解説 ③授業前後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：筆記試験の結果を評価する。 筆記試験（70%）、小テスト・授業態度（30%） ＊これらの総合評価とする。
テキスト	わかりやすい食物と健康①食品とその成分〔第5版〕 吉田勉監修 三共出版 ISBN：978-4-7827-0807-1
参考書	八訂食品成分表 女子栄養大学出版
履修上の注意	食品学は広範囲です。予習・復習（事前・事後学習）を心掛けて下さい。 穴埋めプリントに語句を埋めたことだけで、理解出来たと安心せずに、理解が不十分であいまいな所などは、そのままにしないで積極的に質問しましょう。授業に出席していても、他科目の課題をしていたり、居眠りしては、理解出来るはずありません。授業に集中しましょう！ 授業の中で解らないことや、最近の食に関するニュースや興味のあること等、何でも質問してみてください！ きっと食品学が楽しくなると思います。
アクティブ・ラーニング、PBL	

講義科目名称： 食の商品開発

授業コード： 3451

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
ナンバリング：N28C41	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 小売業や外食業が提供する商品（食品、飲料、料理等）の開発者に求められる基本的な知識と考え方を、近現代の事例に沿って学ぶ。商品開発部門の責任と業務のプロセスを理解することを通じて、食ビジネスの狙いそのものを学ぶ。 (授業目標) 商品開発に関するこれまでの事例を学び、商品開発に携わる者に必要な知識と態度を身に付け、独創的な商品の開発や提案ができるようになる。 (学習成果) ◎D：今後の社会で求められる商品（食品、飲料、料理等）およびその提供法を提案し、その重要性と実現可能性を論理的にわかりやすく説明できる。 ◎E：食ビジネス扱われる商品の多くについて、開発の経緯と社会的な影響を説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 食ビジネスの商品開発の全体像 食ビジネスでの商品開発は単にレシピを書くことではない。市場調査、提供現場の状況把握、レシピ開発、オペレーションマニュアル作成、材料調達、店舗への供給計画、コミュニケーション（広報・宣伝）、レビュー等を柱としたマーチャンダイジングの全体を指揮・運営するのが商品開発者であることを解説する。 2 日本の食市場の変遷 現代の食市場が形成される下地となった、過去の市場変化を概観する。主に、戦後の飢餓と商業の復興、1960年の所得倍増計画の発表、1970年代に始まったカロリー消費の終わり、1980年代に始まったメニュー開発競争、中食の成長開始、1990年代のバブル崩壊と価格帯の下向きシフト、2000年代に始まった安全・安心の強調などを軸に、市場の変遷を解説する。 3 マクドナルド兄弟のフードサービス革新 米国のマクドナルド兄弟が行ったフードサービスの画期的な技術革新のポイントを解説する。これは、ファストフードのみならず、現代のあらゆるレストラン、ホテル、コンビニエンスストアのフードサービスの骨格を支えており、その影響も概観する。 4 フライドチキンの日本市場への浸透 チキンは材料として低価格だが、それゆえに利益を確保するためには大量消費の喚起とより高い価値づくりが必要な商材である。クリスマスにチキン消費が発生する日本独特の文化の発生の経緯、KFCビジネスの発祥、ミニストップが行ったフードチェーンの革新を解説する。 5 すしおよびそばの近代化・現代化、高級化 元は漬物の一種であったすしが江戸時代にファストフード化したこと、1960年代に加熱調理をしないタネが主流になった事情、回転すしの仕組みを解説する。また、おなじく江戸期にはファストフードであったそばが高度成長期に再成長し、さらに高級化した事情を解説する。これらによって、同じ商材でも提供価格帯が変化することの理解を促す。 6 間食消費の増大 今日の日本での主要な食事は朝食、昼食、夕食であるが、おやつ消費、夜食消費も無視できない。スナック菓子ビジネス、ファストフード、喫茶・カフェなどを軸に、間食消費の状況を解説する。また、ファストフードサービスが営業時間を延ばし平準化するためにも、間食消費が重視されていることを解説する。 7 すかいらーくからガストへ 日本で生まれたファミリーレストラン業態がどのように開発されたのか、それが食ビジネスと食消費にどのような影響を与えたのかを解説する。さらに、1990年代にガスト業態が開発された経緯と、それを支える商品の仕組みを解説する。 8 コンビニエンスストアが変えた食 コンビニエンスストアは米国発祥のブランドを掲げているチェーンが主力となっているが、実際には日本で開発された特色ある業態である。その開発経緯と、食市場の変化に大きな影響を与えた要素を解説する。商品面では、おにぎり、特徴的な温度管理、コーヒー提供を解説し、また、各チェーンごとの商品開発の文化的な違いも指摘する。 9 アイスクリームの変遷 外食でしか食べられなかったアイスクリームが、今日は家庭でもストックされ、日常的に消費されるようになってきている。その経緯のなかで、アイスクリームは高級品から大衆化し、改めて高級化した商品の事例として重要である。近現代のさまざまなアイスクリーム商品の開発について解説する。
------	--

	10 チョコレートビジネス ヨーロッパでのチョコレートビジネスの発祥、アメリカでの大衆商品化、日本市場への浸透を概観し、基本的なスイーツの需要の変化ならびにさまざまな消費シーンへの対応について検討する材料を提供する。 11 ソフトドリンクビジネスとアルコールビジネス 米国でのソーダファウンテン、コーラをはじめとする各種のソフトドリンクビジネスの変遷ならびに日本市場でのソフトドリンクビジネスの変遷を解説する。一方、ワイン、ビール、蒸留酒、日本酒の製造・消費の変遷を概観する。 12 農林水産業の全体像と基本的な素材の知識 食産業に不可欠な材料を供給する現代世界の農林水産業について解説する。穀物、野菜、果実、畜産、水産を概観し、また、各種スパイス、砂糖、カカオ、コーヒーなどの生産の特徴についても解説する。 13 食産業を支える基本技術 今日の食ビジネスを支える基本的な技術として、びん詰め・缶詰・レトルト、冷蔵・冷凍、ならびに、食品添加物の基本的な知識と重要な食品添加物の特徴、ハンドリング、市場からの評価について解説する。また、食品工場や店舗で使われる機械・機器について概観する。 14 市場への対応の基礎 食ビジネスにおけるマーケティング／マーチャンダイジングの基本的な考え方を解説する。また、気象と消費の関係を押さえたうえで、販売予測の変遷と今後の技術革新について解説する。官能評価の統計処理やAIによるレシピ提案など、今後進むと考えられるICT分野の状況についても概観する。 15 社会課題に対応した商品開発 少子高齢化、経済の状況、災害の激甚化など現代はさまざまな社会課題に関心が集まっている。北海道のコンビニエンスストアのセイコーマートがリードしたそうざい商品の開発、糖質オフ／ロカボ商品への関心の高まり、東京都・北区で行われている高齢者の会食活動、ICT化・ロボット化の功罪などを取り上げる。
到達目標・基準 C評価になる基準	目標・基準 ◎D: 身近な小売店やレストラン等で提供可能で顧客から支持されそうな商品の一つを提案できる。 ◎E: 食ビジネスで一般によく知られた商品の一つについて、開発の経緯を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：予め提供する資料も使いながら、内容を整理しておく。また、授業内容によって、事前に調査・考察すべき事柄を示すので、図書館やWeb等も活用して調べ、考察を深めておくこと。（60分程度）。 事後学習：授業で紹介した話題を整理する。Google Classroomで出題する課題（クイズ、ポイントを整理するためのフォーム等）に遅滞なく取り組む（60分程度）。 授業を自分で整理した結果と、授業で取り上げた商品・サービスの新しい動きをWebや各種のメディア、そして実際の商業の現場での見聞を付き合わせて、理解を深める一方、不明点を洗い出す（60分程度）。
指導方法	毎回の授業では、小売・外食に供される各種の商品開発について、事例を中心に実際の商品・業務・消費を実感するための写真・映像・現物も示しながら説明する。事例をつかんだ上で、そのような開発が行われた背景や狙いを理解するための情報を提示する。 さらに、フィードバックのため、それらに対する学生の意見や感想を募る場を設け（意見交換のミニセッション）、教室全体の理解度を確認する一方、学生ごとに多様な考え方や受けとめ方があることを感じ取る機会とし、個々の考察と視野を広げることを促す。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D: レポート課題によって評価する（10%）。 ◎E: 授業ごとの小テストによって評価する（90%）。 ※レポート課題は第10回授業をめぐり出題内容を示し、最終授業終了後に提出の受付を開始する。 ※授業ごとの小テストについては、授業回数が15回なので、各回ごとの小テスト提出で最大6%の達成となる。
テキスト	この授業のための資料を独自に作成して配布する（PDF、動画等／Google Classroom）。
参考書	
履修上の注意	学生の理解の状況や関心のあり方に応じて、授業計画の順序や内容を変更することがある。その場合は予め授業やGoogle Classroomで告知を行う。 Google Classroomで出題する小テストなどの課題には指定期間内に取り組むこと。 学生からの質問で有用かつ支障のないものは、授業ないしGoogle Classroom上で匿名の形で紹介し、回答・解説を教室で共有する。一人の質問が全員の理解・考察を深めることになるので、授業および事前・事後学習中に気づいた事柄や不明点は積極的に質問してほしい。質問や連絡のためのフォームをGoogle Classroom上に用意する。
アクティブ・ラーニング、PBL	意見交換のミニセッション

講義科目名称： フードシステム

授業コード： 3471

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
ナンバリング：N18C42	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 食品をビジネスとして消費者に的確に届けるには、市場を正しく把握する力と、農林水産物と各種の加工品がどこでどのように製造され流通しているかの情報を常に更新する情報力が必要である。それらの力の基盤となる知識と理論を、実際の業務に関連づけながら解説する。 (授業目標) 食品製造業、外食産業（営業給食、集団給食、料飲）、食品を扱う小売業およびそれらの関連産業の実務で使われる用語や一般的な仕組みを理解し、実務にスムーズに取り組める基礎を作る。 (学習成果) ◎D：今後の社会で求められる食提供について、過去から現在までの状況を踏まえて、独自の考えを整理し提案できる。 ○E：食ビジネスの基本的な用語と考え方を理解し、それらを専門としていない人も理解できるように説明できる。		
授業計画	1	食市場の変化（１）社会と食産業（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品産業の発達プロセスと今日の活動、食の外部化の進展を中心に現代の食産業の役割と構成を理解する。	
	2	食市場の変化（２）現代の食生活の特徴（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食情報の多様化、健康志向への対応を中心に現代の生活者の食生活を理解する。	
	3	食市場の変化（３）消費者の生活と価格政策 新しい家族のあり方、少子高齢社会を中心に現代の生活者の食生活を理解する。	
	4	食品の流通（１）食品流通の役割（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品流通の全体像をつかむ。	
	5	食品の流通（２）卸売の概観と卸売市場（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 流通業のうち、卸売市場の役割と活動を理解する。	
	6	食品の流通（３）その他の卸売とグローバル市場（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 流通業のうち、卸売市場以外の食品問屋、商社等と、グローバルな食品流通を理解する。	
	7	食品の流通（４）小売（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品小売業の業種・業態を押さえ、それらの役割と活動を理解する。	
	8	外食・中食産業（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 外食産業の業種・業態を押さえ、それらの役割と活動を理解する。	
	9	食品の分類と物流（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品の各種の分類を理解する。また各種の物流の仕組みを理解する。	
	10	主要食品の流通（１）農林水産物（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品の流通について、主に穀物、野菜・果実等、畜産・酪農ならびに水産の現状と課題を理解する。	
	11	主要食品の流通（２）加工食品・中食等（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品の流通について、調味料・飲料・菓子等の各種の加工食品ならびに中食の製造・流通の現状と課題を理解する。	
	12	マーケティング（１）古典的考え方（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品産業で行われるマーケティングについて、古典的考え方から基礎理論までを理解する。	
	13	マーケティング（２）比較的新しい考え方（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品産業で行われるマーケティングについて、近現代および今日行われている新しい方法を理解する。	
	14	消費・流通の課題（１）環境対応と安全（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品産業に求められる安全確保、環境への対応、その他の社会的責任を理解する。	

	15	消費・流通の課題（２）企業の責任と持続可能性（アクティブ・ラーニング：意見交換のミニセッション） 食品の生産、製造、物流、そして消費の現場に発生している諸問題でより長期的視点から対応すべき事柄を概観し、解決の道筋を考える。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：現代の食ビジネスにある課題の一つを説明し、その解決策を述べることができる。 ◎E：教科書が扱う重要な用語（本文の太字・赤字箇所＝索引にリストアップされている）を説明できる。	
事前・事後学習	事前学習：教科書の次回授業予定範囲を読み、予め提供する資料も使いながら、内容を整理しておく。また、授業内容によって、事前に調査・考察すべき事柄を示すので、教科書のみならず図書館やWeb等も活用して調べ、考察を深めておくこと。（70分程度）。 事後学習：教科書で扱う主要な用語とくに索引にリストアップされている用語とその意味を単語帳やノートを作るなどして覚える。授業出席者を対象にGoogle Classroomで出題する小テストに遅滞なく取り組む（90分程度。配点については下記「アセスメント・成績評価の方法・基準」に記載）。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄は記録する（日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う）。	
指導方法	毎回の授業では教科書の内容を解説し、さらに教科書にある話題や語句についての興味・関心を高める話題を紹介・説明する。実際の商品・業務・消費を実感するための写真や映像も示す。 また、授業で説明した話題や語句に対する学生の意見や感想を募る場を設け（意見交換のミニセッション）、教室全体の理解度を確認する一方、学生ごとに多様な考え方や受けとめ方があることを感じ取る機会とし、個々の考察と視野を広げることを促す。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：レポート課題によって評価する（10%）。 ◎E：授業ごとの小テストによって評価する（90%）。 ※レポート課題は第10回授業をめぐり出題内容を示し、最終授業終了後に提出の受付を開始する。 ※授業ごとの小テストについては、授業回数が15回なので、各回ごとの小テスト提出で最大6%の達成となる。	
テキスト	日本フードスペシャリスト協会2000年『四訂 食品の消費と流通』建帛社	
参考書		
履修上の注意	学生の理解の状況や関心のあり方に応じて、授業計画の順序や内容を変更することがある。その場合は予め授業やGoogle Classroomで告知を行う。 Google Classroomで出題する小テストなどの課題には指定期間内に取り組むこと。 学生からの質問で有用かつ支障のないものは、授業ないしGoogle Classroom上で匿名の形で紹介し、回答・解説を教室で共有する。一人の質問が全員の理解・考察を深めることになるので、授業および事前・事後学習中に気づいた事柄や不明点は積極的に質問してほしい。質問や連絡のためのフォームをGoogle Classroom上に用意する。	
アクティブ・ラーニング、PBL	意見交換のミニセッション	

講義科目名称： 食品加工学

授業コード： 3131 3132 3133

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C13	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 食品加工学は、食品の加工・製造を通じて食品に関与する事項や食品の特性を幅広く理解することを目標にしている。担当教員は、食品会社の実務経験者（商品開発・保存技術・営業支援・消費者教育・業界業務等含む）であり、現場での実例を紹介し多角的に食品を解説し理解を促す。 授業は、総論と各論の2部構成とする。総論としては、食品全体の加工方法、劣化現象、保存方法、包装、食品の表示について解説する。各論としては、代表的な加工食品の原料及び製造原理、流通商品の製造理論、メーカーの事情とノウハウ、その他関連事項について解説する。各論では、食品学各論に該当する内容もフォローし、食品開発についても随時触れていく。またClassroomに資料を掲載して、事前・事後学習が有効に行えるようにフォローし、さらに関連事項や関連メーカーについて各自がインターネット等を利用して調べるように指導する。毎回授業のはじめにTQ（トリガー・クエスト）を行い授業の興味の導入を行い、授業後にTQに関して改めて学んだ内容を含めて解答する。 授業の後半（8回目頃）に前半で学んだこと（総論）を活用して新しい食品を創造（企画）する。 （授業の目標） 食品加工学は、食品を加工する意義から食品に係る事項も含め幅広く食品について理解する。基本的な食品の加工理論を修得しながら社会情勢の変化を理解し、衛生的で経済的かつ安全な加工食品を選択及び利用する力を身に付ける。 （学習成果） ○D：一般的な加工食品の製造方法・原理・表示・関係事項を理解し、食品を多角的に理解して新しい食品を創造（企画）・提案することができる。 ◎E：一般的な加工食品の製造方法・製造原理を理解して、食品に関与する事項・課題等を多角的に理解できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 食品について 食品について 今回のTQ？ ①授業内容・授業の進め方 授業の進め方や諸注意等を確認する。 ②食品についての概要 食品とは何か？ 事例をあげて解説する。 ③食品を加工する意義・必要性 食品についての概要として時代背景、現状の問題、加工技術等を学ぶ。 食品を加工する意義や必要性について食品について関連事項を含めて解説する。 対面を利用して、食品について考えていることや疑問点をディスカッションする。
	2 食品の加工方法 食品の加工方法 今回のTQ？ ①物理的法（物理現象の利用） ②化学的方法（化学反応の利用） ③生物的方法（微生物の利用） ④最新技術 食品の各種加工方法について、物理現象・化学反応・微生物の利用について代表的な処理方法と食品をあげて解説する。 併せて最新技術を紹介する。例えば逆浸透法・高圧処理・ゲル化他も解説する。 対面を利用して興味ある加工食品についてディスカッションする。
	3 食品の劣化現象 食品の劣化現象 今回のTQ？ ①食品の不都合・不具合 ②劣化の原因 ③劣化現象 食品の劣化現象について学び食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（微生物・食害・酸素・酵素・光）についての特徴等を解説する。 劣化現象（腐敗・酸化・褐変）について事例をあげて解説する。 対面を利用して、食品の腐敗の経験などディスカッションする。
	4 食品の保存1 食品の保存1 今回のTQ？ ①劣化を防ぐ方法

	②低温貯蔵法 ③乾燥法 食品の保存方法について劣化の原因から保存法について学ぶ。 低温貯蔵（冷蔵庫の話・温度帯の違い・氷温貯蔵他）について解説する。 乾燥の原理から乾燥法（FD・SD・薬剤他）について解説する。 対面を利用して身近な乾燥食品についてディスカッションする。 冷蔵庫の在り方・利用方法・今後の課題についてグループワークを実施する。
5	食品の保存2 食品の保存2 今回のTQ？ ①酸素対策 ②食品添加物 ③冷殺菌法・その他 食品の保存方法について酸素対策や食品添加物の使用法またその他の保存方法について学ぶ。 食品劣化の原因である酸素対策についてCA貯蔵・MA包装・脱酸素剤を解説する。 食品添加物について種類・表示方法について解説する。 燻煙法について塩蔵・煙の成分・燻煙の種類を含めて解説する。 加熱しない殺菌法として冷殺菌（薬剤・放射線）について解説する。 機能性水について解説する。 対面を利用して食品添加物の意義についてディスカッションする。
6	食品の包装と包材（PBL） 食品の包装 今回のTQ？ ①包装の意義 ②包装素材 ③プラスチック素材 ④包装関係諸問題 食品の包装及び関連事項について学ぶ。 包装の意義（歴史事項・必要性他）や包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック）について解説する。 プラスチック素材に関しては、各種プラスチックの特徴・複合フィルムを含め解説する。 包装及び包材関係する諸問題、環境問題・エネルギー問題、リサイクル他についても解説する。 容器包装識別表示についても解説する。 食品の包装を通じて関連する問題を確認する。（PBL） 対面を利用して、リサイクルや環境問題についてディスカッションする。
7	食品の表示と法規（PBL） 食品の表示 今回のTQ？ ①表示とは？ ②商品開発と表示 ③食品表示法他、関連法規 ④表示の実際 食品の表示について表示法から関連法規について学ぶ。表示から食品の情報を収集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報収集することで食品に関連する事項を確認する。（PBL） 対面を利用して食品で気になる表示についてディスカッションする。
8	食品の開発（PBL） 食品の開発 今回のTQ？ ①食品開発とは？ ②歴史と食品 ③食品開発の実際 ④リニューアル 食品開発について、時代の証言からその手法を含めて全般的に学ぶ。 食品開発については、ニーズとシーズを踏まえて開発の手順について解説する。 歴史から開発された食品やメーカーのヒット食品も紹介する。 食品開発の別の柱である食品のリニューアルについても解説する。 自ら食品を開発（企画）することで食品に関連する事項や重要点を確認する。（PBL） 対面を利用してヒット食品についてディスカッションする。
9	穀類と加工食品 穀類 今回のTQ？ ①穀類とは？ ②米類 ③小麦粉類 ④その他穀類 穀類について、その意義や価値及び米類・小麦類について学ぶ。 米類については、種類、米の処理（搗精法）、米類加工方法（無精米・備蓄米他）について解説する。 小麦については、特長やその加工品、パンの製法（製パンの原理・各種製パン法）及びメーカーの技術を紹介する。 対面を利用して、好きなパン及び製パン技術についてディスカッションする。
10	肉類と加工食品 肉類 今回のTQ？ ①肉類の種類 ②加工食品及び加工法 ③肉類に関連する事件 肉類の種類や肉類の加工品及び関連事件も含めて学ぶ。

	肉類の種類は、家畜、家禽、家兎を紹介し、肉類加工品（ソーセージ・ハム類）を事例を踏まえて解説する。 肉類関連事件（食の安全問題）として、狂牛病、口蹄疫、鳥インフルエンザについても解説する。 対面を利用して、肉類の加工品や調理についてディスカッションする。 魚介類と加工食品 魚介類 今回のTQ？ ①魚介類の種類 ②加工食品 ③加工法 魚介類について、種類（魚類・甲殻類・頭足類その他）や加工食品及び加工法について学ぶ。 魚介類の特徴や種類及び人気のある魚について解説する。 魚介類の伝統的加工品及び加工法や新しい食品についても解説する。 対面を利用して、鮭についてディスカッションする。
11	
12	油脂類と加工食品 油脂類 今回のTQ？ ①油脂とは？ ②油脂類の原料と種類 ③油脂類の処理（加工） ④加工食品 ⑤業界の動向 油脂類の種類からその処理法（採油・製油法）及びそれぞれの加工食品について学ぶ。 油脂原料は、植物油・動物油脂の特徴と処理法と油脂加工食品（マーガリン・ショートニング）について解説する。 また油脂メーカーの動向を業界の動きと合わせて解説する。 対面を利用して、油についてディスカッションする。
13	野菜・果物類と加工食品 野菜・果物類 今回のTQ？ ①野菜の種類 ②野菜の加工食品 ③果物の種類 ④果物の加工食品 野菜と果物の種類や加工方法及び加工食品について学ぶ。 野菜と果物は喫食する部位にわけて種類を解説する。 加工食品については伝統的加工方法や最新の技術を踏まえて解説する。 対面を利用して、好きな野菜・果物についてディスカッションする。
14	嗜好飲料類 嗜好飲料類 今回のTQ？ ①ノンアルコール飲料 ②アルコール飲料 嗜好飲料について、ノンアルコール飲料とアルコール飲料を分けて種類や製法及び製品特長について学ぶ。 ノンアルコール飲料は、炭酸飲料、缶コーヒー、スポーツ飲料・ミネラルウォーターについて解説する。 アルコール飲料は、ワイン・ビール・日本酒・蒸留酒について解説する。 対面を利用して、各種嗜好飲料についてディスカッションする。
15	乳類・乳製品類・まとめ 乳類・乳製品類 今回のTQ？ ①牛の一生（牛が牛乳を採取するまで） ②乳類分類 ③殺菌方法 ④乳製品 ⑤加工食品まとめ 乳類及び乳製品について原料から処理及び加工方法、加工食品について学ぶ。 牛から牛乳が出来るまでと牛乳分類・殺菌方法について解説する。 乳製品や関連微生物についても解説する。 今まで学んだ加工食品についてまとめる。 対面を利用して乳製品について利点を含めてディスカッションする。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：一般的な加工食品の製造方法・原理・表示・関係事項を理解して新しい食品を創造（企画）することができる。 ◎E：一般的な加工食品の製造のイメージができ、製造を通じて関係する諸問題を認識できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って食品及び関連事項を学んでいくので、各回ごとに教科書の内容を良く目を通し、キーワードや興味ある点・事項などノートに列挙すること。興味ある事項は、新聞・雑誌・参考書・インターネット等で調べてノートにまとめること（60分程度） 事後学習：授業を通じて習ったことをノートにまとめその食品の理解を深めること。市場（スーパー・CVS等）にて市販品をみて確認し、情報（表示他）を収集してノートにまとめること。またその食品の業界のホームページやメーカーのホームページを調べて内容を確認しノートにまとめる。（120分程度）
指導方法	授業は、基本的にパワーポイントを使用して関連事項や事例を提示しながら授業を進める（学生はノートを取り、常にキーワードを意識すること）。随時、学生には多角的に質問して理解状況や興味を確認する。毎回、前回のポイントをパワーポイントに提示し、重要点を再確認する。 フィードバックの仕方：①授業内での質疑応答及び今回のポイント確認 ②次回の授業で前回の重要点確認
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	毎回授業で行うTQに関しての理解・学びの展開状況を確認し評価する。 新しい食品の創造（企画）を通じて評価する。 ○D：一般的な加工食品の製造方法・原理・表示・関係事項を理解して新しい食品を創造（企画）することが

	できること。 ◎E：一般的な加工食品の製造のイメージができ、製造を通じての関係する諸問題を感覚的に認識できること。 毎回行うTQの解答内容：45%（各回1点基準 内容により＋1点 ＋2点） 新しい食品の創造（企画）：40%（内容により評価し内容により＋－加点） 授業態度：15%
テキスト	五訂 食品加工学 編者 北尾悟・鍋谷浩志 建帛社
参考書	食品加工貯蔵学 本間精一・村田容常 東京化学同人
履修上の注意	授業を受けるに当たり下記の事項を遵守すること 1. 講義授業は、講義に参加（聞く・質疑に答える・ノートを取る等）することを原則とする。 2. 授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度（マナー）に注意すること。 授業中は次にあげる行為は禁止する。（おしゃべり、居眠り、飲食、スマホ等の操作、化粧、他の教科の課題の作成、無断で教室外へ出ること・授業を受ける上で好ましくない行為等） 特に居眠りしている場合は、授業に参加していないと見なす。 3. 授業に必要なでないもの（飲食物、スマホ等、授業に使用しない物）は持ち込まないこと。または、鞆等にしまうこと。 4. ノートを必ず用意して授業中にノートを取ること。 上記の事項を順守できない場合は評価（授業態度）に影響するので注意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ディスカッション：授業の特記事項や特定のキーワードに関してディスカッションを実施する。PBL 新しい食品の創造：学んだ知識を基に食品を創造（企画）する。PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：栄選択必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C14	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 食品加工実習は、食品の製造（加工・原理）を通じて食品を幅広く理解することを目指している。授業では、「食品製造」、「食品開発（企画）」、「メニュー提案」の構成で実施する。 食品製造は、「学び」、「体験」、「総括」をセットとして食品加工の理解を深める。 「学び」では、加工原理及び製造方法・加工方法を理解する。 「体験」では、実際に加工食品を製造して試食検査を実施する。また市販品と比較する。 「総括」では、学び・体験したことや得たことや感じたことをレポートにまとめる。 食品開発（企画）は、グループ内で課題テーマに応じて、協議・ディスカッションを繰り返し行い発表する。 メニュー提案は、製造した食品を基に新たな視点から、グループ内で協議・ディスカッションを繰り返し行い発表する。 担当教員は、食品会社（開発研究所所属・工場現場での試作・指導等）の実務経験より現場の実例を示しながら多角的に食品加工及び加工食品を解説する。また授業の空き時間を利用して学生にフィールドワーク（市場調査・情報収集等）を奨励する。 （授業の目標） 専門的な知識と技能では、食品の基礎的知識、加工方法、表示、市販食品との違いを理解すること。他者と信頼関係を築くことを目標としてグループワークを行う。グループワークは、加工食品を作り上げること（食品製造）と食品開発（企画）・メニュー提案をグループ内で協議・検討を行い発表をすることとする。 （学習成果） ○D A：食品の加工を通じて、食品の機能・諸問題等が理解して加工食品を十分に認識でき、主体的にグループごとに商品開発やメニュー提案を行うことができる。 ◎E：一般的な加工食品の製造原理を理解し、食品製造に十分な認識をもって基礎的な食品の加工・製造を主体的にできる。
----------------------------------	---

授業計画	1 食品加工の概要 食品加工の概要（講義） ・授業の目的・内容説明 - レポートの作成方法 ※Classroom等にてレポートの書き方提示 ・食品加工概要 - 食品を加工する意義及び加工方法について解説する。 - 物理的方法と化学的方法及び生物的方法についてそれぞれの加工方法と食品事例を学ぶ。 ・完成度の高い加工食品紹介（DVD等から） - 何故完成度が高いか？その食品の歴史を通して学ぶ。 2. 3 食品製造概要・果物の加工（イチゴジャム） ①食品製造概要（講義） - 食品を製造すること（製造環境・作業員の心得他）全般について解説する。 ・食品製造所 - 食品の製造はどのような環境で行うか現場（工場）の実例をあげて説明する。（DVD） - 授業で使用する実習室（加工環境等）の注意事項を確認する。 ②果物の加工：イチゴジャム（製造作業） ・イチゴジャムの製造 - イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 - 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。製造を通じて食品を加工する意義を確認する。 4. 5 食品開発・開発作業（PBL） ①食品開発（講義） ・食品開発の考え方（開発・企画） - ニーズとシーズの関係 - 歴史と食品及びヒット食品について解説。 ・加工食品の保存技術 （低温処理・乾燥）缶詰や瓶詰の保存の原理、脱気・密封・殺菌について解説する。 - 加工食品の商品開発について事例を踏まえて解説する。 ②食品開発（開発・企画作業） ・開発の手法等よりグループディスカッション ・テーマ参考資料の視聴（DVD等） ・テーマについてグループディスカッション
------	---

6. 7 8. 9 10. 11 12. 13 14. 15	食品を開発（企画）することで食品関する諸問題を確認する。PBL 小麦粉の加工（手打ちうどん）・提案作業（PBL） ①小麦粉の加工：手打ちうどん（製造作業） ・手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介 する。 製造を通じ職人の技術も確認する。 ②メニュー提案（提案作業） ・うどんの新しい食べ方等検討 グループワークにて新しい食べ方等についてメニュー提案をする。 新しい食べ方（メニュー提案）を検討することで食品の本質を理解する。PBL 乳製品の加工（チーズ）・提案作業（PBL） ①乳製品の加工チーズ・乳飲料（製造作業） ・カッテージチーズの製造 カッテージチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズを試食して違いや風味等を確認する。 製造を通じて、乳類の品質や特性を確認する。 ・乳飲料の製造 チーズを製造する工程で生じる乳清を利用して乳飲料を製造する。 ②提案作業（メニュー提案） ・カッテージチーズ等の新しい食べ方検討 グループワークにて新しい食べ方等についてメニュー提案をする。 新しい食べ方（メニュー提案）を検討することで食品の本質を理解する。PBL 缶詰と瓶詰・野菜の加工（ピクルス） ①缶詰と瓶詰（講義） ・食品の劣化 食品が劣化する原因と現象を解説する。 ・長期保存食品の秘密（DVD） 缶詰・瓶詰の製造の秘密を確認する。 ②野菜の加工（製造作業） ・ピクルスの製造 野菜の保存方法について学ぶ。 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢の種類や特長について学ぶ。 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。 製造を通じて、浸透圧の現象や食酢の効果や品質を確認する。 油脂の加工（バター）・グループワーク ①油脂類の加工：バター・乳飲料（製造作業） ・バターの製造 バターの製造原理や乳化について学ぶ。 バターの製造を通じて、加工手法（遠心力）を体感する。 ・乳飲料の製造 バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。 ・官能検査の手法（DVD） 試作品を試食・試飲の際の官能検査の手法について解説する。 ②グループワーク ・食品開発やメニュー提案のグループワーク 発表準備及び対応作業及びプレゼンテーションの練習等を行う。 加工食品（加糖酸乳）・発表会 ①加工食品：加糖酸乳（製造作業） ・乳製品の応用 加糖酸乳の製造 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 製造を通じて、酸乳について製法の意義を確認する。 ②発表会（プレゼンテーション） 授業で行ったグループワークより、食品開発やメニュー提案を グループ毎に発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D A：食品の加工を通じて、食品の機能・諸問題等が理解できグループごとに食品開発やメニュー提案を行 うことができる。 ◎E：一般的な加工食品の製造原理を理解し、基礎的な食品の加工・製造の作業を行うことができる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って次回製造する食品について教科書や参考資料及びインターネット等で調べてノー トにまとめる。合わせて関連キーワードをノートに列挙する。（45分） 事後学習：実習で習ったことをレポートにまとめて製造した食品の理解を深める。機会を見つけて市場の市販 品（表示含む）を確認し、関連メーカー等のホームページも確認しノートにまとめる。（45分）
指導方法	・5～6人を1グループ（班）にし班単位でグループワークを行う。製造は、瓶詰、袋詰等は1人1個の割合（5～ 6人分）の規模で実習し、発表課題（食品開発・メニュー提案）についてはグループ毎に発表する。 ・最初に製造の原理や操作方法を説明し、その後は各班ごとに巡回しながら指導する。 ・実習（食品製造）ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。 フィードバックの仕方：①レポート提出 ②レポート評価、コメント ③授業内の質疑応答 ④前回作品の振 り返しや追加事項の解説を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	グループワークで行った発表内容（食品開発・メニュー提案）及び学修の成果をまとめたレポートにて評価す る。 ○D A：食品の加工を通じて学んだことを基に、食品開発やメニュー提案を行いの内容を評価する。

	◎ E：一般的な加工食品の製造原理を理解し、基礎的な食品の加工・製造の作業の概要をレポートにてまとめる。そのまとめ内容を評価する。 レポート50% 発表状況（食品開発・メニュー提案）40% 実習参加状況（実習態度・ルール順守等）10%
テキスト	食品加工実習・実験書 吉田企世子編 医歯薬出版
参考書	五訂 食品加工学 北尾悟・鍋谷浩志編 建帛社
履修上の注意	授業を受けるに当たり下記の項目を遵守すること 1. 班単位で製造・企画するので班員で協力して実習に参加すること。 2. 食品を製造する意識を常にもって実習に参加すること。 3. 実習の時は食品製造に適する身支度をして衛生管理に留意し、怪我等しないように注意すること。 4. 食品製造の環境下で授業を行うので、飲食物、スマホ他、授業に関係ない物品は持ち込まないこと。 5. ノートを用意して必要事項はメモすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： フードビジネス・DXゼミ

授業コード： 3601

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：選択 主要科目：○
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N39C55	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業は、後期「食物栄養科ゼミナール」での産学連携に向けて、基礎となるデジタルトランスフォーメーション（以下DX）を含めた実情やノウハウを学修する。授業は、構成上前半は学外実習に関連した事項を学び、後半でフードビジネスDXに関連することを学修する。前半は、第1回はモデル別ゼミの全体ガイダンス、第2～6回は「学外実習準備講座」の全体会構成で、各特定給食施設の特徴やそこで求められる栄養士の役割などを学ぶ。後半は、第7～15回はモデル別の授業で、フードビジネスDX分野では、フードビジネス（主に外食、中食、一部流通も含む）における最新の事例を解説しながら実務で役に立つDX、デジタルマーケティング・フードテックの基礎知識について、学修する。実際にフードビジネスの領域で活躍のゲスト講師を招き、実践的な学びを深めることを目的とする。専任担当教員は、食品メーカ出身なので合わせて食品産業を主に製造業に関する事項を補足する。 (授業目標) 実社会で直面する課題について、本講義で学んだDXやデジタルマーケティングを活用して解決するための基礎知識を身に付ける。 (学習成果) ☒ C：グループで主体的に課題をディスカッションし、実態に基づいた課題解決策や役割について説明できる。 ☒ D：キャリア形成や実社会で役立つ実践的な知識について具体的に説明できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（他モデルと合同） 学科長挨拶（担当：川嶋） 各回の授業内容やスケジュールの確認（担当：専任教員全員） 就職活動の進捗状況確認と今やるべきこと（担当：キャリアセンター） 2 〈学外実習準備講座〉学外実習ガイダンス：全体会（担当：西山・井部・狩野・橋詰・谷口） 学外実習の目的、方法、授業を受ける際のルールなど、概要を学ぶ。学外実習担当者より、それぞれの担当する分野や授業内容などについて説明を受ける。 3 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴①：全体会（担当：井部） 特定給食施設（事業所）（病院）の種類と特徴について学ぶ。 学外実習についての説明・連絡を受ける。 4 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴②：全体会（担当：西山） 特定給食施設（保育所）の種類と特徴について学ぶ。 学外実習についての説明・連絡を受ける。 5 〈学外実習準備講座〉特定給食施設の種類と特徴③：全体会（担当：狩野） 特定給食施設（高齢者福祉施設）の種類と特徴について学ぶ。 学外実習についての説明・連絡、準備等を行う。 6 〈学外実習準備講座〉学外実習ガイダンス：全体会（担当：狩野・西山・井部・橋詰・谷口） 学外実習についての説明・連絡、準備、注意事項等を行う。 7 DXとフードビジネス概略（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 DXに至るまでの歩みとなぜ今DXが重要となっているのかについて学ぶ。 8 フード業界で求められる人財（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏） フードビジネスにおいて活躍出来る人財像や身に付けるべき知識について学ぶ。 フードビジネスにおけるデジタルマーケティングの仕事と役割について学ぶ。 9 DXとフードビジネス①（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏） DXにより社会がどのように変化しているのかについて学ぶ。 DXによってはフードビジネスがどのように変化するについて学ぶ。 10 DXとフードビジネス②（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏） 世界と日本のDX、デジタル活用と考えの違いについて学ぶ。 海外のDX事例について学ぶ。 11 DXとフードビジネス③（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏）（PBL） 日本のDX事例について学ぶ。 日本のフードビジネスの可能性について考察する。 12 DX前後でのマーケティングの違い（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘氏） 外食、中食、流通における販促、広告手法について学ぶ。
------	---

	13 デジタルマーケティング（実務視点）①（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘 氏）（PBL） デジタル広告、販促、販売について新しい手法について学ぶ。 14 デジタルマーケティング（実務視点）②（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘 氏） 広告のタイプと運用と効果について学ぶ。 SNS、顧客接触について学ぶ。 15 フードテックの事例を学ぶ（担当：谷口、ゲスト講師；渋谷和弘 氏） AI、ロボット、代替食、自動運転、データの活用、農業・漁業の最新現状について学ぶ。 （*最新事例を解説するため内容に変更が発生する場合があります。）
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：課題解決策を考えて、テーマに基づき知識を深めて、実践につながる力を身に付けることができる。 ◎D：フード産業関連企業におけるDXやデジタルマーケティングの取り組みについて自分の言葉で第三者に説明ができる。
事前・事後学習	事前：連続性がある授業のため前回授業で学んだ用語は復習しておくこと（45分程度） 事後：実際に飲食店を利用やインターネット等で調べて学んだことと照らし合わせて理解を深め、文章で要約して知識を定着させること（45分程度）
指導方法	パワーポイント、写真、動画など毎回の授業に適した資料を用いる。内容によってはグループディスカッションも取り入れる。 フィードバックの仕方：①レポート、課題提出、②評価して返却、③授業後に内容についての質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：テーマに基づいた課題に対して、グループで解決策や役割を理解し、レポートにまとめて提出することで評価する。 ◎D：授業内容に関する課題および感想、授業態度等、貢献度で評価する。 DX、デジタルマーケティングに対する理解について、課題レポートや授業後のアンケートで自身の見解や主張を積極的に述べられたかを評価する。 課題レポート（60%）、授業後のアンケートおよび感想（30%）、授業態度・貢献度（10%） 成績評価は上記の配分で行う。
テキスト	使用しない。毎回プロジェクターで資料を投影する。
参考書	
履修上の注意	自身が社会に出た時にどのような職業に就きたいか具体的にイメージしながら積極的に授業に臨むこと。 携帯電話を授業中に関係のない目的で使用したり、私語、居眠りは減点対象とする。 毎回の講義は関連性があるため体調に気を付けて欠席をしないように努めてください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、PBL

講義科目名称： 応用調理（鮓）

授業コード： 3421 3422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：選択
担当教員			
川嶋比野（契約講師：平塚未来）			
ナンバリング：N28C38	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 握り寿司、巻き寿司、稲荷寿司、ちらし寿司等、様々な「すし」、「日本料理」の実習を通して、日本の伝統的なすしの知識を深めると共に、炊飯、魚の扱い、切りつけ、巻き方、握り方、盛り付けなどの技術、衛生管理を総合的に学ぶ。 （授業目標） すしのあらゆる基本技術を修得し、おもてなしの心を理解する。 （学習成果） ☒ A：他者とのコミュニケーションを大切にし、共同的な学びを得ることができる。 ☐ B：主体性を持って実習に取り組み、魚の三枚卸し、握り寿司などの技術を習得することができる。 ☒ C：食材、調理器具の扱い方を理解し、食べる人のことを意識した調理作業、盛り付けができる。		
授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、すしの歴史について、調理の上での食品衛生学 2, 3 稲荷寿司（実習） 米の研ぎ方、選び方、炊き方、すし飯の作り方、しゃり切り①、すし特有の器材の使い方、酢の調味標準 上方ずしと江戸前すしの違い、油揚げの煮方 献立：彩り稲荷 4, 5 魚の卸し方①（実習） 三枚卸しと酢ペについて、しゃり切り②、海苔と巻簾の使い方①、ガリについて 献立：鰻の棒寿司、鰻と大葉の細巻寿司 6, 7 太巻き寿司（実習） 厚焼き鍋の扱い方、乾物の扱い方、出汁の取り方（調味標準、椀種・椀棲・吸い口）、醤油の違い、巻簾の使い方② 献立：太巻き寿司、海老真蒸椀 8, 9 握り寿司①（実習） 魚の卸し方②鯛 柵取り・ネタの切り付け方、ネタの仕込み方、冷凍鮭の戻し方、海老の串打ち・茹で方、 寿司屋のSDGs・潮汁、握りずしの握り方・練習法① 献立：握り寿司（鮪・鯛・海老）鯛潮汁 10, 11 ちらし寿司・手毬寿司（実習） 厚焼き鍋の扱い方②錦糸卵の作り方、行事食について、貝類を使った汁物 献立：ミニちらし、手毬寿司、あさりのお吸い物 12, 13 魚の卸し方③鰻の復習・握りずし②（実習） 天ぷらの基本（鍋・油・温度・衣）、天つゆと出汁の活用法、握り寿司の握り方②、鰻の切り付け方② 献立：鰻の梅肉天ぷら、精進揚げ、鰻の握りずし 14, 15 握り寿司③、実技試験 握り寿司の握り方③、寿司屋の楽しみ方 献立：握り寿司（鯛・鮪・烏賊・海老）、細巻		
到達目標・基準 C評価になる基準	☒ A：他者とのコミュニケーションを大切にし、課題解決に向けて協力することができる。 ☐ B：目標に向かって主体性を持って取り組み、努力することができる。 ☒ C：食材、調理器具の扱い方を理解し、調理作業、盛り付けができる。		
事前・事後学習	事前学習：予定表で献立を確認し、料理について調査すると良い。（30分程度） 事後学習：実習後は授業内容をレシピとしてノートにまとめ、もう一度調理や練習をし復習をしておくが良い。（60分程度）		
指導方法	デモンストレーション⇒4人のグループ別に調理⇒盛りつけ⇒評価⇒試食⇒片付け調理の基本である安全面・衛生面の徹底 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③授業中および授業後の質疑対応		
アセスメント・成績評価の方法・基準	☒ A：グループ内での授業貢献度、授業準備の不備の有無で評価する。 ☐ B、 ☒ D：受講態度（提出物含む）、実技試験、レポート内容で評価する。 受講態度45%、実技試験30%、レポート提出25%の配分で評価する。		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	
履修上の注意	衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動すること。 食品アレルギー等がある場合は事前に申告すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

講義科目名称： 食空間プロデュース

授業コード： 3521 3522

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C47	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 人を喜ばせる“おもてなし”。「飲食」のおもてなしを楽しく演出・構成するツールとして見直し、多角的にデザインする。 オリジナルの「パーティー」を作り上げることをテーマとし、創作料理と盛り付けデザイン、テーブルコーディネートとテーブル周りの演出、オリジナルのお菓子やデザート調理、招待状の作成。優れた参考事例を元に、総合エンターテインメント体験としてのフードデザインを身につける。 フードコーディネーター資格取得のための学修にも対応した内容の授業。 (授業目標) 人が集い、飲食を楽しむ「おもてなしのデザイン」について、その発想のコツと具体的で楽しい企画書のまとめ方を身につける。 (学習成果) ☐ B：自己肯定感とオリジナリティをもって、最後までやりとげることができる。 ☒ C：自らリサーチし創造力を高め、目標と計画をたてて課題を解決することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 楽しく美しいフードエンターテインメントの世界 パーティーの実例から学ぶ「おもてなし」の表現。 テーマと表現。 2 パーティー計画① (PBL) イメージボード作りで計画立案。 イメージおよび資料の収集。小課題1 イメージボードの提出 3 パーティー計画② (PBL) イメージボード、コンセプト作り。 空間からの具体的なイメージ発想を文字で書く。小課題2 コンセプト文章の提出 4 パーティー計画③ (PBL) 招待状づくり。小課題3 招待状の提出 5 パーティー計画④ (PBL) メニューづくり。小課題4 招待状の提出 6 パーティー計画⑤ (PBL) 具体的な料理のデザイン。 7 パーティー計画⑥ (PBL) 料理の盛り付けデザイン。小課題5 料理のデザイン画の提出 8 パーティー計画⑦ (PBL) デザート現物づくり。 現物の撮影。 9 パーティー計画⑧ (PBL) テーブルコーディネーション計画：アイデア。 10 パーティー計画⑨ (PBL) テーブルコーディネーション計画：配置。 11 パーティー計画⑩ (PBL) テーブルコーディネーション計画：描画。 12 パーティー計画⑪ (PBL) 会場デザイン描画。 13 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり① (PBL) ビジュアルシートのレイアウト。 14 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり② (PBL) プレゼンテーションの文章づくり。 15 発表、講評 (PBL, プレゼンテーション) 最終プレゼンテーション： ビジュアルプレゼンテーションシートの最終調整と発表・授業内展示および講評。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	○B：自己肯定感をもって、最後までやりとげることができる。 ◎C：目標と計画をたてて課題を解決することができる。
事前・事後学習	事前学習：他の授業で使用しているフードコーディネーター資格取得対応教科書の中から、この授業に役立つ項目を熟読しておくこと。また、事前に図書やインターネットで資料を良く見たり、街に出て実際の事例を見ておくこと。（30分） 事後学習：授業で説明した内容、事例を良く反復自習してください。（30分）
指導方法	授業では、映画や写真や現物による視覚教材を多用して、センスと発想力を高めるための基本的な知識を学ぶ講義と、各自が発想した計画を視覚表現する技術を修得する演習を複合して進めます。 一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力を培う指導を行います。 フィードバックの仕方：①毎回授業時間内に質疑応答の時間を設ける。②「パーティーの企画書」の作品について講評を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：授業時間内に提出の小課題の提出内容を評価する（20%） ◎C：最終プレゼンテーションでの発表内容を評価する（80%） 受講態度（20%）、中間提出物（10%）、最終提出物のプレゼンテーション（70%）
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	資格とセンスを活かして、組織内でプロジェクトリーダーとして仕事を推進出来る、あるいは、独立して仕事をすることを目指す学生の参加を歓迎する。 社会で自立して自由に生きる力を身につけるために、既成概念にとらわれずに、頭を柔らかくして授業を楽しんで欲しい。 受講者の問題意識の程度等により、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL、プレゼンテーション

講義科目名称： 食空間デザイン

授業コード： 3531

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C48	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 学校や社会で学んだ知識や技術を活かして、社会で自立して生きる具体的な方法の一つである「飲食店経営の開店計画」をテーマに、個性を活かした集客力ある飲食店の空間デザインのコツを学ぶ。 食空間をミクロ（お皿の上）からマクロ（店舗全体の空間）まで引き伸ばし、共通した強いコンセプトを持ってデザインすることを学ぶ。 フードコーディネーター資格取得の学修にも対応した内容の授業。 (授業目標) 飲食店開店に向けた具体的な企画能力を、模型作成を通じ総合的に身につける。 (学習成果) ☐ B：自己肯定感とオリジナリティをもって、最後まで完成度高くやりとげることができる。 ☒ C：自らリサーチし創造力を高め、目標と計画をたてて課題を解決することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 自宅兼用飲食店・マイショップ経営の魅力 自立する生き方を実現できるマイショップの魅力について マイショップで成功した人々から学ぶ開業のコツ あなたの好きなこと、興味あることから発想する 2 成功する個性的な飲食店づくり（実習） イメージボードの作成 経営テーマの決定 テーマを具体化させる店舗コンセプトづくり イメージの収集 小課題の提出1 イメージボード 3 空間計画のコツ①（実習） 空間構成配置を考える、顧客導線と働き手の動線計画 小課題の提出2 平面図の提出 4 空間計画のコツ②（実習） 壁面の計画を考える 小課題の提出3 立面図の提出 5 立体で考える①（実習） 図面をトレースして床を作る 6 立体で考える②（実習） 壁面デザインを作る 窓を作る 7 立体で考える③（実習） 家具のデザイン 家具を作る 8 立体で考える④（実習） 機器類のデザイン 機器類を作る 9 立体で考える⑤（実習） 色彩計画 インテリアデコレーション計画の作成 全体の色彩を考える 10 立体で考える⑥（実習） 色彩計画 空間着彩 11 立体で考える⑦（実習） 色彩計画 家具・機器着彩 12 立体で考える⑧（実習） 外部と看板デザイン 店名を考え看板を作る 13 模型組立（実習） 壁や家具などを仕上げ、配置し、組み立てる 14 装飾物のデザイン（実習）
------	---

	模型の仕上げ... 壁面に装飾物を取り付ける 模型の手直し、ブラッシュアップ 発表, 講評 (プレゼンテーション) 最終授業日に課題成果物の最終調整と、発表・授業内展示および講評を行い、個性表現の無限の魅力と効果を確認します。
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：自己肯定感をもって、最後までやりとげることができる。 ◎C：目標と計画をたてて課題を解決することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業計画や自分の学習進度を確認しながら授業内容に即した情報を、図書やインターネット、もしくは街で実例をリサーチする(45分)。 事後学習：授業で習得した知識や手法を反復して課題作成に活かす(45分)。
指導方法	授業では、サンプル模型や映画や写真などの視覚教材を多用して、発想力を高めます。 各自の個性表現を大切に、一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力と具現化力を培う指導を行います。 フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑応答の時間を設ける。②イメージボード、コンセプト文章を途中段階で提出、まとめる力を段階的に養う。③最終作品を各自に講評する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：小課題の提出、また各回授業での質疑応答により評価する (20%) ◎C：最終プレゼンテーションでの発表内容を評価する (80%) 受講態度 (20%)、中間の提出物 (10%)、最終提出物の模型およびプレゼンテーション (70%)
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	既成概念にとらわれずに頭を柔らかくして、授業を楽しめる学生を歓迎する。 個人のセンスや技能を活かしたマイショップ経営の計画を体験しながら、自由に生きる力を身につけていって欲しい。 自分の隠れた才能やセンスを発見して自立の自信をつけよう。 資格取得へのチャレンジを積極的に応援する。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N28C49	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) フードスタイリングをする上で必要なセッティングの基本(洋食・和食)、食文化、国内外の歳時記を学び、実習を通して食空間プロデュース、フードスタイリングを身に付ける。 (授業目標) セッティングの基礎知識、マナー、食文化を理解し食空間プロデュースをする企画力、フードスタイリングの技術を知る (学習成果) ◎B：課題を理解して、企画を纏め、テーブルコーディネートを発表出来る。 ○D：レポート作成して課題分析が出来る。課題に対してメニュー提案が出来る
----------------------------------	--

授業計画	1 フードスタイリング概論 フードスタイリングについての概要と必要性について学ぶ。 2 食空間プロデュース概論(実習) 食空間プロデュースとはどのような事をするのか、またその効果と必要性について学ぶ。 テーブルセッティングの実習。器と料理の関係を学ぶ。 3 洋の歳時記を学ぶ 洋の歳時記を知り、企画書を作成する。 代表的な食物を知る。 4 季節のイベントテーブルを作成(グループワーク、実習テーブルセッティング、プレゼンテーション) ハロウィン、サンクスギビングなど、季節のテーブルの企画書作成、テーブルを作製、発表 写真撮影、 テーブルセッティングの実習。フードスタイリングの提案 学生評価も加味したうえで学園祭出展作品を選定する。 5 テーブルウェアについて テーブルウェアとは何か。洋食器の基本知識。 食卓装飾品について学び、その活用法を知る。 各自スタイリングをする。 6 センターピースについて(実習) センターピースの役割とは。 それぞれが生花を使用して、センターピースアレンジメントを作る。 実際のテーブルに置いて写真撮り。 各自作品をテーブルに配置する。 7 料理とサービス、プロトコール 料理メニューの書き方、サービスの仕方。 プロトコールの基本を学ぶ。 ブッフェサービスについて。 8 日本の食卓の基本 和食の成り立ちと和食の形態を知る。 本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。 9 和の歳時記と行事食 五節句の行事食とコーディネートを学ぶ。 四季の折々の特徴的料理を調べる。 10 正月祝い膳 日本人にとっての正月祝い膳の意味を考える。 全国のお雑煮のレポート、お正月、おせち料理のレポート。 11 クリスマスとパーティプロデュース パーティの基本的考え方と企画の立て方。 クリスマス市場のリサーチ(今年のクリスマスケーキの特徴、売れ筋) レポート提出。 12 クリスマステーブル作製(グループワーク、実習、プレゼンテーション) クリスマステーブル作製、発表、写真撮影、企画書提出。 パーティープラン発表。 テーブルセッティングの実習。 学生評価も加味したうえでクリスマス展示テーブルの選定をする。
------	--

	13 ティーテーブルとおもてなしの仕方 英国紅茶のセッティングとおもてなし方法を実習体験する。 セッティングされたテーブルの中より各自、スタイリング写真を撮る。 バレンタインデーの意味を知る。 14 バレンタインのテーブル作製（グループワーク、実習、プレゼンテーション） バレンタインテーブル作製、発表、写真撮り。 バレンタインの意味を理解したうえで、各自チョコレートフードスタイリングを考える。 15 バレンタインの企画書を完成（プレゼンテーション） バレンタイン企画の企画力、（チョコレート販売の企画書）プレゼンテーション能力を問う。 各自の発表、最優秀者によるプレゼンテーション発表を行う。 学生評価も加味して最優秀者を選定する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：企画書、作品発表が出来る。 ○D：確認小テストで知識の着床ができる。レポートが纏められる。
事前・事後学習	事前学習：実習演習に向けてイメージを形に表す写真などをスクラップしてまとめ、企画書の課題に取り組む（30分）。 事後学習：授業に関心を持った情報をインターネットや雑誌等で調べる。授業内容をまとめる。撮影した授業写真をレジюмеに添付するなど、実践で生かせるように復習する（30分）。指示された課題やレポートに取り組む（30分）。
指導方法	講義と実習 テキスト、レジюмеパワーポイントを使用して講義。 講義で理論を理解した上で実習を行い、知識の定着を行う。 レポートを提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。 テーブル展示を行いプレゼンテーション能力を促す フィードバックの仕方：①レポートを確認 ②評価し返却 ③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の授業への関心を深め知識の定着を促す。④授業後に質疑応答を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：企画書、作品発表、レポートの纏め ○D：授業の纏めレポート、実習纏め、プレゼンテーション飼料 授業の纏めレポート30%、企画書20%、作品発表20%、実習纏め資料作成、プレゼンテーション30%
テキスト	T A L K食空間コーディネーター3級 NPO法人食空間コーディネート協会著 株式会社優しい食卓
参考書	料理を美味しく演出する「盛り付け&セッティング」 メイツ出版
履修上の注意	講義と実習と交互に行いますので、欠席が多いと最終作品に大きく影響が出るので欠席しないこと。 グループでの発表に対して、グループの一員としての責任感と協調性をもって臨んでください。 企画書の提出、リサーチレポート提出など3～4回あります。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング・フードスタイリングパーティー演出）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N28C51	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 食空間をコーディネートする上で必要な知識、技術を身につける。セッティングの基本・食文化・花・色彩・歳時記・マナーなどを学び、実習を交えて技術の習得と共に食空間コーディネーターを目指す。 (授業目標) 食空間コーディネーターとしての幅広い知識と技術を習得しキャリアアップにつながるように学びます。 (学習成果) ◎B：課題に対して企画を考え、纏め、発表出来る。 ○D：講義からの学びを、纏め、レポート作成、企画書作成できる。		
授業計画	1	洋のテーブルセッティング、食空間のありかたについて 基本のテーブルセッティング、正餐、ビュッフェ、カジュアルなテーブルセッティング、モーニングのセッティング、それぞれの違いを学び確認する。 各自実習セッティングを行う。	
	2	おもてなし料理、西洋料理、マナーについて 日本の西洋料理の変遷、献立の立て方、正餐の献立、朝食、ブランチ、昼食、それぞれの献立の特徴を理解して、献立を考えてみる。代表的な国の料理についても理解を深める。 西洋料理を食する時のマナー、席次を実習を交えて学ぶ。	
	3	酒類、飲料類について 酒類の分類とサービス方法を学ぶ。 西洋料理の食前酒、食中酒、食後酒について学び、グラスとの関係も学ぶ。 飲料類〔ソフトドリンク〕の分類を学び、理解する。	
	4	色彩について カラーシステムを具体的に学ぶ。 色相、トーンのシステムでテーブルコーディネートアイテムを色により整理して見る。 配色テクニックを学び、色使いによる変化を確認、季節の色表現、行事を表現する色演出などイメージカラーについても学ぶ。配色実習を行う。	
	5	テーブルリネンとは テーブルリネンの種類について。 素材、色柄、名称、サイズ、用途について具体的に学び、物を直接、触り、リネンを使用して確認をする。ナプキンの意味を理解した上で、基本的なたたみ方、アレンジを実習を交えて体得する。	
	6	食卓装飾品、照明、光について 食卓装飾品〔フィギュアも含め〕に含まれるアイテムについて学ぶ。 ソルト&ペッパー、センターピース、ナプキンリングなど用途を知り、具体的に物を見て認識する。 東西における照明、光の文化の違いを知る。テーブルコーディネートにおけるキャンドルの役目、効果を考える。	
	7	野外のテーブルコーディネート、食器について 屋外のテーブルの特徴、使用食器〔プラスチック〕の分類、種類。 アウトドアのメニュー、楽しみ方。 実習を交えてアウトドアのテーブルを体験する。	
	8	和陶磁器について、 和陶磁器の歴史、種類、用途を学び、食器に触れて確認をする。 和陶磁器の特徴、産地などについてもその特徴を学ぶ。	
	9	漆器とは 漆の歴史、日本での漆について。 漆の成分、漆器の特徴を学び、その加飾技法を知る。 漆器の種類と用途、取り扱い方法を学び、現代生活での活用方法を考える。	
	10	日本料理について 日本料理の変遷、その特色。 伝統的形式を理解する、その具体的な献立を学ぶ。	
	11	和風の家庭料理について 家庭料理とは、日々食する家庭料理を考える。 経済性、栄養価、味の取り合わせの工夫をする。 お膳の文化だった食卓に、配膳の形の素晴らしさを見る。	

	12 非本料理のマナー、席次を学ぶ。 中国料理について 中国料理の特徴、種類を学ぶ。 宴席料理の幅広い料理と正式な形式について学び、献立の立て方、調理法を確認する。 13 パーティーについて パーティーの始まり、起源、 パーティーの種類を学ぶ。 パーティープランニング〔インビテーションカードの作成も含む〕を行う。 パーティー準備（実習に向けて）を行う。 14 パーティー（実習） コンセプトパーティーを企画実行する。 パーティーマナー（招く側、招かれる側の心得）を学ぶ。 15 まとめ、テーブルコーディネーター3級取得の知識について テーブルコーディネーター3級取得に必要な知識の確認、チェックシートによる復習
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：課題の企画を考え、纏め、発表出来る。 ○D：小テストで知識を確認する、レポートの纏めが出来る。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、課題に取り組む。実習演習に向けて調べ、企画書をまとめる（60分）。 事後学習：授業内容をまとめ復習する。撮影した写真は説明を加え、レジュメに添付、ファイルする（30分）。 関心を持った事柄をインターネット、書籍などで調べ知識の幅を広げる（30分）。 指示された課題、レポートに取り組む（30分）。
指導方法	講義と実習 テキスト、レジュメ、パワーポイントを使用して講義。必要に応じて資料を配布する。 講義で理論を説明した上で、実習を行い知識と技術の定着を行う。グループワークでの発表、各自の発表、レポート、確認テストなどで、知識の確認、修正を行う。実物を直接見て、扱い実習する。発表作品を直接評価すると共に修正により変化を確認し、変化を理解する。 フィードバックの仕方：①レポートを確認 ②評価し返却 ③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の授業への関心を深め知識の定着を促す。④授業後に質疑応答を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：企画を考え、発表で自分の考えを伝える。 ○D：確認小テスト、レポート、企画書、作品発表 確認小テスト50%、レポート10%、企画書20%、作品発表20%
テキスト	TALK食空間コーディネーターテキスト3級 NPO法人食空間コーディネート協会 株式会社優しい食卓
参考書	
履修上の注意	資格取得については、欠席が多いと取得に影響が出るので欠席しないこと。 講義の後に実習を行いますので、講義内容を良く理解して臨んで下さい。 毎回の講義内容の積み重ねが、テーブルコーディネーターとして必要な知識となります、予習、復習がより知識を深めるので行ってください。 企画書の提出、レポート提出、資格取得のまとめとしてチェックシートによる復習を行います。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング・パーティーコーディネート）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N18C51	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 食空間をコーディネートする上で必要な知識、技術を身につける。コーディネート、セッティングの基本・食文化・花・色彩・歳時記、マナーなどを学び、実習を交えて技術の習得と共に食空間コーディネーターを目指す。 (授業目標) 食空間コーディネーターとしての幅広い知識と技術を習得しキャリアアップにつながるように学びます。 (学習成果) ◎B：課題に対して企画を考え、纏め、発表出来る。 ○D：講義からの学びを、纏め、レポート作成、企画書作成できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 食空間コーディネートとは 食空間コーディネートの基本理論について学ぶ。 食空間のありかたについて。 2 テーブルコーディネートの基本 テーブルコーディネート、テーブルセッティングの違いを理解し、プランニングの基本を学ぶ。 3 洋のテーブルセッティングについて (実習) 洋食の基本セッティングを実習で学ぶ。 各自がセッティングした状態を撮影、ファイルする。 4 パーティープランニング 身近な物語などをテーマに、パーティー企画を考え、コーディネートの知識の実践。 セッティングすることを試みる。 楽しいコーディネートの演出を学ぶ。 5 センターピース、フラワーアレンジメント (実習) テーブルでのセンターピースの役割を学び、生花を使用してアレンジメントを作成する。 出来上がった各自の作品をテーブルに置いて撮影する。 センターピースの効果、役割を確認する。 6 外国の行事や歳時 外国の行事、歳時の意味を知り、テーマに合わせたテーブルコーディネートを企画する。 其々の国の文化の歴史、食文化にも触れて考える。 7 外国の行事のセッティング (実習) 外国の行事を具体的にテーブルの上で表現する。 グループで考え企画書を作成、セッティングしたテーブルをプレゼンテーションする。 8 食育基本法について 卓育基本法の中の卓育について学ぶ。 ～心を育む食卓のちから～、を理解する。 9 卓育実習・卓育の役割 卓育とは、子どものお誕生日パーティーを実習。 子どもにとってのお誕生日は、大切な行事であること意識する。 心に残るお誕生日を企画する。 10 ティーについて 紅茶の歴史、食卓文化、マナーについて学ぶ。 ティータイムについてその成り立ち、現在のあり方を知る。、 11 ティーパーティー (実習) アフタヌーンティーパーティーを実習体験することで、講義で学んだことを理解すると共に、メニュー、マナーについても学ぶ。 12 洋食器について テーブルウェアとは何か。 具体的に器を見ながら、基礎知識を学ぶ。 洋食器の種類、活用法を知る。 13 カトラリー・箸・道具について 食事をする為に使用するカトラリーの基礎知識、日本人にとっての箸とは。 その他の道具についても学ぶ。 14 日本の行事について 暮らしの中で長く行われている行事、行事食について学び、日本人の食卓を考える。
------	--

	15 おもてなし料理 おもてなしについて、料理、食卓演出、決まりを学ぶ。 テーブル演出から、もてなしの心の演出方法を理解し、もてなし上手を目指す。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：企画を纏め、発表出来る。 ○D：小テストで知識が確認できる。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、課題に取り組む。実習演習に向けて調べ、企画書をまとめる（20分）。 事後学習：授業内容をまとめる。撮影した写真は説明を加え、レジュメに添付ファイルする（20分）。また、 関心を 持った事柄をインターネット、雑誌などで調べ知識の幅を広げる。（20分） 指示された課題、 レポートに取り組む（30分）。
指導方法	講義と実習 テキスト、レジュメ、パワーポイントを使用して講義。必要に応じて資料を配布する。 講義で理論を説明した上で、実習を行い知識と技術の定着を行う。グループワーク発表、各自の発表を積極的 に行う。発表作品を、直接評価すると共に修正により変化を確認し、違いを理解する。 レポート提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。 フィードバックの仕方：①レポートを確認 ②評価し返却 ③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の 授業への関心を深め知識の定着を促す。④授業後に質疑応答を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：課題に対して企画を考え、纏め、発表出来る。 ○D：講義からの学びを小テストで確認、纏め、レポート作成、企画書作成できる。 確認小テスト50%、纏めレポート10%、企画書20%、作品発表20%
テキスト	TALK食空間コーディネーターテキスト3級 NPO法人食空間コーディネート協会著 株式会社優しい食卓
参考書	
履修上の注意	資格取得については、欠席が多いと取得に影響が出るので欠席しないこと。 講義と実習を交互に行いますので、講義をよく理解して実習に臨んで下さい。 グループでの発表に際しては、グループの一員としての責任感と協調性もってを行うこと。 企画書の提出、レポート提出（3～4回）、まとめとしてチェックシートによる復習を行います。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング・パーティーコーディネート）

講義科目名称： エアポート スタディーズ

授業コード： 2411

英文科目名称： Airport Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E24C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 アジアを中心とした国々の成長に伴い、中長期的に成長する産業であるエアライン産業について、その特徴や最新の動向、幅広い関連事業について学ぶ。加えて、エアライン産業に影響を与える感染症や災害、政治や経済情勢などのイベントリスクに関する理解を深める。なお、エアライン産業に期待される、CO2排出量削減や地域活性化などの社会への貢献や価値創造への取り組みを検証する。 【授業目標】 エアライン産業の現状と課題について説明できる。エアライン産業のマネジメントの取り組み、期待されることについて見解を述べることができる。 【学習成果】 ◎A：インプットした知識をもとに課題解決学習にて積極的に意見を出し、グループに貢献することができる。 ◎C：授業で得た学びをもとに自身で考えを深め、今後のキャリア構築に役立てることができる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業の概要、進め方、課題や最終レポート、評価基準について 春期休暇中に課した事前課題の振り返り	
	2	HPにみる国内フルサービスキャリア 国内フルサービスキャリアを例に、ホームページを用いて企業研究を行い、特色の比較をディスカッションする	
	3	統合レポートにみる国内フルサービスキャリア 国内フルサービスキャリアを例に、統合レポートを用いて企業研究を行い、特色の比較をディスカッションする	
	4	リージョナルエアラインの企業理念 地方を結ぶ航空会社の企業理念や特色あるサービスを比較し、「企業の知名度を高めユーザーを増やす」施策をディスカッションする	
	5	【オンデマンド】創業者の理念や特色ある取り組み 課題図書内から書籍を選んでレポートにまとめる 創業者の理念や各社の取り組みについてクラス内で発表し、ディスカッションを行う	
	6	【オンデマンド】航空図書館見学と社史 航空図書館に足を運び、社史などを元に根幹にある企業理念を学ぶ 航空図書館の方から航空業界に関して講話をしていただき、講話後はディスカッションを行う	
	7	航空会社の経営計画と最新動向 航空会社の中期経営計画と、プレスリリースの最新動向から、10年後の航空業界にどのように貢献するか考える	
	8	航空会社のESG経営（環境） 航空会社が行う様々なESG経営を学ぶ 特にEnvironment（環境）を大切にしたい取り組みについて学ぶ	
	9	航空会社のESG経営（多様性） 航空会社が行う様々なESG経営を学ぶ 特にD&I（多様性）を大切にしたいお客さまへの取り組み、対社員の取り組みについて学ぶ	
	10	航空会社との課題解決型学習①（講話） PBL「機内備品のアップサイクル商品」を企画する 航空会社の方から企業価値推進に関する様々な取り組みについて講話を伺い、課題に関する説明を受ける	
	11	航空会社との課題解決型学習②（比較検討） 他社・他業種はどのような取り組みを行っているのか、比較検討する	
	12	航空会社との課題解決型学習③（アイデア出し） アンケート作成、中間発表に向けた資料作成を行う	
	13	航空会社との課題解決型学習④（中間発表） 企業の方に、中間発表を行う	

	14 【オンデマンド】航空会社との課題解決型学習⑤（最終発表準備） 中間発表で得た指摘をもとに、さらにアイデアを深める。 15 航空会社との課題解決型学習⑥（最終発表） 企業の方に、最終発表を行う 課題解決型学習を行ったグループメンバーと振り返りを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	エアライン業界の基本的なビジネスの仕組みを理解し、関心をもって最新動向の情報収集ができるようになる。 ◎A：グループでの課題達成に向けて、授業での学びに基づいた意見を述べることができる。 ○C：授業で学んだ学びを体系的に理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：航空会社の企業研究をおこなう（60分） 自分自身を見つめ、自分の強み、航空会社などへの志望動機をまとめる（60分） 事後学習：エアラインビジネスやマネジメントについて復習する（60分）
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、指導してもらう予定。 フィードバックの方法：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ◎A：グループで作成した成果物の内容や態度を評価する。 ○C：個人に課した成果物の内容を評価する。 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	特になし。授業資料（プリント等）を適宜配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	・航空業界への就職を志望する学生に向けた授業である。 ・1年次にエアラインホスピタリティA/B、エアラインビジネスを受講していることを前提とする。 ・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイングなどを用いて、講義内の課題やPBLを実施する。

講義科目名称： エアライン ホスピタリティA

授業コード： 2491

英文科目名称： Airline Hospitality (A)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C22	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 ・多種多様な業種が関わりあうエアラインビジネスの仕組みや、その業務内容を学ぶ。 ・具体的なサービス事例をもとにディスカッションを行い、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。 ・キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を学び、基礎的な自己分析を実施する。 【授業目標】 ・エアライン業界を代表する職種の特性や求められる素養、ホスピタリティマインド、仕事のやりがいを理解する。 【学習成果】 ☒ B：サービス事例に関するディスカッションにて、自身の考えを積極的に発表することができる。 ☒ D：キャビンアテンダント・グランドスタッフの業務について理解し説明することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う 毎週実施する企業研究課題について説明を行い、今後、自宅で行う課題の取り組み方を学ぶ 2 航空業界に従事する者に求められる素養 航空業界に従事する者に求められる素養についてディスカッションする 学生時代に自身が取り組むべき事柄を選択する 3 航空業界の業務経験に向けて 航空業界で行われる各種インターンを紹介し、学びたい事例を理解する 自己分析の手法を学び、実践する 4 【オンデマンド】ホスピタリティマインドの醸成 自身が大切にするホスピタリティマインドを探し、それを軸にした人との関わり方について振り返る 「人と関わる際に大切にしていること」について、文章にまとめ発表する 5 航空産業の黎明期 航空産業が欧米でどのように成立したかを理解する 6 【オンデマンド】日本における航空産業の発展 我が国において航空産業がどのように発展してきたか理解する 7 フルサービスキャリアとローコストキャリア ビジネスモデルの概要 大手航空会社（FSC）と格安航空会社（LCC）の収益構造・サービス内容を、具体的事例を用いて比較する PBL「FSCユーザーをLCCユーザーにするためのPR方法は？」についてグループワークを行い、プレゼンテーションする 8 【オンデマンド】アライアンス 航空業界のアライアンスについて学び、理解を深める アライアンスを使って、世界一周をするフライトプラン作りにチャレンジする 9 これからのエアラインビジネス 航空業界の社会貢献や今後の航空産業について学ぶ 10 サービス要員としてのキャビンアテンダント業務 サービス事例から、サービス要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する（グループワーク） 11 保安要員としてのキャビンアテンダント業務 保安事例から、保安要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する（グループワーク） 12 定時性、安全運航に貢献するグランドスタッフ業務 具体的な業務の流れから、定時性や安全運航に貢献するグランドスタッフ業務を理解する（グループワーク） 13 サービス要員としてのグランドスタッフ業務 サービス事例から、サービス要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する 14 グランドスタッフ職のグランドハンドリング業務とオペレーション業務 グランドハンドリング業務・オペレーション業務の内容を学び、求められる素養についてディスカッションを行う（ディスカッション）
------	---

	15 エアラインホスピタリティ エアライン業界でのサービス実例をもとに、どのようなホスピタリティを実施したいか各自プレゼンテーションを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	エアライン業界を代表する職種の特性や求められる素養を理解する。 ○B：サービス事例をもとに、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解することができる。 ◎D：エアライン業界内の複数の業種を学び、その特性を理解することができる。
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しとエアライン業界用語・キーワードの確認（80分）
指導方法	パワーポイント・資料配布（クラスルーム）を使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、アウトプットを促す。 毎週の小レポートから学生間で共有すべき内容を講師が選び、当該学生に発表をさせ、ディスカッションを行う。 エアライン業界従事者を招いて具体的な業務内容を聞き、エアラインホスピタリティに関する質疑応答の機会を持ち、教科書や講義で学んだ内容の理解を一層深める。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。 レポートなどの提出物は、Google Classroomを通じ個別コメントでフィードバックをし、授業内での全体講評を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○B：授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎D：知識確認テストや課題を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門 第2版』稲本恵子編著 2021年 ISBN 4771034710
参考書	適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。 JAL ANA のアニュアルレポート（無料）を各自取り寄せてください。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションを用いて、各課題やPBLを実施する。

講義科目名称： エアライン ホスピタリティB

授業コード： 2501

英文科目名称： Airline Hospitality (B)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E24C23	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足度を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダント・グランドスタッフの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。 キャビンアテンダント・グランドスタッフの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 【授業目標】 航空業界に求められるコミュニケーション能力・接客スキル・知識を習得すること 【学習成果】 ☐ B：マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる ☒ D：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス・事前課題に関する発表 授業の内容説明を行う 事前に提示した課題について、各自スピーチを行う 2 尊敬語・謙譲語・言葉掛けの工夫 接遇にふさわしい言葉を学ぶ 学んだ言葉をもとに、各種ワーク、ロールプレイングを実施する 3 グランドスタッフの接遇 定時性・安全性と接遇を両立させるグランドスタッフの接遇について学ぶ ロールプレイングを実施し、学びを深める 4 キャビンアテンダントの接遇 保安要員としての役割を持つキャビンアテンダントの接遇について学ぶ ロールプレイングを実施し、学びを深める 5 アナウンスと接遇 接遇に適した発声・声のトーンを学ぶ 各種ワーク、ロールプレイングを実施する 6 キャビンアテンダントの安全業務 キャビンアテンダントが実施する保安の取り組みについて学ぶ セーフティデモを体験し、保安要員としての業務について学びを深める 7 身近な手話 身近な生活で実践できる手話について学ぶ（グループワーク） 8 身近な接客手話 身近な生活で実践できる手話についてプレゼンテーションを行い、クラス全体で知識の共有を行う 9 ユニバーサルサービス 障がいを取り巻く社会の現状を、ゲスト講話から学ぶ ゲスト講師と共に、空港・機内にてどのような対応ができるかディスカッションを行う PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 10 キャビンアテンダント講話 現役のキャビンアテンダントをゲストとして招聘し、サービスや安全に関するこだわり・最新の取り組みを学ぶ PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 11 グランドスタッフ講話 現役のグランドスタッフをゲストとして招聘し、サービスや安全に関するこだわり・最新の取り組みを学ぶ PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 12 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う
------	--

	13 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う 14 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う 15 PBL成果発表 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」リサーチ・体験してきたことをもとにプレゼンテーションを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	航空業界で実践されるコミュニケーション能力・接客スキルを学び、その必要性を理解する ○B：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わるができる ◎D：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや航空会社の接遇・顧客とのコミュニケーションスキルについて理解できる航空業界に求められるコミュニケーション能力や積極スキル・知識の土台を培う
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集・課題レポート（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと課題レポート 毎回の演習内容のリプレイ（80分）
指導方法	配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。 ゲストスピーカーを招き、キャビンアテンダントやグランドスタッフに必要な素養をディスカッションする 授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。 事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。 毎回Google Classroomでの小レポートを記入、提出。個別フィードバックを加え返却。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：成果物作成やグループワークでのチームへの関わり方を評価する ◎D：最終レポートと授業内での質疑応答の内容を評価する レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 授業への貢献度20% 小レポート・課題提出物40% 最終レポート40% レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	特になし。 適宜必要な資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しない JAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	航空業界への就職を検討する学生に対する授業である。Airline Hospitality (A)を前期に受講すること。 演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。 サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。 ボランティア実践を授業に含む。ボランティア先は講師推薦の他、各自選んで決める場合もある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイングを用いて各回の課題やPBLを実施する

講義科目名称： エアライン ビジネス

授業コード： 2511

英文科目名称： Airline Business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C24	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 ・空港業務、航空制度、約款、アライアンス、運賃、ダイヤ等、エアラインビジネス特有の知識を習得する。 ・個別発表、グループディスカッション、レポートの書き方を通して、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、プレゼン能力、共感力、傾聴力、課題展開力を高める。 ・エアライン業界の就職に備えた筆記試験対策も行う。 【授業目標】 ・企業理念、経営戦略、マーケティング戦略などの経営学基礎を習得するとともに、エアラインビジネスにおける経営の特徴を理解する。 【学習成果】 ☒ A：参加型の授業やケースを通して、能動的に考え、意見交換を通して、高いコミュニケーション能力が発揮できる。 ☒ C：エアラインビジネスを実態的に理解し、実例を用いて企業の特徴を説明することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 授業概要説明 SPI① 2 世界に広がるネットワーク 航空ネットワーク構築の重要性、ハブ&スポークの考え方と効果、乗り継ぎ需要について学ぶ SPI①の解説 3 アライアンスビジネス グローバルアライアンス結成の背景と歴史、アライアンスの意義と効果について学ぶ SPI② 4 【オンデマンド】 マイレージ 戦略 顧客向けマイレージプログラム<FFP>の概要、ロイヤリティマーケティング について学ぶ SPI②の解説 5 CSとホスピタリティ CS<顧客満足>・CX<顧客体験価値>、ホスピタリティの考え方 について学ぶ SPI③ 6 【オンデマンド】 CSとES(従業員満足) CS<顧客満足>・ES<従業員満足>、「人財」育成システムについて学ぶ SPI③の解説 7 ブランド戦略 航空会社の価値創造、ブランド戦略について学ぶ SPI④ 8 【オンデマンド】 ノンエア事業 航空会社を取り組む非航空事業について学ぶ SPI④の解説 9 航空会社との課題解決型学習①（講話） PBL「20代・30代の女性が購入したくなるような国内線機内販売品の提案」に取り組む 航空会社の方から販売要員としてのキャビンアテンダントの役割や販売商品企画に関する様々な取り組みについて講話を伺い、課題に関する説明を受ける 10 航空会社との課題解決型学習②（比較検討） 他社・他業種はどのような取り組みを行っているのか、比較検討する 11 航空会社との課題解決型学習③（アイデア出し） アンケート作成、中間発表に向けた資料作成を行う 12 航空会社との課題解決型学習④（中間発表） 企業の方に、中間発表を行う 13 航空会社との課題解決型学習⑤（最終発表準備） 中間発表で得た指摘をもとに、さらにアイデアを深める 試作品を作成する 14 航空会社との課題解決型学習⑥（最終発表） 企業の方に、最終発表を行う
------	---

	15 課題解決型学習を行ったグループメンバーと振り返りを行う エアラインビジネス・今後の展望 エアラインビジネスの今後の展望についてディスカッションを行い、学びを深める
到達目標・基準 C評価になる基準	エアラインビジネスにおける経営の特徴を理解する。 ○A：意見交換を通して他者の考えを傾聴し、自分の考えを深めてアウトプットすることができる。 ◎C：エアラインビジネスの仕組みや使用される用語を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・SPIの準備をすること（15分） ・航空会社のホームページで指定した箇所を読んでくること（15分） ・航空会社に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（20分） ・課題レポートやプレゼンの準備（80分） 事後学習 ・授業時に出された指示、レポートへのコメントや解説を聞いて改善し、完成度を上げること（30分） ・SPIの見直し（20分）
指導方法	・基本的な理論や知識を習得した後、参加型のディスカッションや相互チェックコメントを通して、複眼的なものを見方を養い、表現できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポートは全員にコメントを付けて返却する。授業で課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、学生の中から模範解答を披露する。小テストは回答が自動で返却され、授業で解説する ・ゲスト講師を招き、現業の実際を肌で感じられるようにする
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○A：授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎C：知識確認テストや課題を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	講談社『これが本当のSPI3テストセンターだ!』SPIノートの会 （最新年度版が後期授業開始前に出版されるため、出版年やISBNは追って周知する）
参考書	適宜、授業内で紹介する
履修上の注意	・エアライン関係への就職を念頭に置いていること ・参加型の授業で、課題を克服する努力とその過程を評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いて、各課題やPBLを実施する

講義科目名称： ビジネスマナー論

授業コード： 2681

英文科目名称： The Study of Business Manners

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E26C52	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】ビジネスシーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる身だしなみ、言葉遣いや話し方、立ち居振る舞いなどを習得する。 【授業目標】 業界によって異なるマナーと、業界が違っても共通するマナーを理解する 【学習成果】 ◎B：社会人として周囲と良好な関係を築く力を養う ○C：課題を設定し、解決のために積極的に行動することができる
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス・社会人として求められる身だしなみ 授業の進め方や授業内課題、最終課題、評価方法について説明を行う 社会人として求められる身だしなみについて、講義後にグループワークを実施する 2 出会いの場でのビジネスマナー 感じがよくスマートな挨拶、紹介の仕方について学び、体得する 3 【オンデマンド】文書作成とビジネスマナー 就職活動を通して頻繁に使う文言やメール文について学習する 4 電話対応のビジネスマナー 電話対応業務に就くゲストを招き、ビジネスで必要な電話対応マナーについて学ぶ 講演後は学んだことに基づき、グループでディスカッションを行う 5 名刺交換のビジネスマナー 1対1の名刺交換、大人数での名刺交換について学び、体得する 6 ビジネスマナーと話の「聴き方」 話を「聴く」仕事に就くゲストを招き、ビジネスで必要な話の聴き方を学ぶ 講演後は学んだことに基づき、グループでディスカッションを行う 7 今後求められるマナー①（PBL） グループワークにてPBL「今後も必要とされるマナー・時代遅れだと感じるマナー」について議論する 「時代遅れだと感じるマナー」は、どのような経緯で現在のマナーになったか調査を行う 8 【オンデマンド】ビジネスマナーに関する書籍に触れる ビジネスマナーに関する書籍から、知識を広げる オンライン上で発表し、クラスメイトの意見に対してコメントを記入する 9 今後求められるマナー②（PBL） PBL「今後も必要とされるマナー・時代遅れだと感じるマナー」について、その実態を示す資料をもとに議論を深める 必要に応じ、アンケート調査を企画・実施し、分析を行う 10 海外で仕事をする際のビジネスマナー 海外で外国籍のスタッフと仕事をする際のビジネスマナーについて学びを深める 11 相手・業種に合わせた言葉の選び方 看護の場と接遇の場の対比を例に、客層に合わせた対応の仕方や言葉の選び方の違いなどのビジネスマナーについて、ディスカッションを行う ゲスト講話により、学びを深める 12 観光地で人をもてなす際のビジネスマナー 観光施設で老若男女、世界中の旅行客をもてなす際のビジネスマナーについて学びを深める 13 【オンデマンド】失敗から学ぶビジネスマナー 説明をもとに、課題を作成する 14 今後求められるマナー③（PBL） 「時代遅れだと感じるマナー」について、諸外国ではどのような対応がとられているか調査する 世界のビジネスマナーに目を向け学びを深める 15 今後求められるマナー④（PBL） 今後求められるマナー、時代遅れだと感じるマナーについてグループでまとめた意見を発表し、
------	---

	意見交換を行う
到達目標・基準 C評価になる基準	自分が志望する業界に必要なマナーを理解する ◎B：社会人としての最低限のマナーを理解することができる ○C：自分に身近な課題を、アドバイスをもとに解決することができる
事前・事後学習	【事前学習】：前回の授業で出された課題について、自己学習を行う60分 【事後学習】：次回までに与えられた課題を行う60分 授業内で完成できなかった課題や課題の復習を行う60分
指導方法	講義には積極的にグループワークを取り入れ、アウトプットの機会を多く設ける。担当講師の指導のほか、各企業で活躍するゲスト講師の講話を聴き、知見を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ◎B：知識確認テストや課題を評価する ○C：授業での取り組み姿勢と発言を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	特になし
参考書	授業内で随時紹介する。
履修上の注意	授業を受ける姿勢などもマナーの大切な一部である。グループワークでの配慮や態度、授業を通しての姿勢などにも意識して授業に臨むこと。ゲスト講師招聘の都合により授業内容が入れ替わることがあるため、講師からの告知をしっかりと把握すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループディスカッションやプレゼンテーションなどを用いて、各課題やPBLを実施する。

講義科目名称： キャリアゼミ（エアライン）

授業コード： 2311

英文科目名称： CAREER SEMINAR（AIRLINE）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E18B63	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 エアライン業界に関する専門知識を身につけ、企業研究、職種研究を通して理解を深める。ホスピタリティ産業で提供されるサービス、接客マナーを客観的に評価することで判断力を身につける。グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力を養う。ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 【授業目標】 企業研究を行い志望企業の魅力を理解し伝えられるようになること。また、自己分析を行い自身の魅力を理解し伝えられるようになること。 【学習成果】 ◎B：自己分析を通して自らの強みを認識し、自己や他者への肯定感を保ちながらディスカッションすることができる。 ○D：エアライン業界内の業種や企業に関する知識を、自身に関連付けて整理することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション・自己紹介 授業概略説明、自己PRを踏まえた自己紹介（1人1分） 2 エアラインに求められる身だしなみについて① エアラインに求められるメイクアップ方法を知る 3 エアラインに求められる身だしなみについて② エアラインに求められるメイクアップ方法及び、ヘアスタイルを習得する 4 面接基礎 美しい立居振舞を習得する（お辞儀、歩き方、座り方、入室方法） 5 【オンデマンド】 採用で求められるもの エアラインの採用面接で問われる質問、採用フローを理解する 6 面接実践 面接で問われる頻出質問をもとに、面接練習の実践を行う 7 キャビンアテンダント講話 キャビンアテンダントの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 8 ハンドリング業務につくグランドスタッフ講話 グランドスタッフの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 9 旅客業務につくグランドスタッフ講話 グランドスタッフの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 10 海外のエアライン研究（グループワーク） グループごとに海外のエアラインの企業研究をおこない、就航地、文化を反映したユニフォーム、提供されるサービスなど具体的に理解する 11 エアライン分析結果発表（PBL：プレゼンテーション） 「日本らしさを発信するおもてなしとは（PBL）」キャビンアテンダント、グランドスタッフとして実践できる日本らしさを発信するおもてなしについてグループで討議し、発表する 12 グループディスカッション基礎 エアライン業界の採用で実施されるグループディスカッションについて対策を行う 13 グループディスカッション応用 エアライン業界の採用で実施されるグループディスカッションについて対策を行う 14 【オンデマンド】 エントリーシート対策：キャビンアテンダント キャビンアテンダントのエントリーシートで頻出の質問や書き方のポイントについて理解を深める。自身のアイデアを書き出し、エントリーシートを作成する 15 【オンデマンド】 エントリーシート対策：グランドスタッフ グランドスタッフのエントリーシートで頻出の質問や書き方のポイントについて理解を深める。自身のアイデアを書き出し、エントリーシートを作成する
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	企業研究ができ、感心のあるニュースについて言及できるようになること。自身の自己分析を進めていること。 ◎B：エアライン業界の就職活動に必要な自己分析をエントリーシートや面接に反映できる。 ○D：エアライン業界の就職活動に必要な知識をエントリーシートや面接に反映できる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約50分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	エアライン業界、企業研究、職種研究の方法について指導し、エアライン業界全体を理解できるよう指導する。 また、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応、③定期的に面談をおこなう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎B：自己分析のレポート、課題で評価する。 ○D：職種理解のレポート、課題で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性） 40% 最終レポート 30% 小レポート 30%
テキスト	無し。必要な教材は適宜Google Classroomに掲載する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著を参考に自学習することが望ましい。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション、PBL

講義科目名称： エアラインゼミ

授業コード： 2751

英文科目名称： AIRLINE SEMINAR

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E28C64	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】エアライン業界内における企業の動向や指針を様々な角度から比較・分析を重ねる。志望する企業のサービスビジョン、安全への取り組み、社会貢献活動、販促方法を理解し、自身の考えをもとにディスカッション・プレゼンテーションを行う。 【授業目標】航空業界の社会貢献、非エアライン事業への理解も深め、幅広いキャリアビジョンを描くことができる。 【学習成果】 ☐B：キャリアビジョンについて理解を深め、自己分析をもとに自身の5年後・10年後の姿をイメージできる。 ☒D：エアライン業界に関する知識や理解をさらに深め、企業ごとの強みについてプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	1	オリエンテーション・志望理由発表 志望エアラインの企業理念と志望理由を結びつけて発表する(プレゼンテーション)	
	2	FSCが注力するサービス ビジネスユーザーの顧客が多いフルサービスキャリアのサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う	
	3	LCCが注力するサービス 家族連れ・若年層の顧客が多いLCCのサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う	
	4	リージョナルエアラインが注力するサービス 地元の翼として活躍するリージョナルエアラインのサービスビジョンと提供サービスについて講義を受け、調査を行う	
	5	中・長距離国際線LCC、外資航空会社が注力するサービス 中・長距離LCCや日本への乗り入れが多い外資航空会社のサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う	
	6	成田のグランドスタッフ業務 成田空港のグランドスタッフに求められる役割を理解し、羽田空港で働く魅力と成田空港で働く魅力についてディスカッションを行う	
	7	【オンデマンド】空港・航空会社コードと時差計算 航空業界で勤務する際に必須となる航空関連用語や時差計算を理解する	
	8	羽田空港のグランドスタッフ業務 羽田空港で勤務するグランドスタッフに求められる職務の魅力について、与えられた資料などをもとに調査する	
	9	地方空港の特色安全への取り組み 地方空港ごとの客層や旅客のニーズ、注力するサービスについて学び、理解を深める	
	10	グランドハンドリング業務 航空機の誘導、機材の点検などに携わるグランドハンドリング業務について学ぶ ゲスト講話にて理解を深める	
	11	接遇スキルコンテスト① 各社の接遇スキルコンテストについて学ぶ 履修学生が行う「接遇スキルコンテスト」について概要を説明し、各自準備を行う	
	12	接遇スキルコンテスト② チェックシートを用いて、接遇のロールプレイング練習を行う	
	13	接遇スキルコンテスト③ 見て感じよく、受けて心地よい接遇を目指してコンテストを実施する	
	14	【オンデマンド】航空会社の格付けとロコミ① 複数ある航空会社の格付けと受賞理由、ロコミをもとに、昨今の航空会社が何を求められているか調査する	
	15	【オンデマンド】航空会社の格付けとロコミ② 格付けの受賞や世界中の旅客のロコミをもとに、自身が選んだ2社について各種比較を行い、今後求められるサービスを提案する	

到達目標・基準 C評価になる基準	航空業界の社会貢献、非エアライン事業への理解も深め、企業研究が進んでいること。 ○B：第一希望の職種について、接客に携わる業務でのキャリアビジョン、チャレンジしたい社会貢献活動、提案したいサービスや取り組みを述べることができる。 ◎D：第一志望の企業のサービスビジョン、安全への取り組み、社会貢献活動について理解し、自身の意見を述べることができる。
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について企業理解をふかめられるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応、③定期的に面談をおこなう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：プレゼンテーション、模擬面接練習、提出物を評価する。 ◎D：プレゼンテーション、模擬面接練習、提出物を評価する。 授業への貢献度：40% 課題・最終レポート：60%
テキスト	特になし。適宜レジュメ、授業参考資料を配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： ラグジュアリーホテル・ブライダルスタディーズ 授業コード： 2471

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：E25C33	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 数多くのホテルの中でも、ラグジュアリーホテルと呼ばれるホテルの位置づけと特徴を知り、さらに、どんなお客様が何の目的で利用しているのかを多方面から学ぶ。 また、ラグジュアリーホテルならではの結婚式のカップル像を細かく分析し、その対応に必要な幅広い知識と教養の重要性を学ぶ。 (授業目標) どんなお客様の前でも、スマートで最上級のおもてなしができるマインドと自信を身に付ける。 (学習成果) ○C：ラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応、提案に必要な情報を取得し、顧客にあった提案ができる。 ◎D：ラグジュアリーホテルの結婚式顧客像の知識を身につけ、主体性をもってチームを巻き込みプレゼンができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション・ホテルの分類 授業の進め方、学習方法など。またホテル業界の全体像を捉え、ラグジュアリーホテルの概要を把握する。	2 ラグジュアリーホテルの魅力とは 宿泊、レストラン、スパ、宴会など、結婚式以外のホテルとの接点を知る。また、どんなサービスがあるのかを調べてみる。	3 ウエディングプランナーの業務を知る 3大業務（新規接客業務・打ち合わせ接客業務・当日の運営業務）の内容を理解する。	4 ラグジュアリーホテルで結婚式を挙げるお客様（カップル）の特徴 新郎/男性編（職種、会社、持ち物など、価値観を知る） 新婦/女性編（ファッション、ブランド、ジュエリーなど、価値観を知る）	5 ラグジュアリーホテルのウエディングプランナーに求められる知識・教養 結婚式の知識だけではなく、幅広い知識や教養を身に付ける重要性を発見する。	6 「自分を知る」ための自己分析① お客様にとってのウエディングプランナーとはを考え、お客様にファンになってもらうための基本的な要素を身に付ける。	7 「自分を知る」ための自己分析② 第一印象の重要性と魅せる力の磨き方。プロフェッショナルのマナーを身に付ける。	8 「相手を理解する」ための共感力 傾聴力、質問力、リアクションで共感力を身に付ける。	9 組織（チーム）で働くということ 男性脳女性脳を理解して、カップルへの接客、他セクションを巻き込む力をつける。	10 就職活動対策 企業はどのような人材を採用したいのか。企業側の採用戦略を知って最終面接までの流れとポイントを把握する。	11 ブライダルマーケティング①集客するための方法を考える 雑誌・ホームページ・SNS・ロコミ・エージェントなどから調べ、独自の集客方法を考える（グループワーク）	12 ブライダルマーケティング②成約するための方法を考える 来館したカップルを成約に導くためのイベント企画・コンテンツ内容・接客方法・ホスピタリティを考える（グループワーク）	13 ホテルブライダルのマーケティング&チームビルディング発表会 ホテルならではの強みを活かした企画力とチーム力で、結婚式を販売するプレゼンテーションを行う。	14 総まとめと総合確認テスト ラグジュアリーホテルに求められる必要な知識を整理。総合確認テストの実施。
------	---	--	---	---	--	---	--	---	--	---	---	---	---	--

	15 テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 テスト内容の解説と自己分析で得た「自分の強み」を就職活動や仕事でどう活かすか。共感力やプロフェッショナルなマナーを日常業務にどう応用するか等の解説。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：ラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応、提案に必要な情報を取得できる。 ◎D：ラグジュアリーホテルの結婚式顧客像の知識を理解し、プレゼンテーションで相手に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：自身が直接対面サービスを受け、感じたことをまとめておく（90分） 事後学習：ホスピタリティ業界の取り組みをWEBページから収集する（30分） 授業内容を復習し、テーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする（60分）
指導方法	パワーポイントを使用し、適宜関係する資料を作成して授業を行う。また動画も使用して、結婚式を利用したお客様の声や働くスタッフの様子を見て、リアルな現場をイメージしながら感じたことをディスカッションし、聴く力と伝える力を授業内で身に付けてもらう。また、グループワークやプレゼンテーションでホスピタリティマインドを発揮してもらう。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：授業で知り得たラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応について、毎回のレポートで評価する。 ◎D：結婚式顧客像の知識を理解し、ブライダルマーケティングとチームビルディングをプレゼンテーションで評価する。 授業への貢献度(20%)、レポート内容（20%）、プレゼンテーション(30%)、講義中の習熟度テスト(30%)の総合評価
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21
参考書	授業内で適宜案内する。
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. 自分がラグジュアリーホテルでどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12A04	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 基礎英語の修得に焦点を当てた授業です。様々なシチュエーションで使える英語を基礎文法にそって理解し、語彙・熟語を増やし、実践英語を意識した授業です。また、身近な日常生活における基礎的な英語表現をライティングとリーディングを通して学びます。基礎文法を重視した授業です。 （授業目標） グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 （学習成果） ◎C：50 words 程度の文章を書くことができる。語彙力を養い、基礎文法をしっかりと理解することができる。 ○D：文法を理解し、正しい英語を書き、文章を正しく読めることができる。		
授業計画	1 be動詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 2 be動詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 3 一般動詞の現在形 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 4 一般動詞の現在形 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 5 代名詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 6 代名詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 7 進行形 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 8 進行形 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 9 時・場所を表す前置詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 10 時・場所を表す前置詞 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 11 加算名詞・府可算名詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 12 加算名詞・府可算名詞 reading (PBL型授業)、キクタン単語テスト 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 キクタン単語テスト 13 一般動詞の過去形 writing (PBL型授業)		

	14 15	文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 一般動詞の過去形 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 疑問詞 writing・筆記試験 文法を理解し、例文作成、筆記試験
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業外でも毎日音読・単語を繰り返し演習することができる。 ◎D：基礎文法を理解し、学習した語彙・表現・熟語を生かしreading & writingができる。	
事前・事後学習	事前学習：翌週の授業範囲の単語等の意味調べ・例文音読 (45分) 事後学習：単語の復習・例文音読・フレーズの書写 (45分)	
指導方法	WRITING：各回の文法を理解した上で、例文を各人作成して発表。 READING：各回の文法を取り入れた例文を各人和訳して発表。 毎回発音を意識してクラスで音読。一方的な講義ではなく、参加型。ペアワークを積極的に取り入れる。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。 ◎D：課題、試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 30% 筆記試験 40%	
テキスト	English Missions! Starter, Robert HICKLING, Misato USUKURA (金星堂、2024) ISBN978-4-7647-4070-9 C1082	
参考書	授業時に紹介	
履修上の注意	授業には必ず辞書を持ってくること。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型	

講義科目名称： Freshman English (R/W) : B (V)

授業コード： 2055

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12A05	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	授業内容) 基礎英語の修得に焦点を当てた授業です。様々なシチュエーションで使える英語を基礎文法にそって理解し、語彙・熟語を増やし、実践英語を意識した授業です。また、身近な日常生活における基礎的な英語表現をライティングとリーディングを通して学びます。基礎文法を重視した授業です。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：100 words 程度の文章を書くことができる。語彙力を養い、基礎文法をしっかり理解することができる。 ○D：文法を理解し、正しい英語を書き、文章を正しく読めることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 疑問詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 2 接続詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 3 接続詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 4 動名詞・不定詞 writing (オンデマンド授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 5 動名詞・不定詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 6 未来形 writing (PBL型授業) 文法を理解単語テストし、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 7 未来形 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 8 現在完了形 writing (オンデマンド授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 9 現在完了形 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 10 比較級・最上級 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 11 比較級・最上級 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク
------	--

	12	助動詞 writing（オンデマンド授業） 文法を理解し、例文作成、音読・書写
	13	助動詞 reading（PBL型授業） 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク
	14	受動態 writing（PBL型授業） 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク
	15	受動態 reading、筆記試験 文法を理解し、例文作成、筆記試験
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業外でも毎日音読・単語を繰り返し演習することができる。 ○D：基礎文法を理解し、学習した語彙・表現・熟語を生かしreading & writingができる。	
事前・事後学習	事前学習：翌週の授業範囲の単語等の意味調べ・例文音読（45分） 事後学習：単語の復習・例文音読・フレーズの書写（45分）	
指導方法	WRITING：各回の文法を理解した上で、例文を各人作成して発表。 READING：各回の文法を取り入れた例文を各人和訳して発表。 毎回発音を意識してクラスで音読。一方的な講義ではなく、参加型。ペアワークを積極的に取り入れる。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。 ◎D：課題、試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 30% 筆記試験 40%	
テキスト	English Missions! Starter, Robert HICKLING, Misato USUKURA（金星堂、2024）ISBN978-4-7647-4070-9 C1082	
参考書	授業時に紹介	
履修上の注意	授業には必ず辞書を持ってくること。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型	

講義科目名称： Practical English A (U)

授業コード： 2241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
竹原文代			
ナンバリング：E12C10	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容：全クラス共有） TOEICテストの各パートの特徴の理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、毎回単語テストを行います。TOEICテストのリスニングとリーディングの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を学びます。 （授業内容：Uクラス向け） 効果的な勉強の仕方を授業内で共に実践し、それぞれが必要とするスコアを取れるよう指導します。 （授業目標：Uクラス向け） グローバル社会で必要とされる英語力の向上を目指すとともに、資格試験準備の効率的かつ効果的な学習戦略・受験戦略を考察する。 （学習成果：全クラス共通） ○C：TOEICテストの正解・不正解の根拠を正しく述べることができ、語彙の学習を継続して計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全パートを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
---	--

授業計画	Week #01 オリエンテーション（ペアワーク・グループワーク） 授業の進め方、教材の使い方（前期はTEST1を使用）、課題の内容、単語の学習の仕方、TOEICテストの特徴についての説明、及びクラスルールの確認。 Week #02 Part 1, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 1 頻出パターンの学習 Part 5 品詞問題 Week #03 Part 2, Part 5, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 2 ストレートな問題の解法 Part 5 品詞問題 Part 7 オンデマンド授業に向けて説明（Q147-Q148を使用）、意図問題とは Week #04 小テスト キクタン Day 1-4 オンデマンド授業1回目 Part 7 Q149 - 157 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の4項目を実践。次の授業に備える Week #05 Part 2, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 2 変化球問題への対処 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 Week #06 小テスト キクタン Day 5-8 Part 3, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q32 - Q37 意図問題とは Part 5 動詞問題 Week #07 小テスト キクタン Day 9-12 Part 3, Part 5, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q38 - Q43 Part 5 その他の文法問題と語彙問題 Part 7 位置選択問題とは、同義語問題とは Week #08 小テスト キクタン Day 13-16 オンデマンド授業2回目 Part 7 Q158 - 171 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の4項目を実践。次の授業に備える Week #09 Part 3, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q44 - Q49 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 Week #10 小テスト キクタン Day 17-20 Part 3, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q50 - Q55 Part 5 演習問題 Week #11 小テスト キクタン Day 21-24 Part 3, Part 7（ペアワーク・グループワーク）
------	---

	Part 3 Q56 - Q61 Part 7 Q172 - Q175、MPの特徴と解き方 小テスト キクタン Day 25-28 Week #12 オンデマンド授業 3 回目 Part 7 Q176 - Q185 を解く Week #13 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の 4 項目を实践。次の授業に備える Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 Q62 - Q64、グラフィック問題の解き方 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 29-32 Week #14 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 Q65 - Q70 Part 7 Q186 - Q190 小テスト キクタン Day 33-36 Week #15 理解度テスト・調整回 理解度テストの実施 Part 7 Q191 - Q200, NOT問題とは						
到達目標・基準 C評価になる基準	○C : TOEICテストの全パートの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ◎E : TOEICテストの全パートの70%を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。						
事前・事後学習	事前学習：指定された範囲の単語を学習する。(45分) 事後学習：文法確認、語彙確認、音読などを中心に復習をする。(45分)						
指導方法	授業内で単語小テストを行い、継続的・計画的な語彙学習の一助とする。前期は Part 1, 2, 3, 5, 7 に焦点を当て、リスニングとリーディングをバランスよく指導する。進捗状況により取り扱いパートが前後する場合もある。 フィードバック方法：①授業内での質疑応答 ②単語テストの実施 ③必要に応じて個別対応						
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C : グループワーク、ペアワークを通し授業への貢献度を数値化し評価する ◎E : 各種テストで評価する <table border="0"> <tr> <td>授業への貢献度</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>単語テスト</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>確認テスト</td><td>40%</td></tr> </table>	授業への貢献度	30%	単語テスト	30%	確認テスト	40%
授業への貢献度	30%						
単語テスト	30%						
確認テスト	40%						
テキスト	国際ビジネスコミュニケーション協会『公式TOEIC Listening & Reading 問題集10』(IIBC, 2023) ISBN 978-4906033713 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク, 2016) ISBN 978-4757428584 プリント教材						
参考書	必要に応じて授業内で指示する。						
履修上の注意	① 人前で間違えることを嫌がらないでください。間違いから学んだ方が定着率が高いからです。更にこのクラスは習熟度別ですので、誰かが間違えたことはクラスメートの他の学生も間違えていたり曖昧だったりするはずです。皆さんの間違いは自分だけではなく他の人の学習にも必ず役に立ちます。 ② 一生懸命取り組んでもなかなかすぐには点数に繋がらない事もあります。でも必ずその努力は報われますので、スコアの上下に一喜一憂せずにコツコツと地道な努力を積み重ねる意識を持って参加してください。 ③ 授業でスマホを使用する場面もありますが、指示がない限り音が鳴らないようにしてカバンの中にしまってください。						
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習						

講義科目名称： Practical English B (U)

授業コード： 2111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
竹原文代			
ナンバリング：E12C11	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容：全クラス共通） TOEICテストの各パートの特徴の理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、毎回単語テストを行います。TOEICテストのリスニングとリーディングの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を学びます。 （授業内容：Uクラス向け） 効果的な勉強の仕方を授業内で共に実践し、それぞれが必要とするスコアを取れるよう指導します。 （授業目標：Uクラス向け） グローバル社会で必要とされる英語力の向上を目指すとともに、資格試験準備の効率的かつ効果的な学習戦略・受験戦略を考察する。 （学習成果：全クラス共通） ○C：TOEICテストの正解・不正解の根拠を正しく述べることができ、語彙の学習を継続して計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全パートを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
---	--

授業計画	Week #01 オリエンテーション（ペアワーク・グループワーク） 授業の進め方、教材の使い方（後期はTEST2を使用）、課題の内容、単語の学習の仕方、TOEICテストの特徴についての説明とクラスルールの確認。 Week #02 Part 1, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 1 ディクテーション Part 5 品詞問題 Week #03 Part 2, Part 5, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 2 ストレートな問題の解法 Part 5 品詞問題 Part 6 オンデマンド授業に向けて説明（Q131-134を使用） 小テスト キクタン Day 37-40 Week #04 オンデマンド授業1回目 Part 6 Q135-142 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読を十分に行い、次の授業に備える。 Week #05 Part 2, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 2 変化球問題への対処 Part 6 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 41-44 Week #06 Part 4, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q71 - Q76 Part 5 動詞問題 小テスト キクタン Day 45-48 Week #07 Part 4, Part 5, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q77 - Q82 Part 5 その他の文法問題と語彙問題 Part 6 Q143 - Q146 Week #08 オンデマンド授業2回目 Part 7 Q147 - Q153 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読を十分に行い、次の授業に備える。 Week #09 Part 4, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q83 - Q88 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 53-56 Week #10 Part 4, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q89 - Q94 Part 5 演習問題 小テスト キクタン総復習 Day 1-22（Chapter 1, 2） Week #11 Part 4, Part 7（ペアワーク・グループワーク）
------	--

	Part 4 Q95 - Q100 Part 7 Q154 - Q157 小テスト キクタン総復習 Day 23-39 (Chapter 3, 4) TOEIC L&R IPテスト受験 (オンデマンド授業3回目に相当するものとする) TOEIC L&R IPテストを受験する Week #13 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 TEST2より抜粋 Part 7 Q158-164 小テスト キクタン総復習 Day 40-56 (Chapter 5, 6, 7) Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 TEST2より抜粋 Part 7 Q165-175 Week #14 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 TEST2より抜粋 Part 7 Q165-175 Week #15 理解度テスト・調整回 理解度テストの実施 Part 7 MPより抜粋						
到達目標・基準 C評価になる基準	○C : TOEICテストの全パートの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ◎E : TOEICテストの全パートの70%を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。						
事前・事後学習	事前学習：指定された範囲の単語を学習する。(45分) 事後学習：文法確認、語彙確認、音読などを中心に復習をする。(45分)						
指導方法	授業内で単語小テストを行い、継続的・計画的な語彙学習の一助とする。後期は前期にカバーしなかった Part 4, 6 に重きを置きつつ全パートの重要問題を抜粋し、リスニングとリーディングをバランスよく指導する。進捗状況により取り扱いパートが前後する場合もある。 フィードバック方法：①授業内での質疑応答 ②単語テストの実施 ③必要に応じて個別対応						
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C : グループワーク、ペアワークを通し授業への貢献度を数値化し評価する ◎E : 各種テストで評価する <table border="0"> <tr> <td>授業への貢献度</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>単語テスト</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>TOEIC IPテスト</td><td>40%</td></tr> </table>	授業への貢献度	30%	単語テスト	30%	TOEIC IPテスト	40%
授業への貢献度	30%						
単語テスト	30%						
TOEIC IPテスト	40%						
テキスト	国際ビジネスコミュニケーション協会『公式TOEIC Listening & Reading 問題集10』(IIBC, 2023) ISBN 978-4906033713 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク, 2016) ISBN 978-4757428584 プリント教材						
参考書	必要に応じて授業内で指示する。						
履修上の注意	① 人前で間違えることを嫌がらないでください。間違いから学んだ方が定着率が高いからです。更にこのクラスは習熟度別ですので、誰かが間違えたことはクラスメートの他の学生も間違えていたり曖昧だったりするはずです。皆さんの間違いは自分だけではなく他の人の学習にも必ず役に立ちます。 ② 一生懸命取り組んでいてもなかなかすぐには点数に繋がらない事もあります。でも必ずその努力は報われますので、スコアの上下に一喜一憂せずにコツコツと地道な努力を積み重ねる意識を持って参加してください。 ③ 授業でスマホを使用する場面もありますが、指示がない限り音が鳴らないようにしてカバンの中にしまってください。						
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習						

講義科目名称： ホテル スタディーズB

授業コード： 2431

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
折茂広也			
ナンバリング：E25C31	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 本授業では、ホテル業界の基礎知識から実践的な経営手法、マーケティング戦略、未来のホテル像までを体系的に学びます。特に、グループワークを活用し、実践的な課題解決能力やチームワークを養うことを目的とします。 （授業目標） 1. ホテルの基本構造と役割を理解する 2. ホテル経営における主要な指標と戦略を学ぶ 3. サービス品質向上やリスク管理の手法を習得する 4. ホテルマーケティングの基礎と実践を学ぶ 5. 未来のホテル業界のトレンドを考察し、ビジネスプランを作成する （学習成果） ◎A：チームメンバーの考えを引き出しながら役割分担をリードし、衝突を調整しつつ最適な方向性を導くことで、各自の強みを結集して共同成果を最大化することができる。 ○D：授業で得た知識や理論を基に問題を論理的に分析し、主体的に情報を収集・活用して複数の解決策を提示することで、説得力のある企画やプレゼンを実現することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 第1回 授業オリエンテーション【対面】 ・講師自己紹介 ・授業の目的と目標の共有 ・授業カリキュラムと進行方法 ・グループ分け/授業ガイドラインの作成 ・授業の振り返りについて（アンケートの実施） ・グループワーク課題：ホテルの分類を考える 2 第2回 ホテルの歴史と分類、ビジネスモデル【オンデマンド（4月18日）】 ・ホテルの歴史的背景 ・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルなどの分類 ・フランチャイズ、チェーン、独立系ホテルの違い ・課題：自分が泊まりたいホテルの特徴を考える、理由をまとめる 備考：動画配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠 3 第3回 ホテルの組織とマネジメントの役割【対面】 ・ホテルの基本構造（宿泊・料飲・マーケティング・管理部門など） ・カスタマージャーニーに基づくホテル運営の考え方 ・グループワーク課題：宿泊客のカスタマージャーニーを分析 4 第4回 リーダーシップとチームマネジメント【対面】 ・ホテルマネジャーの仕事 ・チームマネジメントの重要性 ・グループワーク課題：理想のホテルマネジャー像を考える 5 第5回 ホテルの経営指標と基本的な数値管理【対面】 ・ホテルの収益構造 ・レベニューマネジメントの基礎 ・客室単価と稼働率の管理 ・グループワーク課題：異なる客室料金の理由を考察し、レベニューマネジメントの意義を理解 6 第6回 人材管理とスタッフ育成【オンデマンド（5月16日）】 ・ホテル業界の人材不足の現状を理解 ・チームビルディングとスタッフ育成 ・課題：スタッフのモチベーションを上げる方法 備考：スライド配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠
------	--

	7 第7回 サービス品質と業務改善/危機管理とリスクマネジメント【対面】 ・CS (Customer Satisfaction) の基本概念 ・グループワーク課題：お客様満足度を向上させるための施策 ・犯罪、災害、パンデミック、テロ、経営不振などのリスク管理 8 第8回 ホテルのマーケティング戦略【対面】 ・ホテルマーケティングの基礎 -マーケティングとセールスの違い- ・OTA (オンライン旅行代理店) とホテル直販の違い ・ターゲット市場の分析 (ビジネス客・観光客・長期滞在など) ・デジタルマーケティング (SNS・ロコミ・SEO) を活用する方法 ・グループワーク課題：SNS活用による集客戦略を考える 9 第9回 新規ホテル開発【対面】 ・新しいホテル業態と未来の展望 ・ホテルの差別化戦略 ・AI、自動化、サステナビリティなど、ホテル業界の最新トレンド ・ブティック ホテルとラグジュアリーホテルの将来性 ・最新テクノロジーの活用 (DX・AI・無人化ホテル) ・デジタル化の進展と課題 ・演習オリエンテーション - 企画課題「私たちの考える未来のホテル」 - 与件 ・企画アイデア出し ・グループメンバーの企画書作成分担決定 10 第10回 演習：私たちの考える未来のホテル I【オンデマンド (6月6日)】 ・企画書担当部分の作成 備考：ワークシート配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠 11 第11回 私たちの考える未来のホテル I ・グループワークにて企画書の作成 12 第12回 私たちの考える未来のホテル II ・グループワークにて企画書の作成 13 第13回 私たちの考える未来のホテル IV ・プレゼン資料作成/プレゼンテーション準備 ・企画書の最終確認 14 第14回 私たちの考える未来のホテル V ・企画書プレゼンテーション (前半グループ) 15 第15回 私たちの考える未来のホテル VI ・企画書プレゼンテーション (後半グループ) ・授業全体の振り返り
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：基本的なチームワークに参加し、役割を果たすことができる。さらに、積極的な提案や深掘り、問題解決を行う姿勢がある。 ○D：授業内容を一通り理解し、基本的な提案や論拠を示すことができる。また、プレゼンや企画書に説得力がある。
事前・事後学習	事前学習： 基礎知識の確認：インターネットなどでホテルの歴史・分類などの基本を把握。 最新動向の把握：関連ニュースやSNSをチェックし、業界のトレンドを簡単に調べる。 課題テーマの下調べ：グループワークや企画課題に備え、用語や背景情報を事前に確認。 事後学習： 振り返りと整理：授業内容やグループワークのポイントをまとめ、不明点を洗い出す。 追加リサーチ：専門用語や事例をさらに調べ、理解を深める。
指導方法	1. 講義 (対面) 教室での対面授業では、基礎的な理論や概念、ホテル業界の最新動向などをスライドや資料を用いて解説します。授業内で随時、質疑応答を行い、学生の理解度を確認します。 2. オンデマンド授業 指定した回では、スライドや動画を事前に配信し、受講後にオンライン上で質疑応答や課題提出を行います。学生は自分のペースで視聴し、質問やコメントをClassroomなどの学習管理システムを通じて行います。 3. グループワークと演習 対面授業でのグループワークを中心に、学生同士が協力して課題に取り組む時間を設けます。カスタマージャーニー分析やホテルの企画書作成など、実践的な演習課題を通じて、理論を応用する力を養います。 4. プレゼンテーション 最終的な成果物 (ホテル企画書など) をグループ単位でプレゼンテーションし、相互評価やフィードバックを行います。プレゼンテーションの進め方や資料作成方法も指導し、学生の表現力・コミュニケーション力を高めます。 5. 振り返りとフィードバック 各授業後や課題提出後に、講師・学生双方が学習内容を振り返り、アンケートやコメントを通じてフィードバックを共有します。

	学生の理解度や興味に応じて、追加資料や補足説明を行い、学習の定着を促します。 6. 自主学習サポート 授業外でもテキストや参考文献、関連ニュースの情報源を提示し、学生が主体的に学習できるようサポートします。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A： 1. グループワーク評価 観点：役割分担、積極的な意見交換、他メンバーの意見を引き出す姿勢 手法：授業内のグループ演習やプロジェクト作業を観察し、ルーブリック（評価基準表）に基づいて評価 2. ピア・レビュー（相互評価） 観点：チーム内での貢献度、コミュニケーションの質、問題解決への取り組み方 手法：チームメンバー同士が、互いの取り組みや態度を評価し合うアンケートを実施 ○D： 1. 講義内容を踏まえた課題・レポート 観点：授業で学んだ理論や事例を活用した問題分析、具体的な提案の妥当性 手法：課題提出（オンデマンド授業後など）で確認 補足：レポートの中で「なぜそう考えるのか」という根拠や論拠を示すよう指示し、論理性を評価 2. 期末プロジェクト（未来のホテル企画書など）の評価 観点：講義で学んだ知識（歴史、マーケティング、収益管理、人材育成など）を総合的に活かし、説得力ある企画を作成できているか 手法：企画書の内容・構成、根拠の明確さ、実現可能性などをルーブリック（評価基準表）で評価 グループワーク及び課題の完成度（40%）・授業への参加・貢献度（30%）・プレゼンテーション（30%）
テキスト	授業資料を配布（テキストの指定はなし）
参考書	必要に応じて授業内で紹介
履修上の注意	1. 事前学習の徹底： 対面・オンデマンドいずれの回でも、テキストや参考資料の内容を事前に確認してください。事前学習を行うことで、授業の理解が深まり、グループワークでも積極的に発言しやすくなります。 2. オンデマンド授業の視聴期限： 指定された配信期間内に必ず動画を視聴し、Classroomなどで提示される課題の提出を行ってください。視聴や課題提出の遅延は出欠に影響する場合があります。 3. グループワークへの積極参加： 本授業ではグループワークが多く含まれます。互いに意見を出し合い、チームとして協力する姿勢が評価対象となるので、積極的なコミュニケーションを心がけてください。 4. 演習・プレゼンテーションの準備： 期末に向けて「未来のホテル企画」などの演習やプレゼンを行います。授業外でもチームメンバーと連絡を取り合い、スケジュール管理や資料作成を進めてください。 5. フィードバックの活用： 授業内外で講師やクラスメイトから得たフィードバックは、次回以降の学習やプレゼンテーションに活かすようにしてください。継続的な改善が成績にも反映されます。 6. 学外リソースの活用： ホテル業界に関するニュースや専門サイトなど、授業以外の情報源も積極的に活用してください。最新事例を学ぶことで、議論や企画により具体性と説得力を持たせることができます。 7. 著作権・引用ルールへの遵守： プレゼンや企画書に外部資料や画像を使用する場合は、出典を明記し、著作権を尊重してください。適切な引用が行われな い場合は評価に影響する可能性があります。 8. 授業の進捗： 授業内容は履修者数やグループ課題の進捗により変更する可能性もあります。 9. 「ホテル業界の基礎と実務」の受講のすすめ 「ホテルマネジメント」を受講する場合は、「ホテル業界の基礎と実務」を受講することが、より授業を理解できるので、望ましいです。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： W E Bデザイン演習

授業コード： 2571 2572

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E16C39	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」、webページ作成サイト「Wix」を用いて、WEBデザイン&設計を中心としたデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 (授業目標) WEBデザインのトレンドとユーザビリティを重視し、使いやすく魅力的なデザイン制作を目指す。 (学習成果) ◎D：色の調和、文字と画像との構成がバランスよくレイアウトできる。 ○E：ユーザーインターフェイスはどうあるべきか理解し誰もが使い安いwebサイトがデザインできる。
授業計画	1 Wix基礎（1） WEBデザインサービス「wix」の基本機能を学びます。 2 Wix基礎（2） ヘッダー フッター セクションなどのWEBデザイン特有の機能や知識を学びます。 3 Wix応用 文字の扱い方や図形の作成、写真の挿入、グループ化、整列方法など実践します。 4 構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。 5 色彩、色調補正 色の調和や活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。 Adobe Photoshopを活用して写真を意図したイメージに加工します。 6 アニメーション WEBサイト表示時のアニメーションを活用し演出を学びます。 7 ロゴデザイン（1） Adobe Illustratorを使いギャラリーサイトに使用するタイトルロゴの作成の仕方を学びます。 8 ロゴデザイン（2） ギャラリーサイトに使用するタイトルロゴをデザインします。 9 情報設計 伝えるべき優先順位を決めて、どのようにレイアウトすべきか学びます。 10 ギャラリーサイトデザイン制作課題（1）（実習） ギャラリーサイトの基本的な要素を研究しサイト構成を考え、レイアウトします。 11 ギャラリーサイトデザイン制作課題（2）（実習） マーケティングを考慮しリアリティのあるデザインにします。 12 ギャラリーサイトデザイン制作課題（3）（実習） スマートフォンでも閲覧できるように、レスポンスデザインを学びます 13 ギャラリーサイトデザイン制作課題（オンデマンド） 授業で習得した技術を活用してオリジナルギャラリーサイトをデザインしていきます。 進捗をクラスルームにて該当URLを提出 14 ギャラリーサイトデザイン制作課題（オンデマンド） 授業で習得した技術を活用してオリジナルギャラリーサイトをデザインしていきます。 進捗をクラスルームにて該当URLを提出 15 ギャラリーサイトデザイン制作課題（オンデマンド） オリジナルギャラリーサイトデザインを完成、提出します。 完成課題をクラスルームにて該当URLを提出
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」、webページ作成サイト「Wix」が使ってオリジナルの表現ができる。 ○E：身の回りにあるデザインされているものを「作り手の目線」と「消費者の目線」の両端の考えを意識して、自らの表現に反映できる。

事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：提出課題のクオリティで評価する。 ○E：課題で提示した条件がクリアされているかで評価する。 複数の課題を提出 80% 授業態度 20%
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習 発表

講義科目名称： ホテル業界の基礎と実務

授業コード： 2421

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
折茂広也			
ナンバリング：E15C28	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 本授業では、ホテル業界の基礎知識、ホスピタリティ業の本質、ホテルの運営に関する実践的スキルを学びます。理論と実践を融合し、グループワークやケーススタディを通じて、ホテル業界のプロフェッショナルとしての基礎を身につけることを目的とします。 （授業目標） 1. ホテル業界の歴史や現在のトレンドについて理解を深める 2. ホスピタリティの概念を学び、実際の業務に活かせる洞察を得る 3. カスタマージャーニーを把握し、顧客視点でのサービス設計を考える 4. 実際のホテル企画を通じて、理想的なホテル運営の方法を模索する （学習成果） ○C：明確な目標設定：課題や演習のゴールを具体的に定義し、実現可能な計画を立案できる。 計画の遂行と柔軟な対応：進捗管理を行い、予想外の問題が発生しても臨機応変に対処しながら、最終的に高い完成度の成果を導き出すことができる。 ◎D：深い理解と応用：授業で学んだ理論や事例を的確に活用し、独自の視点や工夫を加えて課題を解決することができる。論理的かつ創造的な提案：根拠となるデータや事例を示しつつ、斬新かつ実現性のあるアイデアを提示し、説得力あるプレゼンテーションができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 第1回 授業オリエンテーション【対面】 ・講師自己紹介 ・授業の目的と目標の共有 ・授業カリキュラムと進行方法 ・グループ分け/授業ガイドラインの作成 ・授業の振り返りについて（毎回、同じアンケートの実施） ・ホテルの利用動機 顧客視点で課題に取り組む（グループワーク）Ⅰ ・グループワーク課題：「皆さんにとってのホテルとはどんな場所？どのような時に利用する？」 2 第2回 顧客支店で課題に取り組むⅡ【対面】 ・グループワーク課題：「ホテルの機能と顧客視点で考える利用シーン」 3 第3回 ホテルの分類とビジネスモデルⅠ【オンデマンド（9月26日）】 ・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの分類 ・課題：「ホテルの分類を考え、自分の知っているホテルを当てはめる」 備考：スライド配信+Classroomで質疑応答＋課題提出により出欠 4 第4回 ホテルの種類とビジネスモデルⅡ【対面】 ・フランチャイズ、チェーン、独立系ホテルの違い ・ホテルの分類とホテルの新規開業の流れ 5 第5回 ホテル業の歴史と新たなホテル業態【オンデマンド（10月3日）】 ・海外と日本のホテルの歴史 ・新しいホテル業態と未来の展望 ・課題： ①「海外と日本のホテル史を比べて、どのような違いや共通点があると感じましたか？」 ②「新しいホテル業態が今後どのように発展していくと思いますか？自分の体験や身近な例を交えながら考察してください。」 備考：動画配信+Classroomで質疑応答＋課題提出により出欠 6 第6回 ホテル選びの基準【対面】 ・グループワーク課題：「お客様はどんな宿泊施設をどう選ぶか？」 ・宿泊者の心理と期待 7 第7回 ホスピタリティとは【対面】
------	--

	・「サービス」と「ホスピタリティ」の違い ・グループワーク課題：「お客様が感動するおもてなしの実例を考える」 8 第8回 ホスピタリティ業のビジネスモデル【オンデマンド（10月17日）】 ・市場シェアと顧客シェア ・ホスピタリティ業の特徴 備考：スライド配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠 9 第9回 カスタマージャーニーとホテルの職種 I【対面】 ・カスタマージャーニーと顧客タッチポイント ・カスタマージャーニーマップ 10 第10回 カスタマージャーニーとホテルの職種 II【対面】 ・グループワーク課題：「マップにホテルの職種を当てはめる」 ・宿泊、料飲、マーケティング部門の役割 11 第11回 演習オリエンテーション【対面】 ・企画課題：「自分たちが宿泊したくなるホテルを企画する」 ・企画アイデア出し、グループメンバーの企画書作成成分担決定 ・グループワークにて企画書の作成開始 12 第12回 演習：私たちの理想のホテル I【対面】 ・企画書担当部分の作成 13 第13回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション準備【対面】 ・プレゼンテーション準備 ・企画書の最終確認 14 第14回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション I【対面】 ・発表：企画書およびホテルオペレーションの一部を実演（前半グループ） 15 第15回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション II【対面】 ・発表：企画書およびホテルオペレーションの一部を実演（後半グループ） ・授業全体の振り返り
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：与えられた枠組みを踏まえ、最低限の計画を立てて遂行できる。また、トラブルや変更があった際にも、必要な対応を行い、課題を基本的な水準で仕上げるができる。 ◎D：学んだ内容をまとめ、基本的なデータや事例を示すことができる。また、授業やオンデマンド動画で得た知識を理解し、レポートや発表で具体的な根拠を提示できる。
事前・事後学習	事前学習： 1. 指定資料・教書書の予習：ホテルの歴史や分類、基本的なマネジメント手法などを参考資料で確認しておく。 2. オンデマンド授業の配信がある回は、事前に配信される概要やキーワードを把握しておく。 3. 関連情報のリサーチ：ホテル業界に関する最新のニュースやSNS投稿をチェックし、授業でのディスカッションに活かせる話題を準備する。 4. 実際にホテルを利用した経験や、友人・家族から聞いたエピソードを思い出し、授業内で共有できるようにしておく。 5. 課題の下調べ：グループワークや演習のテーマが事前に提示されている場合、関連する用語や事例をインターネットや書籍で簡単に調べておく。 事後学習： 1. 授業内容の整理・復習：対面授業・オンデマンド授業で学んだ内容をまとめる。不明点や興味を持った点を洗い出し、次回授業での質問につなげる。 2. 追加リサーチと情報収集：授業で取り上げられたトピックや専門用語を、ウェブサイトなどでさらに詳しく調べる。 3. 実務的な視点を得るため、ホテル公式サイトや観光関連のレポートなども積極的に閲覧する。 4. フィードバックの活用：講師やクラスメイトからの意見・アドバイスを参考に、次回以降の学習やプレゼン内容を改善する。
指導方法	1. 講義（対面） ホテル業界の基礎知識や事例をスライドや板書を用いて解説します。随時、学生との質疑応答を行い、理解度を確認しながら進めます。 2. オンデマンド授業 指定した回では、事前に動画やスライドを配信し、学生が各自のペースで学習します。Classroomなどのオンラインプラットフォームを用いて、課題提出や質問対応を実施します。 3. グループワーク・ディスカッション 授業中にグループで課題に取り組み、意見交換や役割分担を行います。学生同士のコミュニケーションを通じて、問題解決力や協働力を養います。 4. 演習・プレゼンテーション ホテルの企画やカスタマージャーニー分析などの演習課題を設定し、チームでアイデアをまとめます。最終的には企画書や

	プレゼン資料を作成し、クラス全体に向けて発表を行います。 5. フィードバックと振り返り 各回の授業やグループワーク後には、学生が自己評価・相互評価を行い、講師からも口頭やコメントでフィードバックを提供します。アンケートや簡易レポートを活用し、学習内容の定着や今後の改善点を明確にします。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C： 目標設定の明確さ：課題のゴールや目的をどれだけ具体的に定義できているか。 計画立案・実行力：演習スケジュールを整理し、優先順位を付け、進捗を管理し、問題が生じた際に柔軟に修正できるか。 成果と振り返り：課題成果物（レポートやプレゼン）の完成度。プロセス全体を振り返り、改善点を抽出して次につなげようとしているか。 評価方法：グループワーク観察：計画や進行管理の様子を講師が観察。自己評価レポート：学生自身が目標と計画の達成度を振り返り、改善点を記述。 ○D： 基礎知識の理解度：授業や参考資料で得た知識を正しく把握し、用語や理論を適切に使えるか。 応用・発展的な思考：学んだ内容を新たな状況や課題に結びつけられるか。論理的な根拠やデータを示しつつ、説得力のある提案ができるか。 独創性と論理性の両立：既存の枠組みを超えたアイデアを生み出せるか。そのアイデアを論理的に説明し、相手を納得させることができるか。 評価方法：レポート・プレゼンテーション：提案内容や使用データの妥当性、論理構成を評価。 質疑応答：専門用語や理論を理解し、臨機応変に回答できるか。 演習課題・プロジェクト：実践的な課題を通じて、知識の活用度合いを確認。 レポート・プレゼンテーション（40%）、質疑応答（30%）、課題・プロジェクト（30%）
テキスト	授業資料を配布（テキストの指定はなし）
参考書	必要に応じて授業内で紹介
履修上の注意	1. 事前学習の徹底 対面・オンデマンド問わず、授業前には配布資料や参考資料を確認し、基本的な用語や概念を理解しておいてください。 2. オンデマンド授業の視聴と課題提出 指定された期間内にスライドや動画を視聴し、Classroomなどのシステムを通じて課題を提出してください。視聴や提出の遅れは出席・成績評価に影響を及ぼす場合があります。 3. グループワークへの積極参加 本授業では、ディスカッションや演習が評価の大きなウェイトを占めています。チームメンバーとのコミュニケーションを大切にし、自ら意見を出すだけでなく、他の意見を引き出す姿勢も評価対象となります。 4. 演習課題のスケジュール管理 各回の演習課題や最終プレゼンテーションに向け、チーム内で役割分担を行い、スケジュールを管理してください。 5. フィードバックの活用 授業中や課題提出後に得られる講師やクラスメイトからのフィードバックは、学習を深める貴重な機会です。指摘やアドバイスを受け入れ、次の課題や発表に反映させるよう努めてください。 6. 学外リソースの活用 ホテル業界に関するニュースサイトや企業ホームページ、専門書などを自主的に調べることで、より実践的な知識が身につきます。実際のホテル見学も、時間や機会があれば積極的に行ってみてください。 7. 授業の進捗 授業内容は履修者数やグループ課題の進捗により変更の可能性もあります。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： 動画演習

授業コード： 2561

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：田中仁史）			
ナンバリング：E26C38	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 高度な動画編集ソフトを使い映像作品制作を行い動画マーケティングの基礎的な理論と方法を学ぶ。個人やグループでの制作活動を通じて、企画の立案力と計画力や協働力などのプロジェクト実施する上での汎用的な能力を養う。 （授業目標） 映像企画や映像制作の知識を深め、考える方法と伝える方法を身につける。 （学習成果） ☒ A：他者と協働して、作品制作を行うことができる。 ☒ C：マーケティングの考え方と動画編集ソフトを使って映像制作ができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 授業の概要 学習方法や必要物の説明、動画制作の全体像の把握 環境構築 2 動画編集ソフトの練習（ICT 動画編集ソフト）（PBL） 基本操作 基本機能の説明と体験 動画編集ソフトアドビプレミアの基礎的な使い方を実際に触りながら体験します。 3 動画編集ソフトの実習（ICT 動画編集ソフト）（PBL） ショートムービーの制作練習 動画アドビプレミアを使用意された素材で簡単なショートムービーを制作し基礎を身につける。 4 課題①動画制作自習（オンデマンド） 課題動画を完成させてYOUTUBEにアップロードをする 5 動画企画立案の方法を講義 企画とプロトタイプ作成（絵コンテ等） 企画提案の方法を学ぶ。モノやコトの魅力を発見。考え方や伝え方を実践的に身につける。 6 動画企画のワークショップ 企画を自分たちで考えるワークショップ ディスカッションしながら戸板女子短大のPR動画の企画を考え コンテ化する。 7 企画のコンテを仕上げて（プレゼンテーション）（PBL） 企画コンテを自分で仕上げプレゼンテーション フィードバックをする力 理解する力を養う 8 課題②企画のブラッシュアップ（オンデマンド） 企画をブラッシュアップしオンラインで提出 9 撮影方法の講義 スマホを使った基本的な撮影方法や戸板女子短大PRビデオの素材を撮影する方法を講義 10 ロケーションハンティング 学校内でロケハンをして撮影体験をするワークショップ型授業 素材撮影の仕方をより実地的に行う 11 素材撮影（PBL）（オンデマンド） 自分たちで学校生活を撮影 戸板女子PRビデオを作るための必要なものを集める準備をする。 12 課題「学校のPR動画の制作①（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 素材集め 撮影 編集作業 テーマに沿った素材の選び方 カット編集をして 動画の全体がわかるようにする 13 課題「学校のPR動画の制作②（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 応用的な動画編集 編集方法 テロップの入れ方 音楽、効果音、ナレーションなど具体的な演出方法を実践しながら学ぶ 14 課題「学校のPR動画の制作②（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 動画をブラッシュアップしYOUTUBEへのアップロードの仕方を学ぶ 15 動画の発表（プレゼンテーション）
------	---

	完成品の発表とフィードバックを全員で行う。レビューの仕方などを学ぶ
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：他者と協働して制作に取り組むことができる ◎C：計画的に映像作品を制作することができる
事前・事後学習	事前：作品の企画を検討し、必要な素材を用意する。 事後：作品の企画・制作・編集作業等をブラッシュアップ
指導方法	基礎的な動画を自分で制作していく中で、動画制作の考え方とスキルを身に付ける。 フィードバックは、制作物／発表に対して適宜授業中に行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	制作物70%、授業への参加・貢献度30% ○A：授業の参加度・グループ制作への貢献度で評価する ◎C：制作物及び発表資料で評価する
テキスト	なし。必要な資料は適宜配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeアカウント料が必要となります。（他の授業でもAdobeアカウントを購入する場合はそれと兼用で可） 動画作品の制作活動を行う授業であり、ものづくりに対して主体的な意思や構想を持ち、授業外でも自主的に新しい技術を調べて学んだり、制作を行ったりする必要があることを理解した上で、受講するようにしてください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 プレゼンテーション グループワーク

講義科目名称： ホテル・ブライダルスタディーズ

授業コード： 2461

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E15C32	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 日本の全産業に占める7割はサービス業である。お客様に目に見えない品質の行き届いた気配りや信頼性は、質の高いサービスは日本の文化であり、そのサービスを提供する際に大切な「心」の所作はホテルには欠かすことのできない目に見えない資産となっている。 そのホテルの部門の一つである「ブライダル」の業務に就くことは、ホテリエでもあると同時に結婚式・披露宴のみならず、お客様のニーズを汲み取り、文化や慣習の担い手として各種分業の壁を越えて幅広い関係者をコーディネートし、さらにはお客様にあったブライダルサービス・商品等を提供するエキスパートでなければならない。 (授業目標) この講義では、ブライダルの仕事の内容を学びながら、ホテルの仕組みと仕事を理解し、自分のイメージを形にするまでのプロセスの方法を身につけ、第三者に表現できることを目指す。 (学習成果) ○C：ホテルの仕組みを理解し、ホテルの特性を活かした1日の過ごし方を提案することができる。 ◎D：ホテルの仕組みと特性を理解し、ホテルの生涯顧客を獲得できるブライダル企画・提案をおこなうことができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ブライダルとは 結婚が決まったお客様（カップル）に対し、専門的知識をもとに結婚式・披露宴・アフターパーティーの企画・提案・施行を行う※ブライダル・ウェディング・マリッジの定義の違いについて 2 ブライダルの業種を知る ホテル、ゲストハウス、専門式場、レストラン、旅館・料亭、神社・寺院・教会 会場、衣装、装花、ジュエリー、音楽、美容、写真、映像、演出、印刷、引出物の種類を知る 3 ブライダルの職業からブライダルアイテムを知る プランナー、ドレススタイリスト、ヘアメイク、フォトグラファ、ビデオグラファー、エスコート、フローリスト、キャンプテン、オペレーター、司会、シェフ、ソムリエ、パティシエ、演奏者、牧師 4 ブライダルマーケティングと集客の方法 ホテルブライダルについて、エージェント、雑誌などの印刷媒体、WEB上にあるホームページ、口コミ、SNSや広告を各自調べる 5 ホテルブライダルとは ホテルブライダルの特性によるスタイルの差別化と顧客特性 ラグジュアリーホテル、シティホテル、リゾートホテルなどのホテルブライダルとSDGSの取り組みについて 6 ホテルブライダルの準備段階と習熟度確認テスト 新規申込みのホテルブライダルの打ち合わせ内容など、結婚式までのプロセスを理解する 7 ホテルブライダル当日の流れ ホテルブライダルにおける新郎新婦の一日の流れを具体的に見ていき、当日のスタッフの役割を理解する。またアニバーサリー式についても取り上げる 8 ホテルブライダルのテーマとカラージュコンCEPTの設定(グループワーク) ホテルでどんな結婚式をしたいかを考え、合わせて自分自身がプランナーとなり、披露宴を組み立て、打ち合わせスケジュールを作成する 9 ホテルブライダルのプロセス① 結婚式スタイルと披露宴の進行を考える(グループワーク) 要望に合わせた結婚式スタイルと披露宴進行について考察する 10 ホテルブライダルのプロセス② 招待状作成と進行・演出(グループワーク) 招待状の作成とホテルブライダルの司会や演出について考察する 11 ホテルブライダルのプロセス③ 装花、ドレスとメイク(グループワーク) 新郎新婦を華やかに演出するドレスとメイク、合わせて結婚式全体を華やかに演出する装花を想定することで会場の雰囲気などイメージする 12 ホテルブライダルのプロセス④ 料理とドリンク(グループワーク) 結婚式の披露宴やパーティーで、ゲストへのおもてなしとしても重要な存在である料理とドリンク類について考察する
------	--

	13 コラージュ作成(グループワーク) ホテルブライダルのプロセスで検討した内容を踏まえて、コラージュ（コンセプトシート）を作成する 14 コラージュ発表①(グループワーク・プレゼンテーション) 作成したコラージュについてのプレゼンテーションとその評価をおこなう。 15 コラージュ発表②(グループワーク・プレゼンテーション) 作成したコラージュについてのプレゼンテーションとその評価をおこなう。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：ホテルの仕組みを理解し、ホテルの特性を活かした提案を1つ以上説明できる。 ◎D：ホテルの仕組みと特性を理解し、ブライダル企画・提案をおこなうことができる。
事前・事後学習	事前学習：ホテルブライダルについてのホテルの取組みをWEBページから収集する（90分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだホテルブライダルについての情報を整理する（60分） テーマに沿ったコラージュをプレゼンテーションができるように準備する（30分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。 ホテルブライダルの現場で働く方をゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員・ゲスト講師からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：ホテルの仕組みについての理解を、記述回答で評価する。 ◎D：ホテルの仕組みと特性を活かしたブライダル企画・提案のプレゼンテーションを評価する。 講義中の習熟度確認テストの成績（30%）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（30%）、授業内課題（40%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. 自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション、グループワーク

講義科目名称： 留学・編入学ゼミ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E28C68	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	このゼミは、大学への編入学及び留学を志す学生を対象とする。留学を希望する学生は、基礎的な英語力や留学に必要なノウハウを身に付け、留学を希望する国の文化や習慣について学ぶ。編入学を希望する学生は、編入学入試に必要な小論文や面接の練習の他、過去の入試問題の分析を行う。留学や編入学をするのに必要な試験の対策は授業以外でも進めることが必要となる。授業においてより具体的な学習計画を立て、実践することを目指す。また、このゼミを履修する学生は、留学先や編入学における専攻が異なることが予測されるため、面談を定期的に行い、一人一人に合わせた学習計画を立てる。 (授業目標) ◎D：異文化理解を深め、様々な思想や文化的差異を説明することができる。 ○E：自らの主張を論理的に伝えることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション（編入学・留学） 英語力確認 学習計画書の作成 2 進学準備カウンセリング①（編入学）・留学準備カウンセリング①（留学） 編入学先についての個別相談および希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習を行う。（編入学） 留学についての個別面談、英会話表現①（食事①）（留学） 3 進学準備カウンセリング②（編入学）・留学準備カウンセリング②（留学） 編入学先についての個別相談および希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習を行う。（編入学） 留学についての個別面談、英会話表現②（買い物）（留学） 4 小論文および英語問題対策①（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究する。（編入学） 英会話表現③（娯楽）（留学） 5 小論文および過去問対策②（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究し対策を講じる。（編入学） 英会話表現④（観光・ツアー）（留学） 6 小論文および過去問対策③（編入学）／英語（留学） 引き続き希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究し対策を講じる。（編入学） 英会話表現⑤（トラブル対策）（留学） 7 小論文および過去問演習①（編入学）／英語（留学）グループディスカッション 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループディスカッション TOEFL対策①（留学）グループディスカッション 8 小論文および過去問演習②（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)①（アカデミックな長文読解問題）（留学） 9 小論文および過去問演習③（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)②（アカデミックな長文読解問題）（留学） 10 小論文および過去問演習④（編入学）／英語（留学） 引き続き希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)③（アカデミックな長文読解問題）（留学） 11 小論文および過去問演習⑤（編入学）／英語（留学）グループワーク 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループワーク TOEFL対策(Reading)④（アカデミックな長文読解問題）（留学）グループワーク 12 小論文および過去問演習⑥（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Listening)⑤（講義形式の問題）（留学） 13 小論文および過去問演習⑦（編入学）／英語（留学）グループディスカッション 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループディ
------	---

	スカッション TOEFL対策(Listening)⑥(講義形式の問題)(留学)グループディスカッション 入試面接対策①(編入学)／英語(留学)グループワーク 希望編入学先大学の入試面接対策を行う。(編入学)グループワーク TOEFL対策(Listening)⑦(会話形式の問題)(留学)グループワーク 15 入試面接対策②(編入学)／英語(留学) 希望編入学先大学の入試面接対策を行う。(編入学) TOEFL対策(Listening)⑧(会話形式の問題)(留学)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：異文化や自分の興味のある話題について説明することができる。 ○E：自らの主張の概要を伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。(約60分) 事後学習：評論を読み直す。英語学習の復習をする。授業時に出された指示に従い行う。(約60分)
指導方法	さまざまな演習を通して、編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養う。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却する。また定期的に英語実力試験を実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：評論文読解および個別面談で評価する。 ○E：レポート、小論文作成、面接の準備で評価する。 授業への貢献度・積極性 40% レポート・小論文・課題 60%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。また英和辞書を持参すること。
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意	授業に出席するだけでなく、積極的な態度で取り組むことを求める。また授業外学習も不可欠となる。学びたいという強い意欲のある学生の履修を求める。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク・グループディスカッション

講義科目名称： ビジネス会計A

授業コード： 2621

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
宮川昭義			
ナンバリング：E16C43	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 簿記は、企業の経済活動という「取引」に関する資産や負債の変動を記録し、それらの変動の「原因」と「結果」という二つの側面から貨幣額をもって表現する計算技法である。この授業の目的は、簿記の基本的な仕組みを理解すること、また、簿記の学習を通して会計学を学ぶ上での基礎知識を修得することである。 （授業目標） 企業活動の基本的な取引の理解と簡単な財務諸表の読み方から企業分析ができるようになること。 （学習成果） 中小零細企業の取引について簿記を利用して記録・理解ができるようになること。 （S評価になる基準） 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 （ディプロマ・ポリシー） C：日商簿記検定3級の合格へ向けた計画的な学修が十分にできる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた発展的問題演習を継続的にこなえる。
授業計画	1 簿記の基礎【オンデマンド授業】 (1) 簿記について (2) 財務諸表と簿記の5要素 2 商品売買Ⅰ (1) 商品売買取引 (2) 分記法による商品売買取引の記帳 (3) 三分法による商品売買取引の記帳 (4) 掛けによる売買 (5) 手付金や内金の処理 (6) 商品券 3 現金・預金 (1) 現金 (2) 当座預金 (3) 当座借越契約 (4) 普通預金と定期預金 (5) 複数の銀行口座を所有する場合 4 クレジット売掛金 (1) クレジット売掛金 5 電子記録債権・債務 (1) 電子記録債権・債務 6 その他の取引Ⅰ（貸付金・借入金） (1) 貸付金・借入金 (2) 利息について (3) 役員貸付金・役員借入金 (4) 手形貸付金・手形借入金 7 その他の取引Ⅲ（仮払金・仮受金、給与、諸会費） (1) 仮払金・仮受金 (2) 給与 (3) 諸会費 8 試算表【オンデマンド授業】 (1) 試算表とは 9 決算整理Ⅰ（現金過不足） (1) 現金過不足の処理（期中取引） (2) 現金過不足の整理（決算整理） (3) 決算日の現金実査にもとづく現金過不足の処理（決算整理） 10 決算整理Ⅲ（売上原価） (1) 三分法の記帳

	(2) 売上原価および売上総利益の計算 (3) 売上原価を算定するための仕訳（決算整理） 11 決算整理Ⅴ（減価償却） (1) 有形固定資産の減価償却（決算整理） (2) 減価償却費の月次計上 (3) 減価償却している有形固定資産の売却（期中取引） 12 決算整理整理後残高試算表 (1) 決算整理後残高試算表 13 帳簿の締め切り（英米式決算） (1) 帳簿（勘定）の締め切り 14 株式の発行【オンデマンド授業】 (1) 株式会社とは (2) 資本（純資産）とは (3) 株式の発行 15 税金 (1) 税金の分類 (2) 法人税等 (3) 消費税
到達目標・基準 C評価になる基準	（到達目標・基準） 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 （C評価になる基準） 日商簿記検定3級に合格に向けた基本的項目に関する理解ができるレベルに到達すること。 （ディプロマ・ポリシー） C：日商簿記検定3級の合格へ向けた最低限の計画的な学修ができる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた基礎的問題演習に取り組める。
事前・事後学習	事前学習：授業計画に沿って対応するテーマについてテキストを通読し、疑問点の整理をおこなう。（90分） 事後学習：授業内容についての問題演習をおこない、理解できない個所については、次回の授業において質問ができるように整理をおこなう。（90分）
指導方法	講義は基本的にテキストによる解説の後、問題演習をおこなうことで内容に関する習熟度を上げる方法による。 適宜、課題などを用意し、自宅学習ができるように配慮する。 演習問題や課題についてのフィードバックは授業内で行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	平常点50% 確認試験50%
テキスト	滝澤ななみ（2025）『みんなが欲しかった！簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第13版』TAC出版、ISBN:978-4300115763 TAC簿記検定講座（2025）『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 15.0』TAC出版、ISBN：978-4300115831
参考書	
履修上の注意	この授業は「ビジネス会計B」（同日開講）との同時履修を前提として進行する。そのため、この講義「ビジネス会計A」のみを履修することは、授業内容の理解が難しくなることに留意すること。なお、受講者の理解度によって授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	

講義科目名称： ビジネス会計B

授業コード： 2631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
宮川昭義			
ナンバリング：E16C44	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 簿記は、企業の経済活動という「取引」に関する資産や負債の変動を記録し、それらの変動の「原因」と「結果」という二つの側面から貨幣額をもって表現する計算技法である。この授業の目的は、簿記の基本的な仕組みを理解すること、また、簿記の学習を通して会計学を学ぶ上での基礎知識を修得することである。 （授業目標） 企業活動の基本的な取引の理解と簡単な財務諸表の読み方から企業分析ができるようになること。 （学習成果） 中小零細企業の取引について簿記を利用して記録・理解ができるようになること。 （S評価になる基準） 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 （ディプロマ・ポリシー） C：日商簿記検定3級の合格へ向けた計画的な学修が十分にできる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた発展的問題演習を継続的にこなえる。
授業計画	1 簿記の基礎【オンデマンド授業】 (1) 簿記について (2) 財務諸表と簿記の5要素 2 商品売買Ⅰ (1) 商品売買取引 (2) 分記法による商品売買取引の記帳 (3) 三分法による商品売買取引の記帳 (4) 掛けによる売買 (5) 手付金や内金の処理 (6) 商品券 3 現金・預金 (1) 現金 (2) 当座預金 (3) 当座借越契約 (4) 普通預金と定期預金 (5) 複数の銀行口座を所有する場合 4 クレジット売掛金 (1) クレジット売掛金 5 電子記録債権・債務 (1) 電子記録債権・債務 6 その他の取引Ⅰ（貸付金・借入金） (1) 貸付金・借入金 (2) 利息について (3) 役員貸付金・役員借入金 (4) 手形貸付金・手形借入金 7 その他の取引Ⅲ（仮払金・仮受金、給与、諸会費） (1) 仮払金・仮受金 (2) 給与 (3) 諸会費 8 試算表【オンデマンド授業】 (1) 試算表とは 9 決算整理Ⅰ（現金過不足） (1) 現金過不足の処理（期中取引） (2) 現金過不足の整理（決算整理） (3) 決算日の現金実査にもとづく現金過不足の処理（決算整理） 10 決算整理Ⅲ（売上原価） (1) 三分法の記帳

	(2) 売上原価および売上総利益の計算 (3) 売上原価を算定するための仕訳（決算整理） 11 決算整理Ⅴ（減価償却） (1) 有形固定資産の減価償却（決算整理） (2) 減価償却費の月次計上 (3) 減価償却している有形固定資産の売却（期中取引） 12 決算整理整理後残高試算表 (1) 決算整理後残高試算表 13 帳簿の締め切り（英米式決算） (1) 帳簿（勘定）の締め切り 14 株式の発行【オンデマンド授業】 (1) 株式会社とは (2) 資本（純資産）とは (3) 株式の発行 15 税金 (1) 税金の分類 (2) 法人税等 (3) 消費税
到達目標・基準 C評価になる基準	（到達目標・基準） 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 （C評価になる基準） 日商簿記検定3級に合格に向けた基本的項目に関する理解ができるレベルに到達すること。 （ディプロマ・ポリシー） C：日商簿記検定3級の合格へ向けた最低限の計画的な学修ができる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた基礎的問題演習に取り組める。
事前・事後学習	事前学習：授業計画に沿って対応するテーマについてテキストを通読し、疑問点の整理をおこなう。（90分） 事後学習：授業内容についての問題演習をおこない、理解できない個所については、次回の授業において質問ができるように整理をおこなう。（90分）
指導方法	講義は基本的にテキストによる解説の後、問題演習をおこなうことで内容に関する習熟度を上げる方法による。 適宜、課題などを用意し、自宅学習ができるように配慮する。 演習問題や課題についてのフィードバックは授業内で行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	平常点50% 確認試験50%
テキスト	滝澤ななみ（2025）『みんなが欲しかった！簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第13版』TAC出版、ISBN:978-4300115763 TAC簿記検定講座（2025）『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 15.0』TAC出版、ISBN：978-4300115831
参考書	
履修上の注意	この授業は「ビジネス会計A」（同日開講）との同時履修を前提として進行する。そのため、この講義「ビジネス会計B」のみを履修することは、授業内容の理解が難しくなることに留意すること。なお、受講者の理解度によって授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	

講義科目名称： 秘書実務論A

授業コード： 2661

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：E16C48	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能について理解し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら習得していく。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。 【授業目標】 秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 【学習成果】 ◎D：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得していくことができる。 ○E：学習した秘書に必要な知識・能力を、社会での諸活動で臨機応変に発揮できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え【対面】 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 社会人・秘書の心構えを習得する。 2 秘書としての心構え【対面】 社会人としての自覚と心構え 上司の補佐役としての秘書 指示を受ける時の留意点 機密を守る 3 秘書に必要な条件【対面】 判断力・記憶力・表現力・行動力 秘書に適した人柄と性格 秘書にふさわしい身だしなみ 4 秘書の役割と機能【対面】 秘書の分類を理解する 上司と秘書の機能と役割の違いを理解する 定型業務と非定型業務 5 秘書の職務【対面】 定型業務 非定型業務 効率的な仕事の進め方 6 企業の基礎知識【オンデマンド】 企業の目的 企業形態と会社の種類 企業の組織と機能 経営管理 企業の組織と活動 社会常識 7 人間関係と話し方【対面】 人間関係と重要性 人間関係をつくるあいさつ 話し方と人間関係 敬語の使い方 8 話し方・聞き方の応用【対面】 情報伝達の仕方 報告の仕方 依頼と断り方 指示の受け方 注意・忠告の受け方 9 電話の対応【対面】 電話のマナーと話し方の注意点 電話のかけ方・受け方 電話の取次ぎ 10 接遇【対面】 接遇の心構え
------	---

	アポイントメントと調整 受付のマナー 来客取次のマナー 受付・取次の接遇用語 案内のマナー 茶菓の接待と紹介のマナー 見送りのマナーと席次 11 交際【対面】 慶事のマナー 食事のマナー 弔事のマナー 弔事への対応 贈答のしきたり 12 会議と秘書【対面】 会議の目的と種類 会議の準備 会議中の秘書の仕事 13 ビジネス文書と秘書【対面】 社内文書の種類と形式 社外文書の慣用表現 ビジネス文書と敬語 14 文書管理【オンデマンド】 郵便の基礎知識・郵便小包と特殊扱い郵便物 資料管理ビジネス文書の受信・発信 15 資料管理・日程管理・オフィス管理【オンデマンド】 ファイリングの基礎知識 日程管理と予定表 机の使い方と事務用品の種類 快適な環境を作るための基礎知識
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：秘書検定3級合格レベルの実力を身につける。 ○E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することができる。
事前・事後学習	事前学習：今回の講義内容に関するテキストの該当章と事前配布資料を読んでおくこと。（約60分） 事後学習：毎回の授業で学習した内容、理解度チェックを必ず復習すること。（約60分） Google classroomで提示した課題に取り組み、必要事項に解答し、期限内に提出すること。（約60分）
指導方法	・講義は主にパワーポイントを用いて進め、視聴覚教材も適宜利用する。 ・課題はGoogle Formsを用いる。テーマごとに学んだ内容を教室で再確認することにより、理解した知識を定着させる。 ・ペアワークを中心として、考えることと対話を重視した授業を行う。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。Google Classroomを活用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：試験、課題、授業態度を評価する。 ○E：試験、課題、授業態度・授業中の発言力等を評価する。 試験 60%、課題 30%、授業に取り組む姿勢・貢献度10%（総合的に評価する）
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』改訂2版(2024出版) 実務技能検定協会 早稲田教育出版 ISBN:978-4-7766-1030-4
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会 早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会 早稲田教育出版
履修上の注意	履修学生は秘書検定を受験すること。 知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、自己管理・身だしなみ・言葉遣い・マナー・知識を深めるなどを日頃から実践し日々の生活や授業で習慣化することが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定と将来の可能性の向上にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどでの体験で落とし込み自主的に考え行動するなど、学習内容を深く習得していく能動的な態度が必要となる。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 課題提出は必ず提出期限を厳守すること。 なお、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク

講義科目名称： 調剤事務B

授業コード： 2842

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C62	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前期「調剤事務1」の授業に引き続き、処方箋問題集や模擬問題集にて調剤費の算定ルールとレセプト記入方法について学習し、調剤薬局において正しい請求方法と調剤報酬明細書を作成する技術を身につける。 「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。 (授業目標) 1. 調剤薬局事務検定試験の合格。 2. 算定方法・算定ルールを学習し、処方箋を読み取って調剤録と調剤報酬明細書が作成できる。 (授業成果) ◎D：処方箋と調剤録から正確な調剤報酬明細書が作成できる。 ○E：調剤費の算定知識を理解し、処方箋から正確に調剤録を作成することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ・授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・前期の振り返りと復習 2 処方箋問題① ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 3 処方箋問題② ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 4 処方箋問題③ ・かかりつけ薬剤師指導料の算定方法 ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 5 処方箋問題④ ・漸減療法の算定方法 ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 6 処方箋問題⑤ ・同日・同時受付の算定方法 ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 7 処方箋問題⑥ ・一包化の算定方法 ・処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 8 処方箋問題⑦ ・処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 9 処方箋問題⑧ ・処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 1 0 検定模擬問題① ・検定試験時のポイント解説 ・模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 1 1 検定模擬問題② ・模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 1 2 検定模擬問題③ ・模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 1 3 講義の振り返り・期末試験 ・これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（60分）を行う （検定試験を見据えた問題を実施） 1 4 総まとめ・検定対策① ・期末筆記試験の返却およびフィードバック ・検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施 1 5 検定対策② ・検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：調剤費に関する基本的な算定項目・加算項目の計算ができ、調剤録と調剤報酬明細書を作成することができる。 ○E：処方箋から、基本的な調剤録を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。小テストのための学習（90分） 事後学習：授業内容の復習とまとめ（90分）
指導方法	・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・授業の習熟度を図るため、授業内にて小テストとフィードバックを実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	・期末筆記試験：50% ◎D：「調剤録と調剤報酬明細書の作成」について評価する ○E：処方箋からの「調剤費の計算」について評価する ・授業内小テスト：20% ・授業態度、授業の参加状況、提出物：30%
テキスト	『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 テキスト』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋問題集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋解答集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 模擬問題集』（日本医療事務協会）
参考書	授業時に使用するテキスト
履修上の注意	・薬剤計算やルール等、調剤費に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって、遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント(前期の授業で配布したものを含む)、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「調剤薬局事務検定試験」の取得を目標とした授業内容のため、取得希望者は前期の「調剤事務1」も履修する必要がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	ライト

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	国専：選択
担当教員			
山田麻貴子			
ナンバリング：E22C12	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） この授業は集中講義となる。 TOEIC® L&R Testに挑戦してその結果に満足できなかった学生は多いと思われる。本授業ではPractical English A/B から継続してTOEICテストの特徴理解と解法の修得に焦点をあてさらなるスコアアップのための集中的に実践演習を行う。TOEIC®テストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現をPart 1～7までの問題演習を数多くこなすことで学ぶ。適宜、模試も実施する。 （授業目標） TOEIC®テストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 （学習成果） ☐ C：TOEIC®テストのPart 1から7の問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ☒ E：TOEIC®テストのPart 1から7を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction（PBL型学習）（プレゼンテーション） これまでのTOEICで苦戦した、あるいは成功した過去の経験をクラス全体で共有し、履修者個人の反省点と目標を設定する。 2 Test 1（Single 2 Question + Single 3 Question）（ペアワーク） 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 3 Test 1（Single 4 Question + Double）（ペアワーク） 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 4 Test 1（Triple）（ペアワーク） 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 5 Test（模試①）（オンデマンド回①） 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。 6 Test 2（Single 2 Question + Single 3 Question）（ペアワーク） 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 7 Test 2（Single 4 Question + Double）（ペアワーク） 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 8 Test 2（Triple）（ペアワーク） 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 9 Test 3（Single 2 Question + Single 3 Question）（ペアワーク） 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 10 Test 3（Single 4 Question + Double）（ペアワーク） 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 11 Test（模試②）（オンデマンド回②） 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。 12 Test 3（Triple）（ペアワーク） 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 13 Test 4（Single 2 Question + Single 3 Question）（ペアワーク） 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 14 Test 4（Single 4 Question + Double）（ペアワーク） 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。
------	--

	15 Test（模試③）（オンデマンド回③） 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：TOEIC®テストで出題される語彙、最低200ワードを理解することができる。 ◎E：TOEIC®テストのリーディングセクションの構成、特にPar7の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、次回の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で行った単語、フレーズの書写作业。（約60分）
指導方法	実戦形式の問題演習を通して、TOEIC®テストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：単語テストの実施及び、学生からのコメントに対し随時フィードバックを行う。 学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：TOEIC® IPテスト、確認テストで評価する。 ◎E：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習、確認テストで評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC® IP 20% 授業内実施の確認テスト 30%
テキスト	テキストは適宜印刷したものを配布する。
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	【注意事項】受講者は学内TOEIC® IP希望者受験を原則必ず受験していただきます。 この授業は集中講義です。毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。スコアアップのためにも毎回宿題を出しますので、60分程度の事前・事後学習は必須です。また自費にて公式TOEIC®テストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に結果を報告すること。連絡はすべてGoogle Classroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

講義科目名称： Business English : Airline・Airport

授業コード： 2181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
山田麻貴子			
ナンバリング：E14C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） テキストに沿って機内、空港で役立つ英語表現を習得する。 頻出フレーズを用いてロールプレイングの練習を強化し、実践に備える。 実際に航空会社で使用されている機内アナウンスを用いて聞きやすいアナウンスを練習する。 航空業界での就職に求められるTOEICの語彙・リスニング力を強化する。 毎回、ボキャブラリーやフレーズの確認テストを行う。 （授業目標） エアライン業界で使われる英語から、現場で役立つ英語表現・英会話力を習得する。 （学習成果） ☐ D：航空業界で使用する単語やフレーズを理解し、場面に応じて活用することができる。 ☒ E：人前で堂々と英語の接客ロールプレイングやアナウンスができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業概略説明 Self-introduction 2 Unit1 Ticketing for a Domestic Flight 航空券の手配、必要書類に関する英語表現を学ぶ 3 Unit1 Ticketing for a Domestic Flight Vocabulary Test 航空券の手配、必要書類に関する英語表現を学び、実践する 4 Unit2 Domestic Flight Check-in Vocabulary Test 国内線チェックインに必要な英語表現を学ぶ 5 Unit2 Domestic Flight Check-in Vocabulary Test 国内線チェックインに必要な英語表現を学び、実践する 6 Unit4 Airport Lounge Service Vocabulary Test ラウンジサービスに関する英語表現を学ぶ 7 Unit4 Airport Lounge Service Vocabulary Test ラウンジサービスに関する英語表現を学び、実践する 8 Unit7 Welcome Aboard Vocabulary Test 旅客搭乗案内に必要な英語表現を学ぶ 9 Unit7 Welcome Aboard Vocabulary Test 旅客搭乗案内に必要な英語表現を学び、実践する 10 Unit8 Before Takeoff Vocabulary Test 離陸前業務に必要な英語表現を学び、実践する 11 Unit12 Before Landing Vocabulary Test 到着前業務に必要な英語表現を学び、実践する 12 Presentation 機内アナウンス（プレゼンテーション） 筆記確認テスト 13 オンデマンド 音声課題の提出 14 オンデマンド 筆記課題の提出 15 オンデマンド 筆記課題の提出
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	○D：航空業界で役立つ英語表現を100程度理解し使用することができる。 ◎E：英語の接客ロールプレイングやアナウンスを、正確に、感じよく実施することができる。
事前・事後学習	事前の学習：授業時に出された指示に従い行うこと。 翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（30分） 事後の学習：毎週の小テストの勉強とアサインメントをきちんと行うこと。 ロールプレイングで使用するフレーズは暗記をすること。（60分）
指導方法	ほぼ毎回小テスト（オーラルか筆記）を行う。航空業界で使う特殊な用語もしっかりと身につくよう指導する。 人前でロールプレイングをする機会を多く設け、発音や所作についてもフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：毎回の小テスト、最終課題で評価する ◎E：授業時における機内アナウンスとロールプレイングで評価する 授業への貢献度・積極性 30% 小テスト 30% 機内アナウンス最終プレゼンテーション 20% 筆記課題 20%
テキスト	『Hospitality English』ANA総合研究所 2020年
参考書	授業内で適宜紹介する
履修上の注意	エアラインモデル希望の学生は必ず履修すること。 毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション ロールプレイング

講義科目名称： コンテンツビジネス論

授業コード： 2651

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
吉田和広			
ナンバリング：E36C49	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 本講義では、新たな成長産業として期待され、注目を集めているコンテンツビジネスについて学び、今後の動向について知り、最新事情を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。映像・音楽・書籍・アニメ・新聞・WEBなどのコンテンツを活用した各ビジネスの概要や実例などについて解説していきます。また、各メディアとコンテンツの関係や歴史、仕組みなど、抱えている問題などについても考察していきます。 （授業目標） コンテンツビジネスについての最新事情を自分の言葉で説明できる。 （学習成果） ◎D：メディアとコンテンツの関係性を認識し、各コンテンツビジネスの概要と仕組みについて種類と特性を理解することができる。 ○C：コンテンツビジネスの最新動向を把握し、説明することができる。興味あるビジネスモデルに対し新企画を提案できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表 2 コンテンツとメディア① (Google Classroom：ノート作成) ・コンテンツとは何か ・コンテンツの市場 ・なぜいまコンテンツなのか。 ・コンテンツツールイズムとは 3 コンテンツメディア② (Google Classroom：ノート作成) ・コンテンツの歴史 ・クールジャパン政策 ・韓国を事例にしたソフトパワー 4 放送業界① (Google Classroom：ノート作成) ・民間放送局のビジネスモデル ・番組の制作方法 5 放送業界② (Google Classroom：ノート作成) ・NHKのビジネスモデル ・番組の制作方法 6 放送業界③ (Google Classroom：ノート作成) ・テレビ視聴者の変化 ・民間放送局及びNHKの動画配信サービス ・テレビ業界の今後 7 配信系コンテンツ業界 (Google Classroom：ノート作成) ・Netflix ・Amazonプライム・ビデオ ・Disney+ ・テレビ局との関係性について 8 映画業界① (Google Classroom：ノート作成) ・映画業界のビジネスモデル ・映画の興行収入 ・映画製作委員会の一般化 9 映画業界② (Google Classroom：ノート作成) ・映画業界のこれから ・地域映画 ・日本フィルムコミッションの未来 10 アニメ＆マンガ業界 (Google Classroom：ノート作成) ・アニメーションのビジネスモデル ・日本アニメの海外市場 ・アニメーションの歴史 ・漫画雑誌の市場 ・WEBトゥーン（韓国）の進出 11 ゲーム業界 (Google Classroom：ノート作成)
------	--

	・ゲーム業界のビジネスモデル ・ゲームの歴史 ・大手ゲーム会社の動向 ・eスポーツの今後 12 音楽業界 (Google Classroom: ノート作成) ・音楽業界のビジネスモデル ・レコード会社の戦略 ・音楽出版社の未来 ・今後の展望について 13 ネットコンテンツ (Google Classroom: ノート作成) ・乱立するニュースサイト ・新聞業界のデジタル化 ・大手出版社が取り組むDX 14 コンテンツと著作権 (Google Classroom: ノート作成) ・著作権について ・著作権侵害とは ・マンガ村の事例など 15 課題発表と講義総括 (Google Classroom: ノート作成) (プレゼンテーション) ・自分が興味を持ったコンテンツビジネスに対する新企画提案 (ジャンル・タイトル・コンテンツの内容・ターゲット・制作費などA4判一枚にまとめる)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D: 各コンテンツビジネスの仕組みを知り、コンテンツビジネスが何故、成長産業として考えられているのかについて理解することができる。 ○C: 興味あるコンテンツを持ち、その分野について企画提案することができる。
事前・事後学習	事前学習: コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(120分) 事後学習: 毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(120分)
指導方法	講義は基本、パワーポイントを使用して進める。適宜、DVDなど視聴覚資料を利用する。一方通行な講義にならないよう適宜、グループワークや討論などを積極的に取り入れる。 第15回の講義中に、各々が興味を持ったコンテンツビジネスで実施可能な企画をA4判にまとめ1~2分でプレゼンする。また、コンテンツビジネスを理解しているかどうか、レポートで評価する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	課題発表とレポートで評価する。 ◎D: 提出されたレポートでコンテンツビジネスの理解度を評価する。 ○C: 提案された各コンテンツの企画プレゼン力で判断する。 授業態度・貢献度20%、課題発表30%、レポート50%
テキスト	テキストは使用しない。都度、講義において簡単なレジュメを配布する。
参考書	『メディア論』水越伸・飯田豊(放送大学教育振興会)、『アニメマンガで地域振興』山村高淑(一般社団法人地域発新力研究支援センター)
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション、日本のコンテンツビジネスにおける問題点を理解し、解決策を導くPBLの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
陸善			
ナンバリング：E26C48	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） この授業では、 韓国のドラマ、映画、音楽など、身近に触れられる文化コンテンツを通じて、 世界的に人気を集める韓流がどのように展開・発展してきたのかを、近現代の韓国社会の状況と照らし合わせながら客観的に考察する。 （授業目標） 韓国エンタメ産業や韓国文化について知識を深め、理解することができる。 （学習成果） ◎D：韓流ブームが4年を過ぎた現在も衰えることなく発展し続けている理由やその背景を、韓国の歴史や文化を含めた理解することができる。 ○E：日本でもよく知られている韓国のアイドルやドラマなどを題材に、文化の違いを理解し、それを踏まえた説得力のある説明を行うことができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 初回の授業では知っているようで知らない韓国の歴史や文化について、基本的な知識を紹介します。 また、授業の進み方や成績評価方法などについて説明します。 2 韓国社会や韓国人を理解する 韓流や韓国エンターテインメント産業をより深く理解するため、朝鮮半島の歴史を含め、韓国社会の変化や発展、韓国人の特徴について考察する。 3 韓国ドラマから見る韓流 韓国ドラマが国内でどのように発展し、変化してきたのかを学ぶ。さらに、韓国ドラマに見られる独特な情緒が、なぜアジア諸国だけでなく欧米諸国にも共感され、韓流が急速に拡大したのかを、韓国のエンターテインメント産業の変化や国の政策とともに考える。 4 オンデマンド授業1回目 レポート課題：自分が観た韓国ドラマまたは映画の中から一つを選び、その作品の特徴や見どころ、日本人に人気がある要素などについて、2000字以上でまとめなさい。 提出期間は前回の授業中に告知する。 5 K-POPから見る韓国エンタメの歴史① 現在のK-POPが形成されるまでの過程を理解するため、韓国の音楽の歴史を振り返り、韓国人にとって音楽とはどのような存在だったのかを考察する。 6 K-POPから見る韓国エンタメの歴史② 1980年代以降の韓国の音楽産業の発展を時代の流れに沿って考察する。また、K-POPがどのように成長してきたのかを、国の文化政策も含めて分析する。 7 韓国のアイドル文化とファン文化① 韓国で「アイドル」と呼ばれるアーティストが登場するまでの背景を理解し、韓国社会におけるアイドルへの理想や期待を、韓国特有の歴史や社会状況と関連づけて考察する。また、日本と韓国におけるアイドルの認識の違いについても議論する。 8 韓国のアイドル文化とファン文化② 例えばBTSの「ARMY」のように、アイドルのファンは単なる支持者にとどまらず、国境を越える影響力を持つ。この授業では、K-POPのグローバル化とともに注目されるファン文化について考察する。 9 オンデマンド授業2回目 レポート課題：自分か観た韓国と日本のファン文化の違いを具体的な例を挙げ2000字以上でまとめなさい。提出期間は前回の授業中に告知する。 10 専門家と語る韓国エンタメの現場 韓国エンターテインメント業界で活躍する専門家を招き、アイドルの発掘から育成までのプロセスについて話を伺う。 11 韓国のサブカルチャーとエンターテインメント 現在、世界的に人気を集める韓国ドラマの多くが、漫画や小説を原作としている。本授業では、韓国の漫画・アニメーションの歴史を踏まえ、現状を理解するとともに、韓国コンテンツとしての可能性について考察する。また、漫画・アニメ大国である日本のサブカルチャーが韓国に与えた影響について議論する。 12 オンデマンド授業3回目 発表課題：好きな韓国のコンテンツの一つを選び、日本はもちろん、世界のエンタメ産業で成功した理由について、後期最後の授業で発表しなさい。
------	---

	発表のテーマは、アイドルグループ、俳優、ドラマなどジャンルを問わない 発表の形式については、前回の授業中に告知する。 13 韓流から見る若者文化 中年層を中心にドラマから始まった韓流は、K-POP、映画、K-ビューティーへと広がり、現在では10～20代の若者にも大きな影響を与えている。この授業では、韓国文化が韓国国内のみならず、日本や世界の若者たちにどのような影響を与えているのかを考察する。 14 韓国の文化政策とエンターテインメント この授業では、これまでの授業で身につけた知識を踏まえ、韓国の文化政策がエンターテインメント産業に与える影響について考察する。さらに、韓国と日本のエンターテインメント産業の違いを比較し、それぞれの特徴や発展の背景を分析する。将来的に両国のエンターテインメント産業がどのように発展し、相互に影響を与えていくのかについても議論を深める。 15 オンデマンド授業3回目の課題発表 発表を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：◎D：韓国エンターテインメント対し理解を深めることで、他のビジネスにおいても転用可能であることを理解することができる。 ○E：授業で理解できなかった点や疑問がある場合は、クラスメイトと意見を交換したり、講師に質問するなどして、自ら解決に努める。
事前・事後学習	事前学習：シラバスを確認し、次回の講義で扱う内容について自分なりに考えるなど、予習をしておく。 事後学習：授業で理解できなかった事や質問がある場合には、クラスメイトと意見交換したり、講師に質問するなど自ら解決する。
指導方法	基本的には講師が用意したパワーポイントを使用して進めるが、必要に応じて視聴覚資料も活用する。 授業の最後には時間を設け、簡単な課題に取り組んでもらう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：毎回の課題によって評価を行う。 ○E：オンデマンド授業で提出される課題と、最終授業での発表によって評価を行う。 出席40%、課題40%、発表20%
テキスト	特になし。
参考書	
履修上の注意	出席することが大事。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： ヨーロピアン スタディーズ

授業コード： 2281 2282

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
Rossi Erika			
ナンバリング：E13C15（1年生）	ナンバリング：E13C18（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファッションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めヨーロッパ地域に対する理解を高める。 （授業の目標） イタリア文化について知識を得ることによって実践的に異文化を知り国際コミュニケーションに取り組む。 （学習成果） ◎C：異文化コミュニケーションの課題を自ら見つけその解決に向けて説得力のある提案を提示することができる。 ○D：提示された課題に対して、適切な情報を収集し、知識を活かして新しい視点から物事を考えることができる。		
授業計画	1	地理（グループディスカッション） イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	2	歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ	
	3	宗教 1（グループディスカッション） キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	4	宗教 2（グループディスカッション） 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	5	教育（グループディスカッション） イタリアの教育（学校）制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	6	食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史について学ぶ：イタリアの食文化とイタリア人の食生活	
	7	芸術 1（グループディスカッション） イタリア絵画の歴史。古代ローマからルネッサンスまで代表作品を紹介し、理解するための世界観・概念を説明する 各グループでグループディスカッションを行う	
	8	芸術 2（グループディスカッション） イタリア絵画の歴史の続き。バロックから現代まで：各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品について考察する 各グループでグループディスカッションを行う	
	9	オペラ（グループワーク） 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ。最終回に提出するオペラから着想を得たプロジェクト企画を考える 各グループでグループディスカッションを行う	
	10	経済（グループディスカッション） イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	11	国民性（グループワーク） イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ 各グループで異文化コミュニケーションのシミュレーションを実施する	
	12	ファッション イタリアの服飾の歴史。有名なファッションブランドの奥深さについて考察する グループワークでそれぞれのブランドの特徴を引き出し文化との関連性において考える	
	13	映画（オンライン） イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 オンラインで鑑賞した映像に対する感想を求めグループディスカッションを行う	

	14 復習（オンライン） グループで復習し、ゲーム化で知識確認を行う 15 プロジェクト発表（オンライン） 第9回で取り上げたオペラの鑑賞（一部・映像）に基づいたプロジェクトの提出 各グループからコメントをもらう
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：事実と主観を区分し、異文化に対する共感を磨くことができる。 ○D：異文化に対して、自ら学び理解を深めることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示された資料を振り返って感想文をまとめる。（約90分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題するグループワークを行うため、前回の授業の復習を行うこと。（約90分）
指導方法	イタリアをはじめとするヨーロッパ地域に行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真・動画等の資料を多く活用する。 一方的な講義ではなく、グループワーク、討論などを積極的に取り入れる。 授業の始めに、グループワークとして前回の授業内容から出題する復習を行う。 フィードバックとして、提出した課題にコメントをする。それに質疑応答の時間を儲けて講義内容に対しての疑問や不明点をその場で解く。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：課題提出を評価する。 ○D：プレゼンを評価する。 事前課題40%、プレゼン30%、授業態度・貢献度30% *異文化コミュニケーションの基盤としているのでグループワークとグループディスカッションへの積極的参加を評価する。 プレゼンは一枚による。自分のアイデアを明確にまとめられるかを評価する。
テキスト	テキスト：『古代ローマ人の24時間よみがえる帝都ローマの民衆生活』アルベルト・アンジェラ 著関口 英子 訳、河出文庫 ISBN-10. 4309225314 と授業でPPTのスライドや視覚資料を使用する。
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスする。
履修上の注意	イタリア文化をはじめとするヨーロッパ地域に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを配布し、この授業に関しての重要な説明も行います。必ず初回の授業から参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価に反映される。 受講者の問題意識の程度等により、授業計画が一部変更される場合がある
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション